

青森県立高等学校将来構想検討会議（第5回）資料

これまでの高等学校教育改革の検証資料

平成27年9月25日

# 目次

本資料の目的.....	1
第1 中学校卒業後の進路・高校卒業後の進路.....	2
1 中学校卒業後の進路等.....	2
(1) 中学校卒業後数と高校進学率の推移.....	2
(2) 中学校卒業後の進路意識.....	2
2 高校卒業後の進路.....	4
第2 学校・学科の在り方.....	6
1 青森県立高等学校の概要.....	6
2 全日制課程.....	8
(1) 普通科等.....	8
(2) 職業教育を主とする専門学科.....	20
(3) 総合学科.....	32
3 定時制課程・通信制課程.....	36
(1) 定時制課程.....	36
(2) 通信制課程.....	42
4 多様な教育制度.....	44
(1) 全日制普通科単位制.....	44
(2) 中高一貫教育.....	46
(3) 総合選択制（複数学科設置校）.....	50
(4) 複数学科設置校.....	52
(5) くくり募集.....	53
第3 学校規模・配置.....	54
1 県立高等学校の配置状況.....	54
2 学校規模の状況.....	55
3 通学に関する意識.....	58
4 学校配置の状況.....	60
(1) 普通科等・職業教育を主とする専門学科・総合学科の割合.....	60
(2) 校舎制導入校の状況.....	62
(3) 統合の状況.....	63
第4 高校の満足度等.....	64

## 本資料の目的

青森県教育委員会では、社会の変化や中学校卒業予定者数の減少等、高等学校教育を取り巻く環境が大きく変化する中において、子どもたちが夢を育み、進路実現に向けた高等学校教育を受けることができるよう、平成12年度以降、高等学校教育改革実施計画を策定し、様々な改革に取り組んできた。

現在取り組んでいる第3次実施計画が平成29年度で終了することを踏まえ、平成26年度に青森県立高等学校将来構想検討会議を設置し、平成30年度以降の県立高等学校の在り方を検討いただいているところである。

検討を進めるに当たって、各委員から、「高等学校教育を取り巻く環境は絶えず変化しており、社会や生徒のニーズもさらに多様化していることから、これまでの高等学校教育改革の取組についての検証を踏まえることが重要である」との意見があったことを踏まえ、検討会議において検証のための様々な資料を提示している。

具体的には、中学生、高校生、保護者、教員、市町村教育委員会関係者、企業関係者を対象とした「高等学校教育に関する意識調査」、多様な教育制度を取り入れている高等学校における「アンケート調査」、中学校卒業生や高等学校卒業生の進路の動向等に関する資料等を提示し、これらを踏まえ検討が重ねられている。

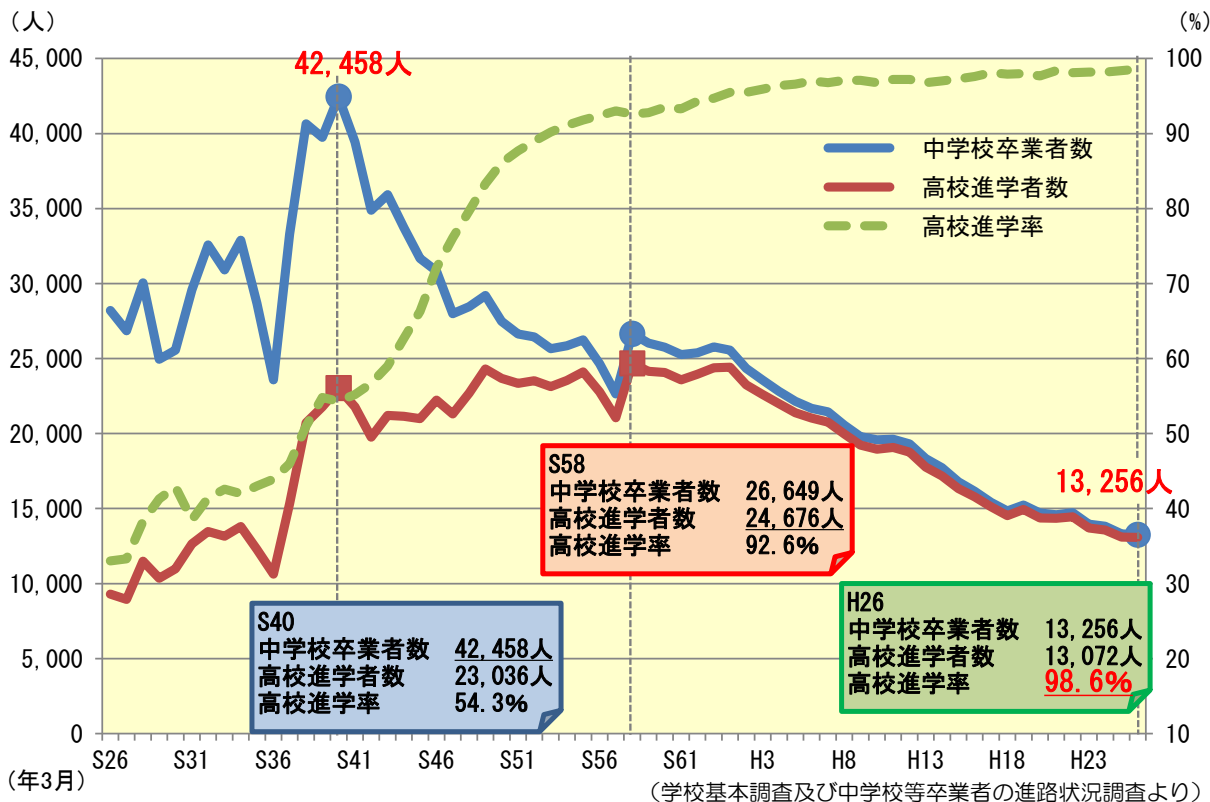
本資料は、これまで青森県立高等学校将来構想検討会議に提示してきた次の資料等の一つにまとめることにより、平成28年1月の答申に向けた検討の参考にしていただくためのものである。

- ① 高等学校教育に関する意識調査（平成26年8～9月実施）
- ② 多様な教育制度等に対するアンケート調査（平成26年7月実施）
- ③ 県高等学校長協会への意見照会（平成26年7月～平成27年2月実施）
- ④ 県小学校長会及び県中学校長会への意見照会（平成26年7月～8月実施）
- ⑤ 中学校等卒業予定者の進路志望状況（第一次調査）（毎年11月実施）
- ⑥ 中学校等卒業生の進路状況（毎年5月1日現在で実施）
- ⑦ 高等学校等卒業生の進路状況（毎年5月1日現在で実施）

# 第1 中学校卒業後の進路・高校卒業後の進路

## 1 中学校卒業後の進路等

### (1) 中学校卒業後数と高校進学率の推移



中学校卒業後数は、昭和40年の42,458人がピークで、平成26年には13,256人とピーク時の約3割に減少した。  
 高校進学者数は、昭和58年の24,676人がピークで、平成26年には13,072人とピーク時の約半数に減少した。  
 高校進学率は年々上昇し、平成26年は98.6%となった。

### (2) 中学校卒業後の進路意識

#### ① 中学校卒業後の進路希望

調査年度	中学生		中学生保護者		小学生保護者	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9
回答者数(人)	954	998	955	969	454	493
就職	0.3	0.3	0.2	0.2	0.9	0.0
高校進学	92.5	90.7	95.9	96.8	92.3	96.3
その他進学	2.4	3.2	1.8	2.3	2.0	1.8
その他	4.8	5.8	2.0	0.7	4.8	1.8

(高等学校教育に関する意識調査より)

「高校進学」がいずれの対象者でも9割以上となった。

#### ② 進学したい高校の課程

調査年度	中学生		中学生保護者		小学生保護者	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9
回答者数(人)	882	905	916	938	419	475
全日制の高校	94.8	90.4	99.2	81.7	98.3	85.7
定時制の高校	3.6	5.3	0.0	0.0	0.7	0.2
通信制の高校	1.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.6	3.0	0.8	18.3	1.0	14.1

(高等学校教育に関する意識調査より)

「全日制の高校」がいずれの対象者でも9割以上であり、平成9年度調査と比較すると、中学生保護者、小学生保護者では10ポイント以上増加した。

③進学したい高校の学科 (％)

調査年度	中学生		中学生保護者		小学生保護者	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9
回答者数(人)	882	905	916	938	419	475
普通科	63.0	60.2	59.2	62.5	49.2	60.4
農業に関する学科	1.7	0.7	0.5	1.0	0.2	0.2
工業に関する学科	8.4	10.9	7.6	10.4	8.4	5.7
商業に関する学科	2.2	5.6	3.7	3.6	1.4	4.0
水産に関する学科	0.1	0.4	0.2	0.0	0.5	0.6
家庭に関する学科	2.3	1.5	0.4	0.7	0.2	0.8
看護科(衛生看護科)	1.2	2.2	1.3	2.2	1.4	1.1
情報科	1.4		0.9		0.5	
福祉科	0.9	1.8	0.5	2.0	0.5	2.7
理数科	0.5	2.7	0.8	1.8	0.5	1.9
人文学科		0.6		0.1		0.2
スポーツ科学科	2.6		1.6		1.0	
音楽科	0.3	0.9	0.2	0.2	0.2	0.4
英語科	0.5	2.2	0.2	1.2	0.2	1.5
外国語科	0.1		0.2		0.2	
表現科	0.3		0.1		0.2	
総合学科	1.5	1.0	2.4	1.8	1.0	2.5
その他の学科	1.1	0.2	0.5	0.2	0.7	0.2
特に希望する学科はない	3.6	2.0	12.7	4.7	15.5	6.5
わからない	7.4	5.4	4.8	2.8	14.3	7.6
無回答	0.9	1.7	2.0	4.7	3.8	3.6

(高等学校教育に関する意識調査より)

「普通科」がいずれの対象者でも最も多くなった。中学生保護者、小学生保護者では、平成9年度調査と比較して、「特に希望する学科はない」「わからない」が増加した。

④現在学んでいる学科ははじめから希望していた学科か (％)

調査年度	高校生		高校生保護者	
	H26	H9	H26	H9
回答者数(人)	965	998	955	983
はじめから希望していた	84.5	75.7	87.2	64.8
本当は他の学科を希望していた	6.3	10.0	6.7	14.8
特に希望していた学科はなかった	8.6	14.3	5.2	19.8
無回答	0.6	0.0	0.8	0.6

(高等学校教育に関する意識調査より)

「はじめから希望していた」の割合は、高校生、高校生保護者とも8割を超えた。平成9年度調査と比較して高校生で8.8ポイント、高校生保護者で22.4ポイント増加した。

⑤現在学んでいる高校ははじめから希望していた学校か (％)

調査年度	高校生		高校生保護者	
	H26	H9	H26	H9
回答者数(人)	965	998	955	983
はじめから希望していた	72.2	58.5	75.8	53.5
本当は他の高校を希望していた	20.3	27.5	19.7	26.2
特に希望していた高校はなかった	6.1	12.0	3.0	14.0
無回答	1.3	2.0	1.5	6.2

(高等学校教育に関する意識調査より)

「はじめから希望していた」の割合は、高校生、高校生保護者とも7割を超えた。平成9年度調査と比較して高校生で13.7ポイント、高校生保護者で22.3ポイント増加した。

⑥募集人員を増やして欲しい学科

(複数回答：%)

調査年度	高校生		高校生保護者		中学生保護者		小学生保護者	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9
回答者数(人)	965	998	955	983	955	969	454	493
普通科	54.3	40.2	34.7	26.7	42.7	34.3	44.7	34.9
農業に関する学科	12.6	12.4	10.7	7.7	9.7	8.8	12.3	7.9
工業に関する学科	19.9	21.4	19.7	15.6	20.3	19.1	21.4	19.3
商業に関する学科	13.9	17.0	13.4	13.4	22.3	14.8	15.4	16.2
水産に関する学科	4.6	5.4	3.5	4.2	2.7	5.2	2.2	5.5
家庭に関する学科	6.1	11.6	7.1	10.6	5.7	10.1	7.0	10.3
看護科(衛生看護科)	20.5	26.4	35.7	34.3	29.1	32.7	35.0	36.3
理数科	7.5	14.3	8.0	11.3	10.8	14.9	10.6	17.2
人文学科		9.9		5.7		4.4		4.7
スポーツ科学科	11.7		11.4		16.5		14.3	
英語科	13.0	27.4	17.9	36.8	19.8	42.9	20.3	43.6
外国語科	15.2		22.5		20.3		24.0	
表現科	5.1		2.9		3.9		5.3	
総合学科	15.9	19.1	27.4	28.5	30.2	32.4	31.3	30.0
その他の学科		2.3		1.6		1.3		1.0
わからない		14.5		12.8		10.4		9.9
無回答	2.2	0.7	5.3	2.1	2.9	1.9	3.7	0.6

(高等学校教育に関する意識調査より)

募集人員を増やして欲しい学科としては「普通科」が多く、いずれの対象者でも平成9年度調査よりも増加した。

2 高校卒業後の進路

①高校卒業後の進路希望

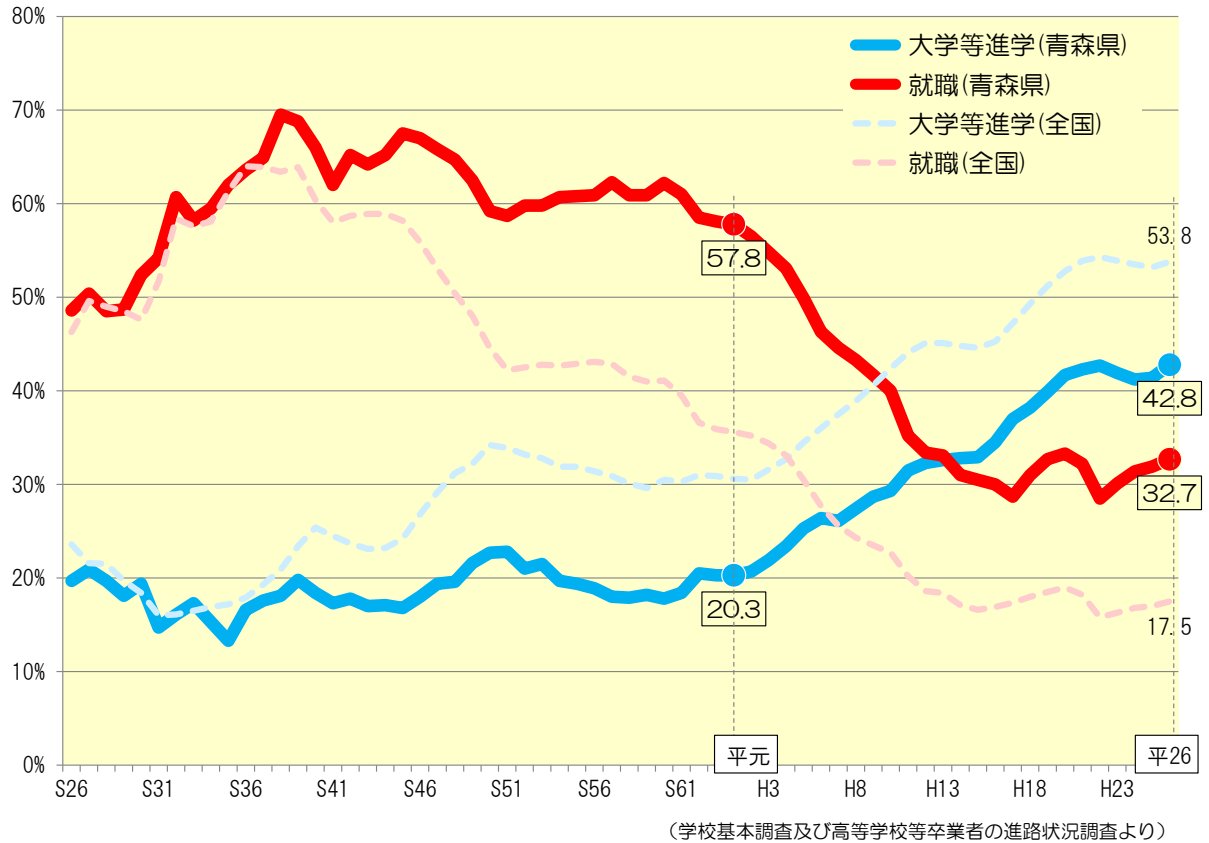
(%)

調査年度	中学生		高校生		高校生保護者		中学生保護者		小学生保護者	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9
回答者数(人)	882	905	965	998	955	983	916	938	419	475
大学・短大進学	51.6	37.3	52.7	37.5	50.5	41.9	47.5	44.3	45.6	45.1
専修学校等進学	12.4	17.1	10.7	17.0	15.0	15.4	13.6	13.2	13.8	13.5
就職	20.0	24.4	27.4	30.8	23.0	22.6	16.0	15.0	12.6	13.3
その他	0.8	0.1	2.7	0.2	3.7	3.1	3.9	1.8	3.6	2.7
まだ考えていない	14.1	20.7	6.0	13.5	4.9	16.3	16.0	24.3	21.7	24.8
無回答	1.2	0.3	0.5	1.0	2.9	0.8	2.8	1.3	2.6	0.6

(高等学校教育に関する意識調査より)

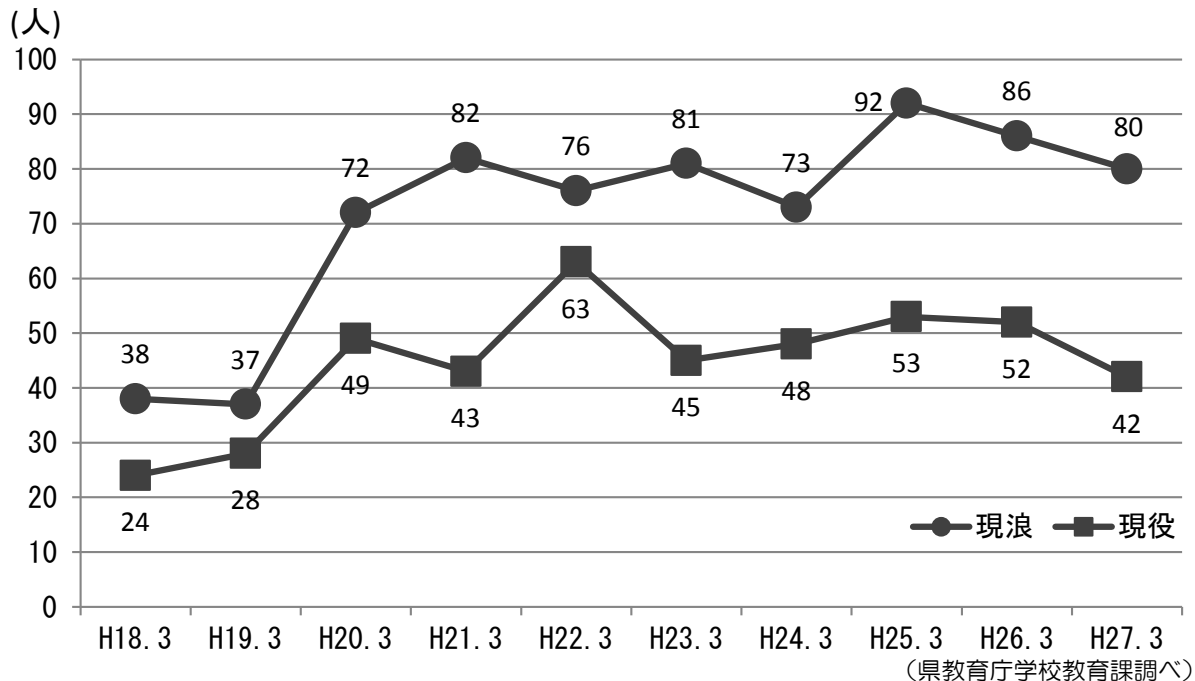
「大学・短大進学」の割合が最も高く、いずれの対象者でも平成9年度調査よりも増加した。

## ②高校卒業後の進路状況



平成13年に「大学等進学」と「就職」が逆転し、平成26年は「大学等進学」が42.8%、「就職」が32.7%となった。

## ③医学部医学科合格者数の推移



現役・浪人を合わせた医学部医学科合格者数は、平成19年3月までは40人弱であったが、医師を志す高校生を支援する取組により、平成20年3月以降は毎年70人以上を維持している。

## 第2 学校・学科の在り方

### 1 青森県立高等学校の概要

#### 【課程の種類】

全日制の課程	通常の課程
定時制の課程	夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
通信制の課程	通信による教育を行う課程

(学校教育法第4条)

#### 【学年制と単位制】

学年制	学年ごとに教育課程の修了の認定を受けて学習していく制度
単位制	学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度

#### 【県立高等学校の設置状況（平成27年度）】

		課程・学科等		東青	西北	中南	上北	下北	三八
全日制	学年制	普通科等	普通科	青森 青森西 青森東・平内 青森北 青森北・今別 青森南 浪岡	五所川原 金木 鱒ヶ沢 板柳 鶴田 中里	弘前 弘前中央 岩木 黒石	三本木 十和田西 三沢 野辺地 六戸 百石 六ヶ所	田名部 大湊・川内 大間	八戸 八戸東 八戸北・南郷 八戸西 三戸 五戸 田子
			理数科		五所川原				
			英語科				三沢	田名部	
			外国語科	青森南					
			スポーツ科学科	青森北		弘前実業			八戸西
		表現科						八戸東	
		職業教育を主とする専門学科	農業科		五所川原農林	柏木農業 弘前実業 弘実・藤崎	三本木農業		名久井農業
			工業科	青森工業	五所川原工業	弘前工業	十和田工業	むつ工業	八戸工業
			水産科(専攻科 <sup>※1</sup> )						八戸水産
			商業科	青森商業		弘前実業 黒石商業	十和田西 三沢商業		八戸商業
	家庭科				弘前実業	百石			
	看護科(専攻科 <sup>※1</sup> )			黒石					
	単位制	普通科	青森東		弘前南			八戸北	
総合学科		青森中央	木造 木造・深浦		七戸	大湊			
定時制	3部制 <sup>※2</sup>	普通科	北斗					八戸中央	
		総合学科			尾上総合				
	夜間	普通科		五所川原	黒石	三沢	田名部		
		工業科	青森工業		弘前工業			八戸工業	
通信制	単位制	普通科	北斗		尾上総合		八戸中央		



※1 専攻科 … 高等学校を卒業した者が、より専門性の高い知識や高度な技術を身に付けることを目的として、本県では看護科と水産科に設置。

※2 3部制の定時制の課程 … 午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行い、仕事の時間や学習スタイルに合わせて、他の部の授業を受けることなどにより3年での卒業も可能。

【多様な教育制度の導入校（再掲）】

①全日制普通科単位制…44頁参照

青森東高等学校、弘前南高等学校、八戸北高等学校

②中高一貫教育校…46頁参照

ア 併設型中高一貫教育校

三本木高等学校（附属中学校）

イ 連携型中高一貫教育校

田子高等学校（田子町立田子中学校）

③総合選択制…50頁参照

弘前実業高等学校

6地区毎に普通科等の高校と職業教育を主とする専門学科の高校を配置するとともに、地区の状況に応じて総合学科の高校を配置している。

（参考：私立高等学校）

課程・学科等		東青	西北	中南	上北	下北	三八	
全日制	普通科等	普通科	東奥学園 青森山田 青森明の星 松風塾	五所川原第一	東奥義塾 弘前学院聖愛 柴田女子 弘前東		八戸聖ウルスラ学院 八戸学院光星 向陵 八戸工業大学第一 八戸工業大学第二	
		英語科	青森明の星				八戸聖ウルスラ学院	
		音楽科	青森明の星				八戸聖ウルスラ学院	
	職業教育を主とする専門学科	工業科	青森山田		弘前東			八戸学院光星 八戸工業大学第一
		商業科	青森山田	五所川原商業	柴田女子			千葉学園 八戸学院光星
		家庭科	東奥学園 青森山田		柴田女子			千葉学園 八戸学院光星
		情報科	東奥学園					
		福祉科	東奥学園					八戸学院光星
		看護科						千葉学園
		単位制	総合学科				八戸学院野辺地西	
通信制	普通科	東奥学園 青森山田	五所川原第一					

## 2 全日制課程

### (1) 普通科等

#### ①普通科

#### 【大学科の概要】

普通教育を主とする学科。国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報などの教科・科目を中心に学習する。

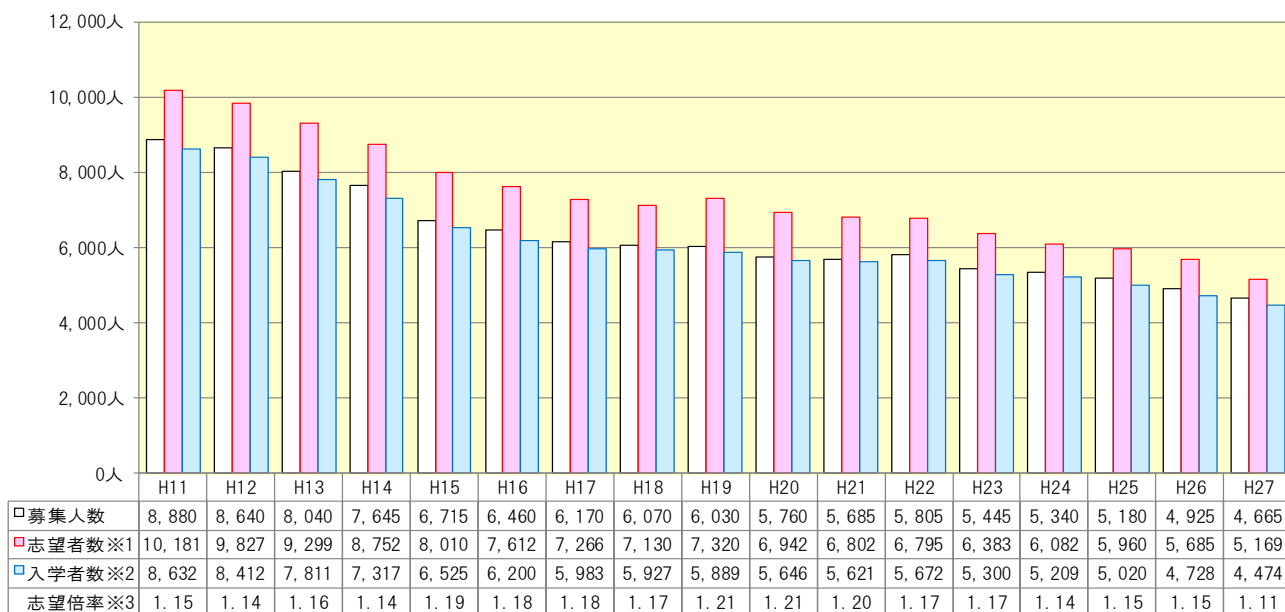
#### 【学科改編等の状況】

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
七戸・八甲田	普通科	—	H21	募集停止 (H22年度末閉校)
青森戸山	普通科	—	H23	募集停止 (H24年度末閉校)
弘前南・大鰐	普通科	—	H23	募集停止 (H24年度末閉校)
八戸南	普通科	—	H23	募集停止 (H24年度末閉校)
田名部・大畑	普通科	—	H25	募集停止 (H26年度末閉校)
岩木	普通科	—	H27	募集停止 (H28年度末閉校予定)
八戸北・南郷	普通科	—	H27	募集停止 (H28年度末閉校予定)

#### 【平成27年度現在の設置状況】

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
学年制	青森 青森西 青森東・平内 青森北 青森北・今別 青森南 浪岡	五所川原 金木 鱒ヶ沢 板柳 鶴田 中里	弘前 弘前中央 岩木 黒石	三本木 十和田西 三沢 野辺地 六戸 百石 六ヶ所	田名部 大湊・川内 大間	八戸 八戸東 八戸北・南郷 八戸西 三戸 五戸 田子
単位制	青森東		弘前南			八戸北

#### 【志願・入学状況】



(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

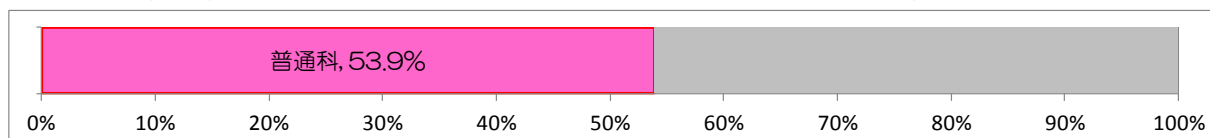
※1 志望者数は、中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)(前年11月実施)の志望者数

※2 入学者数は、5月1日現在の第1学年の在籍生徒数

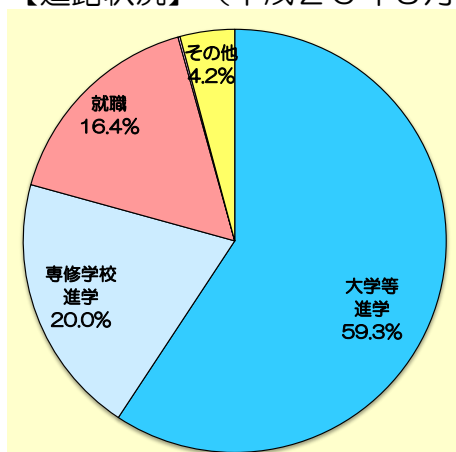
※3 志望倍率は、募集人数に対する中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)(前年11月実施)の志望者数の割合

(以下、他学科も同じ)

#### 【全日制課程卒業者に占める普通科の割合】(平成26年3月卒業者)



## 【進路状況】（平成26年3月卒業者）



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
5,088	3,016	1,018	834	8	212

（学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より）  
 ※「大学等進学」とは、大学、短期大学、放送大学、高等学校専攻科等への進学。  
 「専修学校進学」とは、専修学校、各種学校、公共職業能力開発施設等への進学。  
 「その他」とは、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者、進路が未決定の者等。

（以下、他学科も同じ）

## 【大学等進学】（平成26年3月卒業者）

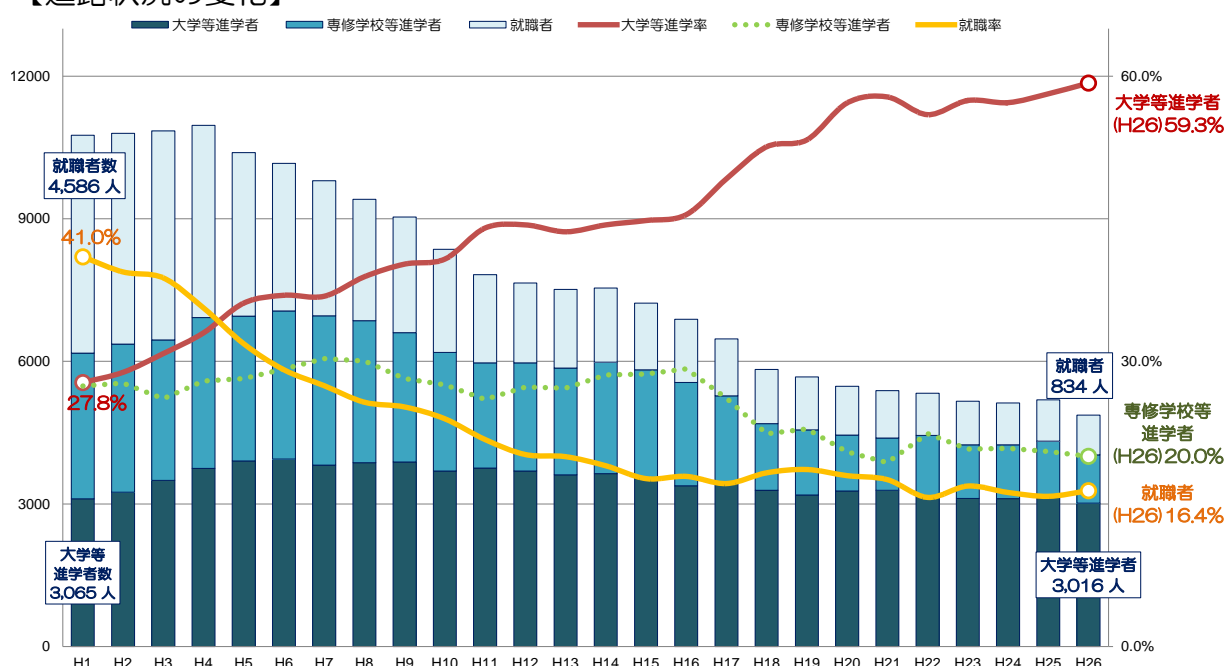


## 【就職】（平成26年3月卒業者）



※進学しかつ就職した者を含む

## 【進路状況の変化】



■ 全日制課程の生徒数の半数以上を占める普通科は、大学等進学が約6割となっている。進学先、就職先とも幅広い分野にわたっている。

## ②理数科

### 【大学科の概要】

科学及び数学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的、数学的に考察し表現する能力と態度を育て、創造的な能力を高めることを目指す学科。

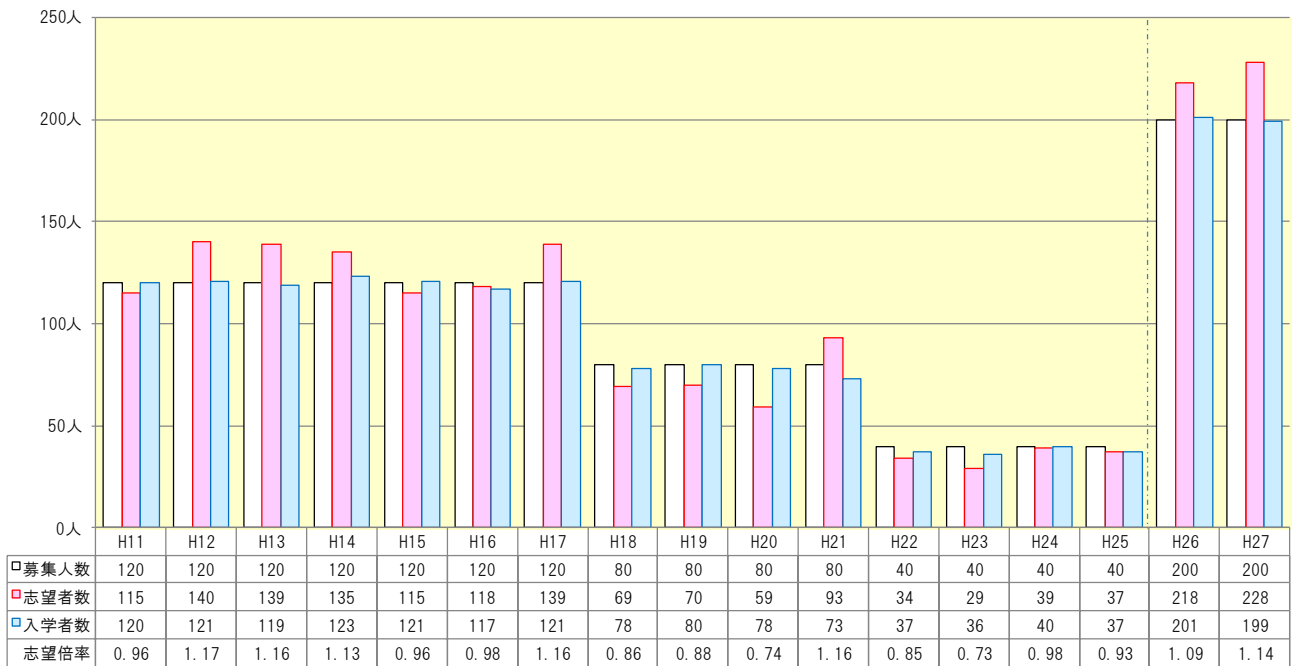
### 【学科改編等の状況】

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
八戸北	理数科	—	H19	普通科に転換(S44～H20)
三本木	理数科	—	H22	普通科に転換(S48～H24)
五所川原	理数科	理数科	H26	普通科とくくり募集

### 【平成27年度現在の設置状況】

学科等	東青	西北	中南	上北	下北	三八
理数科		五所川原 (H7～)				

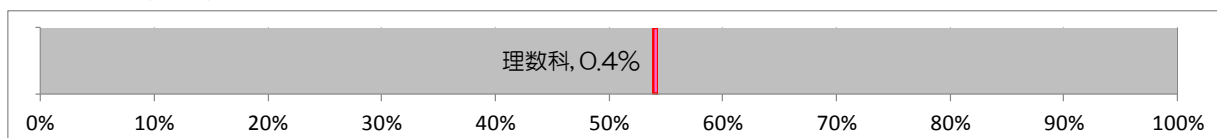
### 【志願・入学状況】



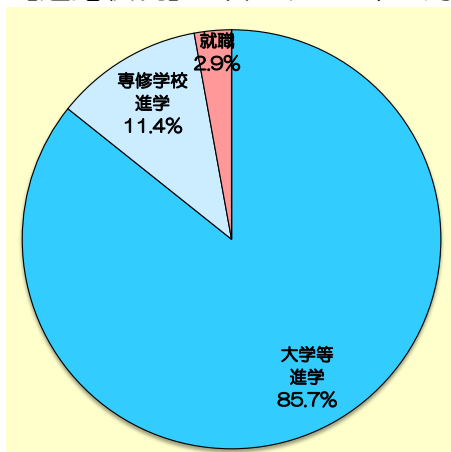
(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

※平成26年度から普通科とのくくり募集

### 【全日制課程卒業者に占める理数科の割合】



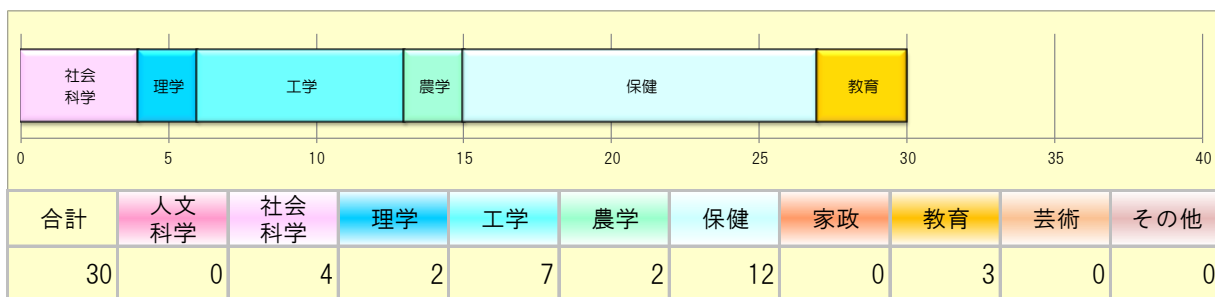
【進路状況】（平成26年3月卒業者）



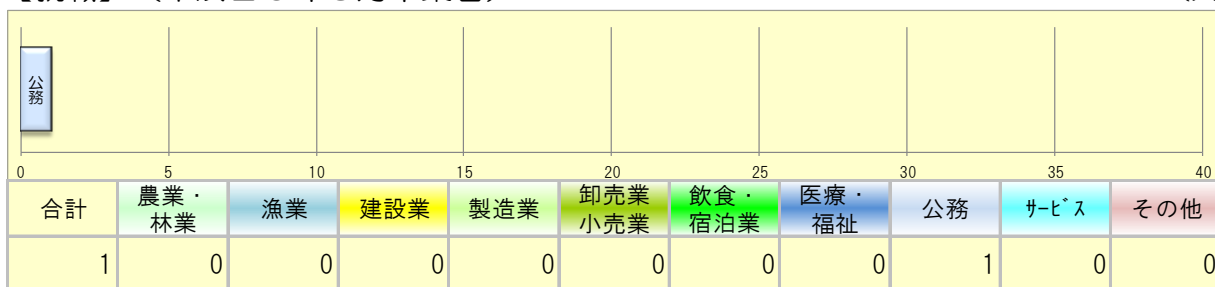
卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
35	30	4	1	0	0

（学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より）

【大学等進学】（平成26年3月卒業者）

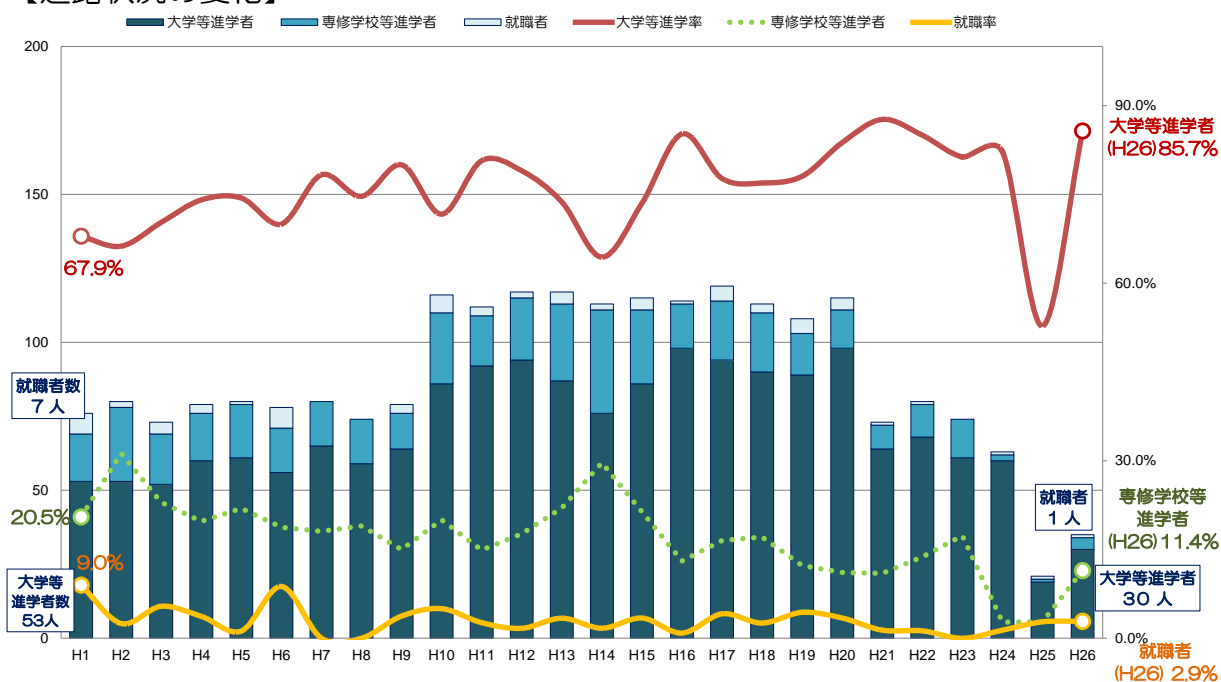


【就職】（平成26年3月卒業者）



※進学しかつ就職した者を含む

【進路状況の変化】



全日課程の生徒数の0.4%を占める理数科は、大学等進学が8割を超えている。進学先は、理学、工学、農学、保健等の理系分野が中心となっている。

### ③英語科・外国語科

#### 【大学科の概要】

英語などの外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うことを目指す学科。

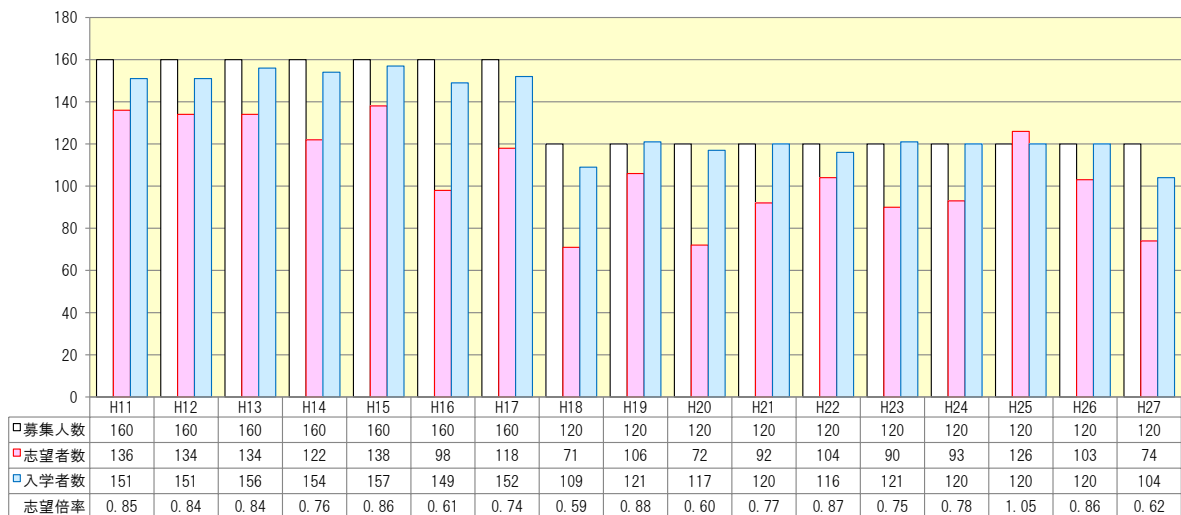
#### 【学科改編等の状況】

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
黒石	英語科	—	H19	普通科に転換(H6～H20)

#### 【平成27年度現在の設置状況】

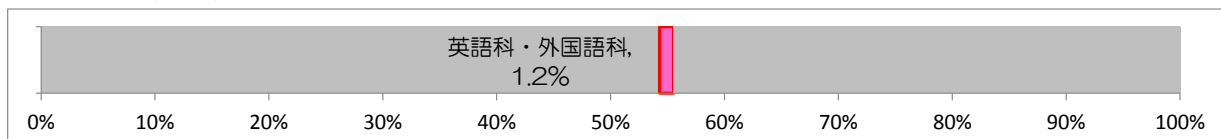
学科等	東青	西北	中南	上北	下北	三八
英語科				三沢 (H5～)	田名部 (H7～)	
外国語科	青森南 (H6～)					

#### 【志願・入学状況】

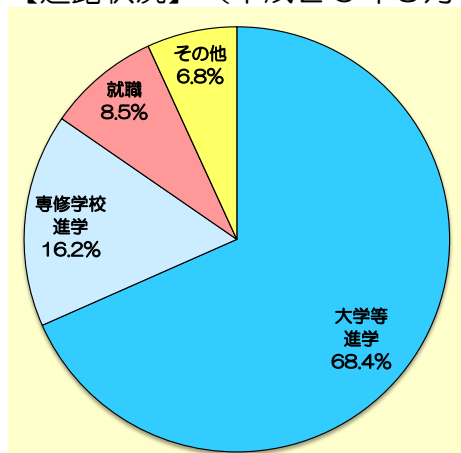


(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

#### 【全日制課程卒業者に占める英語科・外国語科の割合】



【進路状況】（平成26年3月卒業生）



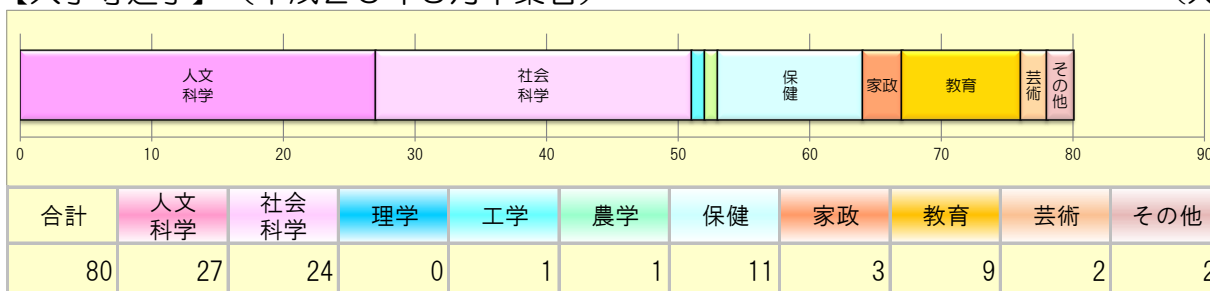
(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
117	80	19	10	0	8

(学校基本調査及び高等学校等卒業生の進路状況調査より)

【大学等進学】（平成26年3月卒業生）

(人)



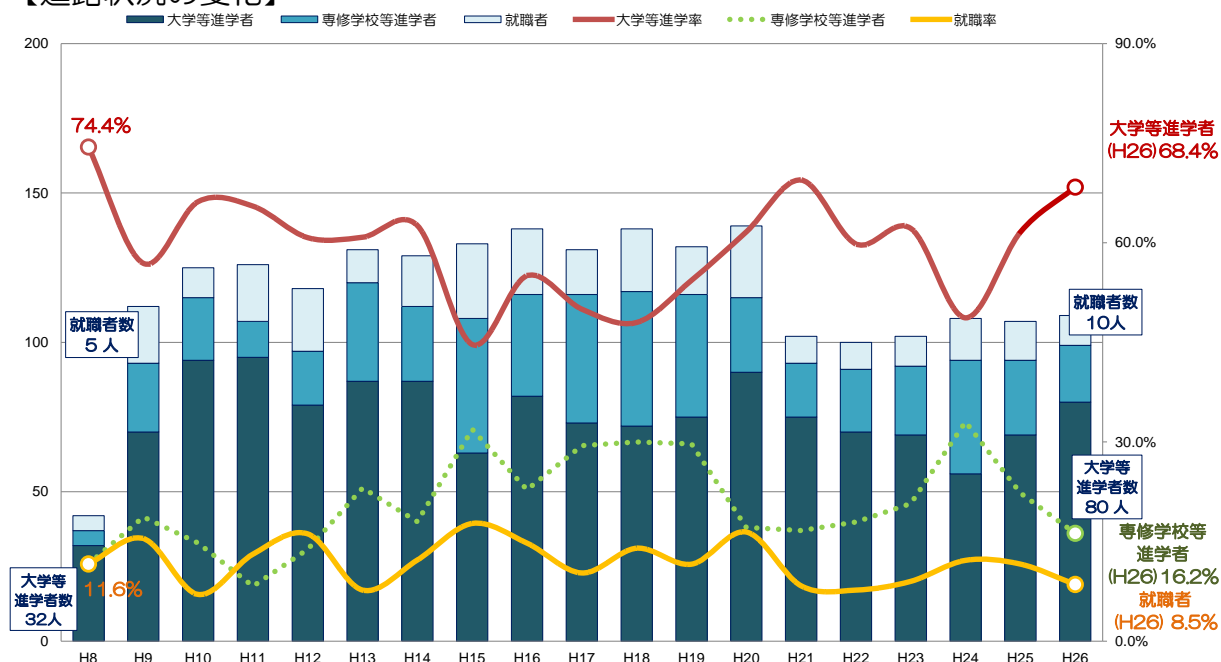
【就職】（平成26年3月卒業生）

(人)



※進学しかつ就職した者を含む

【進路状況の変化】



全日制課程の生徒数の1.2%を占める英語科・外国語科は、大学等進学が約7割となっている。進学先は、人文科学、社会科学等の文系分野が中心となっている。

#### ④スポーツ科学科

##### 【大学科の概要】

心と体を一体としてとらえ、スポーツについての専門的な理解及び高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることを目指す学科。

##### 【平成27年度現在の設置状況】

学科等	東青	西北	中南	上北	下北	三八
スポーツ科学科	青森北 (H12～)		弘前実業 (H13～)			八戸西 (H13～)

##### 【志願・入学状況】



(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

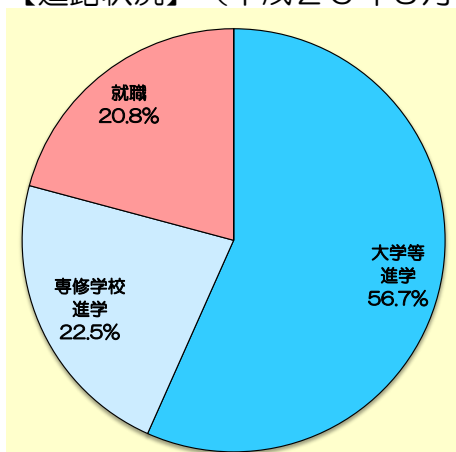
※平成12年度設置

##### 【全日課程卒業者に占めるスポーツ科学科の割合】





【進路状況】（平成26年3月卒業生）

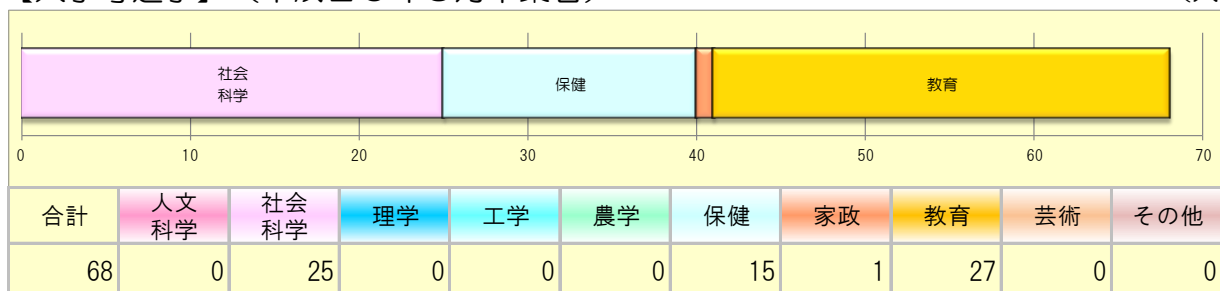


(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
120	68	27	25	0	0

（学校基本調査及び高等学校等卒業生の進路状況調査より）

【大学等進学】（平成26年3月卒業生）

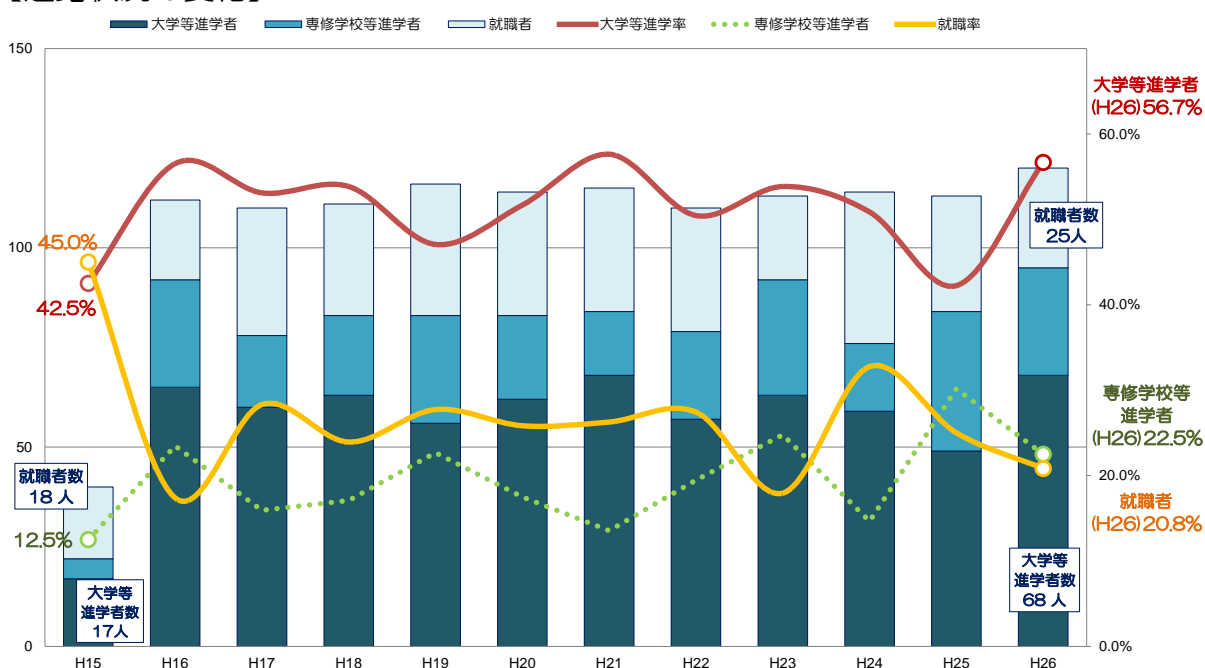


【就職】（平成26年3月卒業生）



※進学しかつ就職した者を含む

【進路状況の変化】



全日制課程の生徒数の1.3%を占めるスポーツ科学科は、大学等進学が約半数となっている。進学先は、社会科学、保健、教育が中心となっており、就職先では公務が中心となっている。

⑤表現科

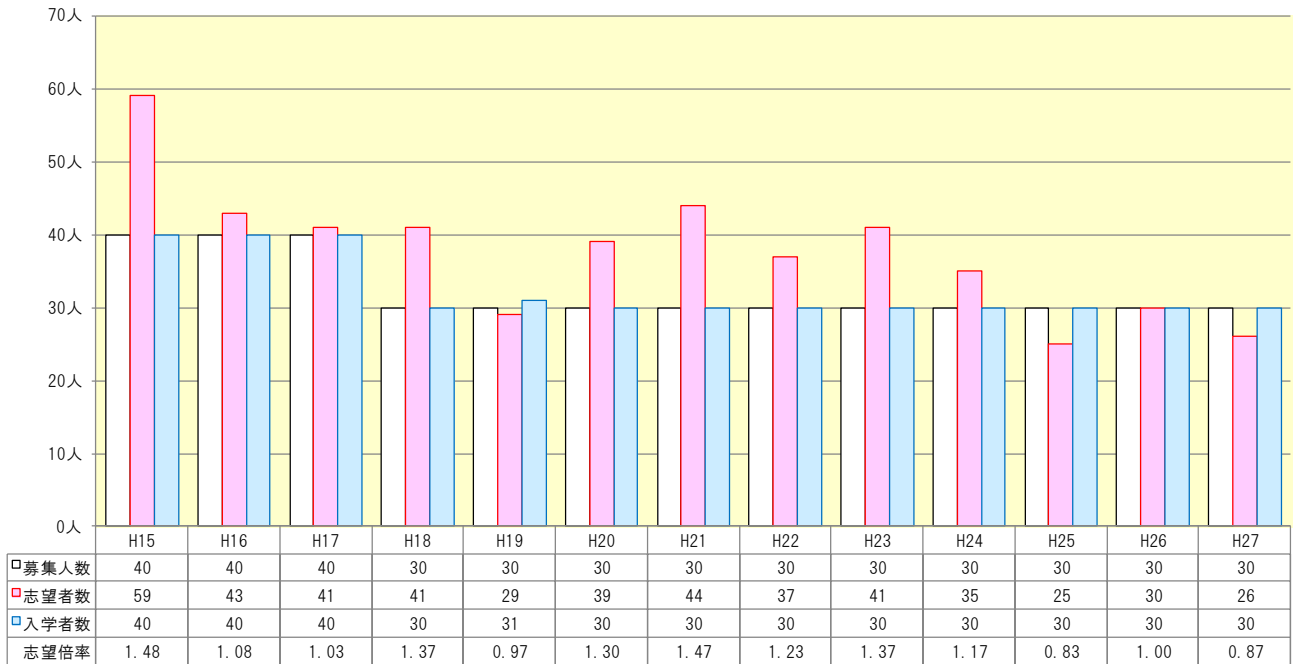
【大学科の概要】

表現に関する専門的な学習を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養いながら、豊かな情操と創造性を育成することを目指す学科。

【平成27年度現在の設置状況】

学科等	東青	西北	中南	上北	下北	三八
表現科						八戸東 (H15～)

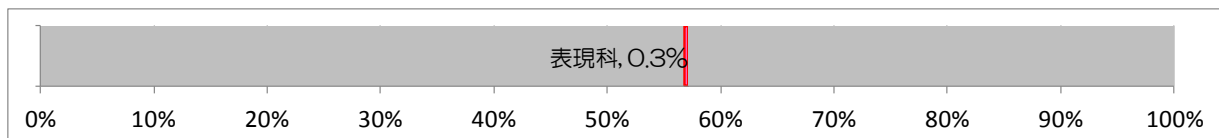
【志願・入学状況】



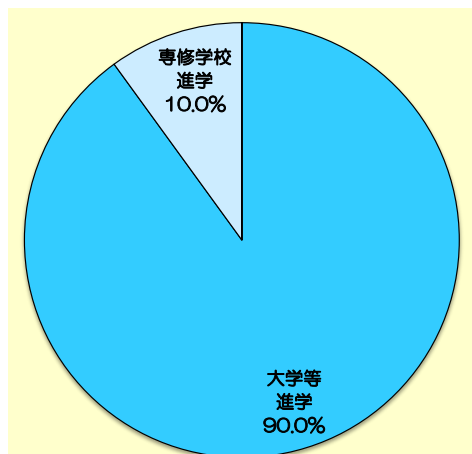
(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

※平成15年度設置

【全日制課程卒業者に占める表現科の割合】



### 【進路状況】（平成26年3月卒業者）

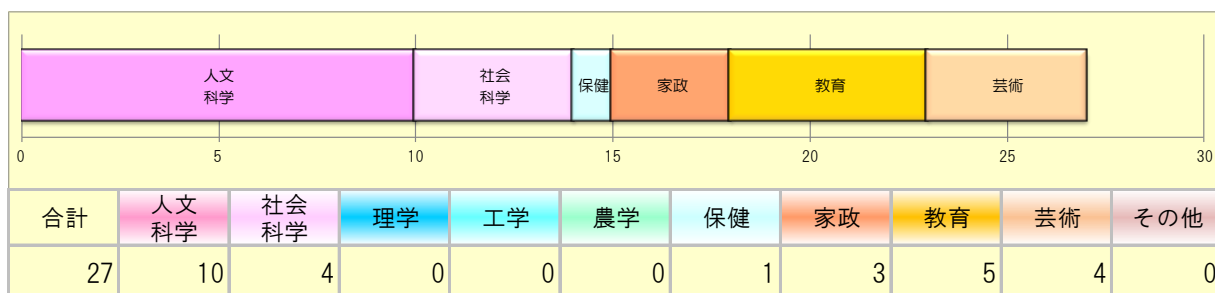


(人)

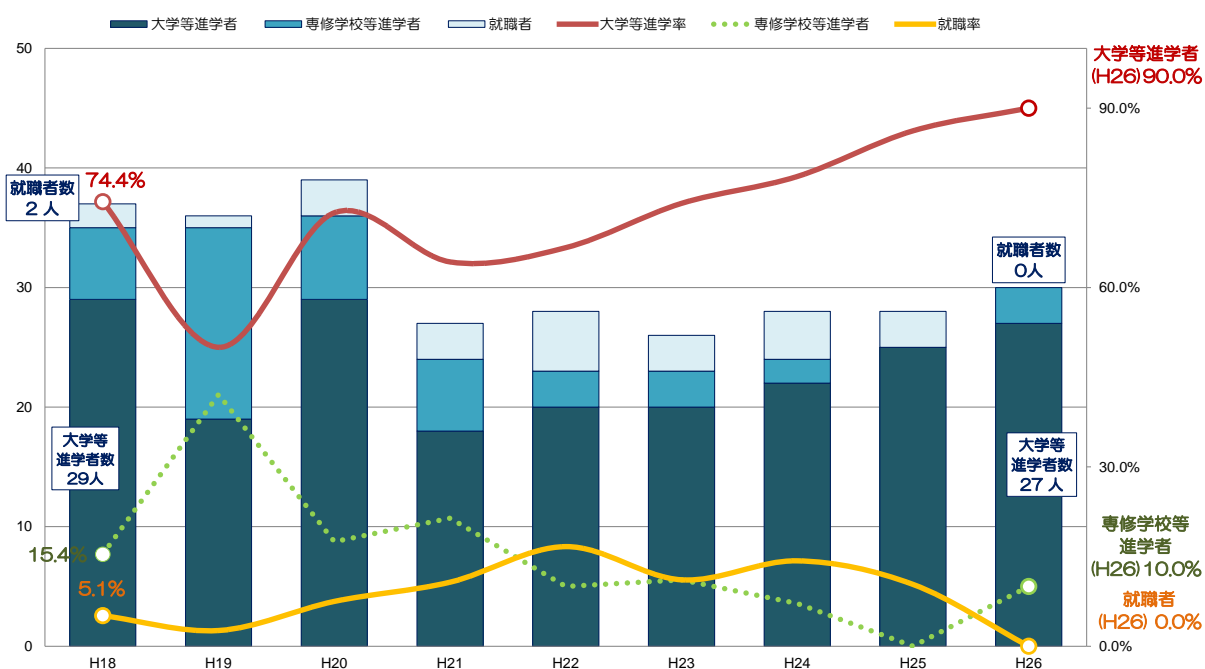
卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
30	27	3	0	0	0

(学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より)

### 【大学等進学】（平成26年3月卒業者）



### 【進路状況の変化】



全日制課程の生徒数の0.3%を占める表現科は、大学等進学が9割となっている。進学先は、人文科学、教育、社会科学、芸術等の文系分野が中心となっている。

## ⑥人文学科

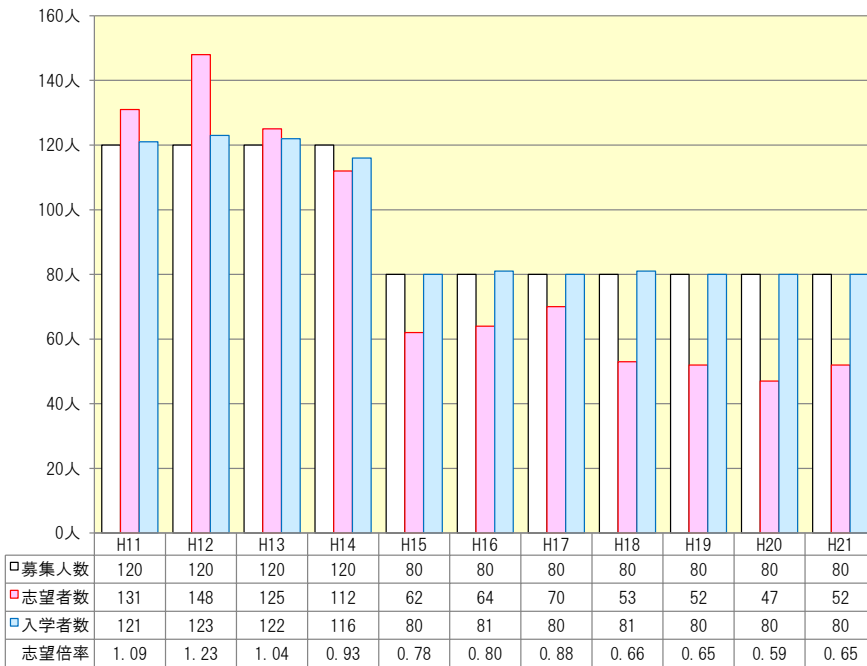
### 【大学科の概要】

国語、社会、英語等の学習に重点を置き、専門的な学習を推進することを目指す学科。

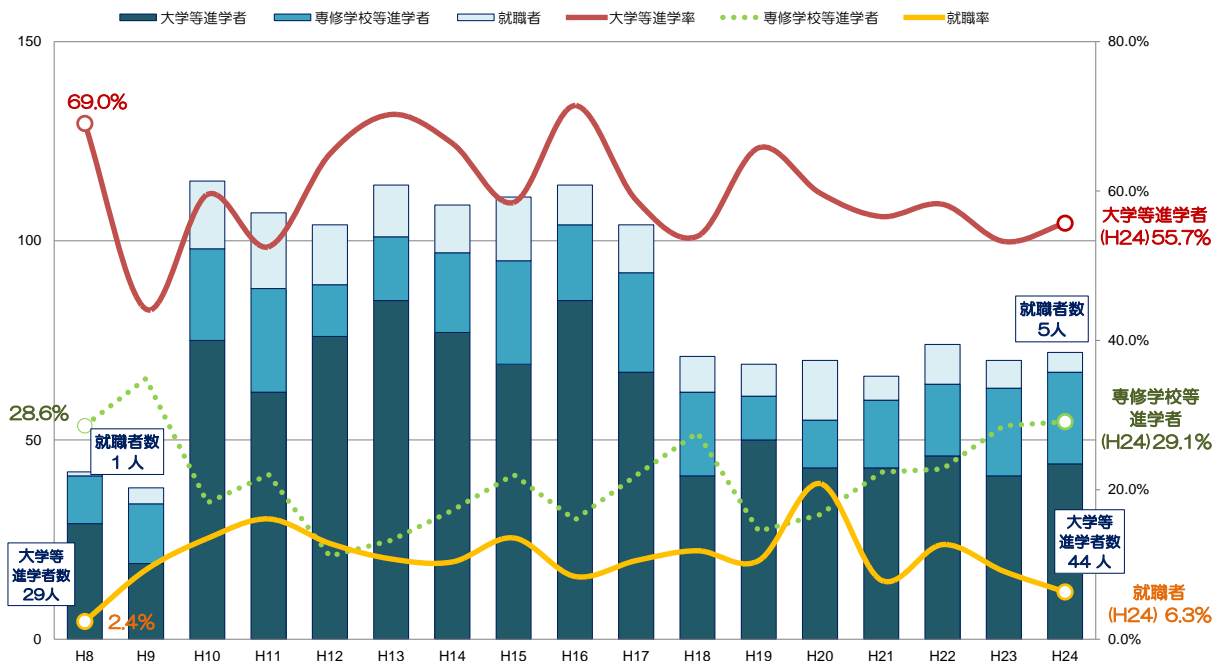
### 【学科改編等の状況】

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
八戸東	人文学科	—	H15	表現科に転換(H7～H16)
青森西	人文学科	—	H22	普通科に転換(H5～H23)
弘前中央	人文学科	—	H22	普通科に転換(H7～H23)

### 【志願・入学状況】



### 【進路状況の変化】



## ⑦美術科

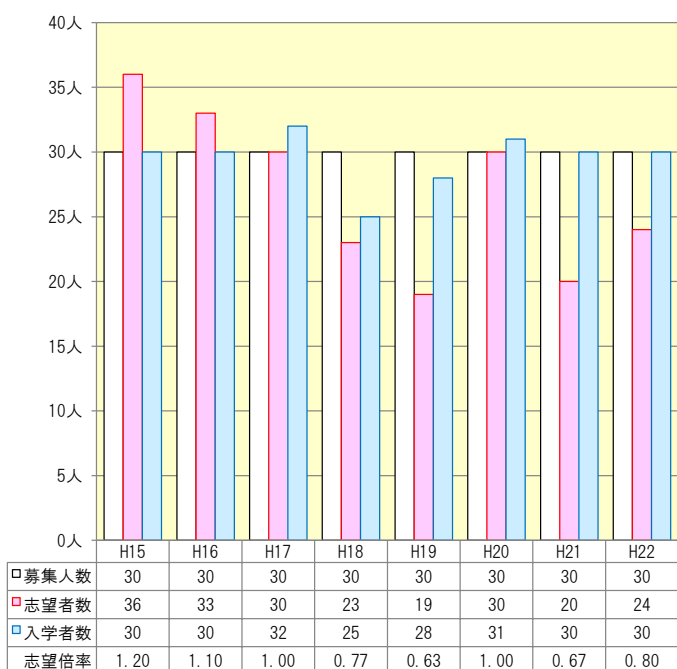
### 【大学科の概要】

美術に関する専門的学習を通して、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高め、芸術文化の発展と創造に寄与する意欲と態度を育成することを旨とする学科。

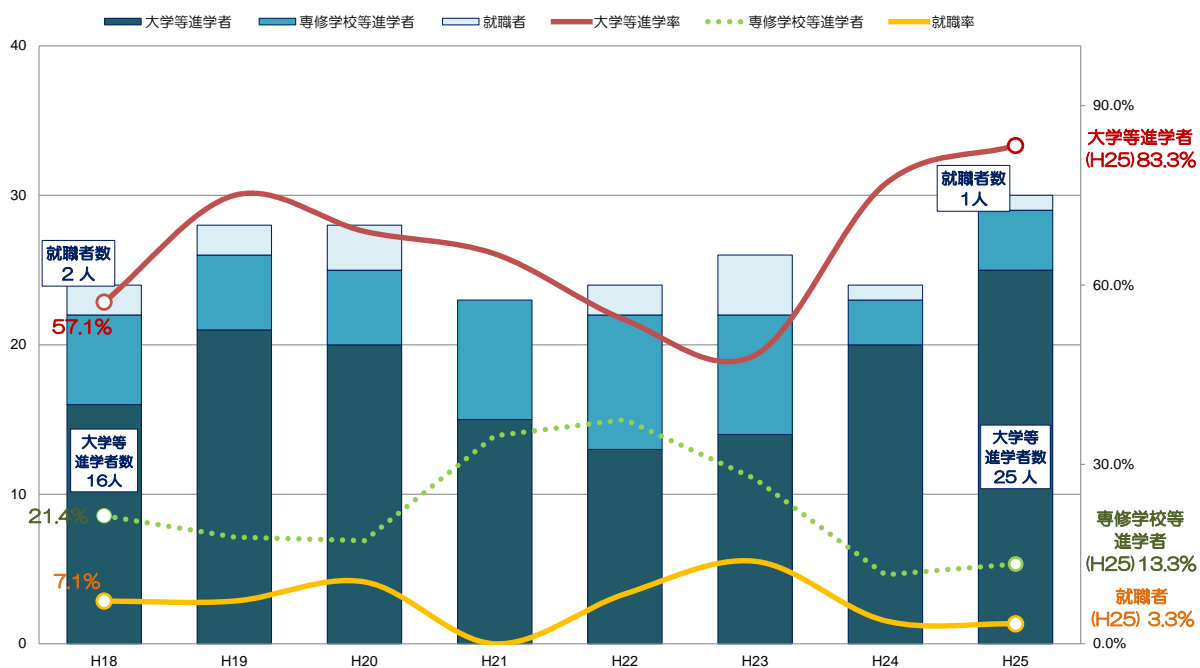
### 【学科改編等の状況】

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
青森戸山	美術科	—	H23	募集停止 (H15～H24)

### 【志願・入学状況】



### 【進路状況の変化】



## (2) 職業教育を主とする専門学科

### ①農業科

#### 【大学科の概要】

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

#### 【学科改編等の状況】

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
五所川原農林	林業科	森林科学科	H22	森林の育成のほか、森林環境保全や林産資源活用について学習
	農業土木科	環境土木科	H22	農業土木のほか、地域環境の創造や保全等について学習
	食品化学科	食品科学科	H22	食品の製造・分析・管理及び流通に関する知識、技術について学習
三本木農業	農業土木科	環境土木科	H22	農業土木のほか、地域環境の創造や保全等について学習
名久井農業	生活科学科	—	H21	募集停止
	—	環境システム科	H25	都市近郊農業に対応し施設園芸の生産・経営及び生産設備について学習

#### 【平成27年度現在の設置状況】

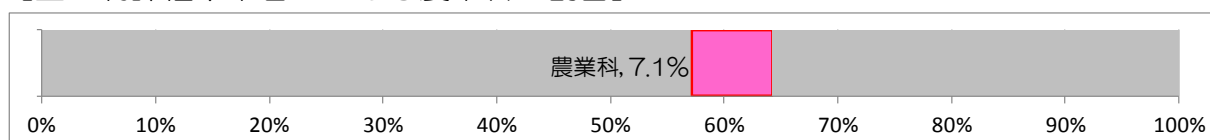
東青	西北	中南	上北	下北	三八
	五所川原農林	柏木農業	三本木農業		名久井農業
	生物生産科	生物生産科	植物科学科		生物生産科
	森林科学科	環境工学科	動物科学科		園芸科学科
	環境土木科	食品科学科	農業機械科		環境システム科
	食品科学科	生活科学科	環境土木科		
	生活科学科	弘前実業	農業経済科		
		農業経営科	生活科学科		
		弘実・藤崎			
		りんご科			

#### 【志願・入学状況】

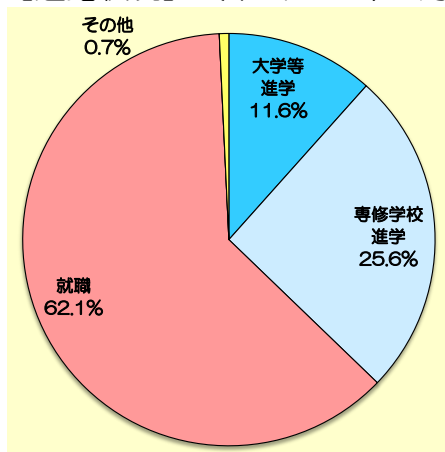


(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

#### 【全日制課程卒業者に占める農業科の割合】



### 【進路状況】（平成26年3月卒業者）



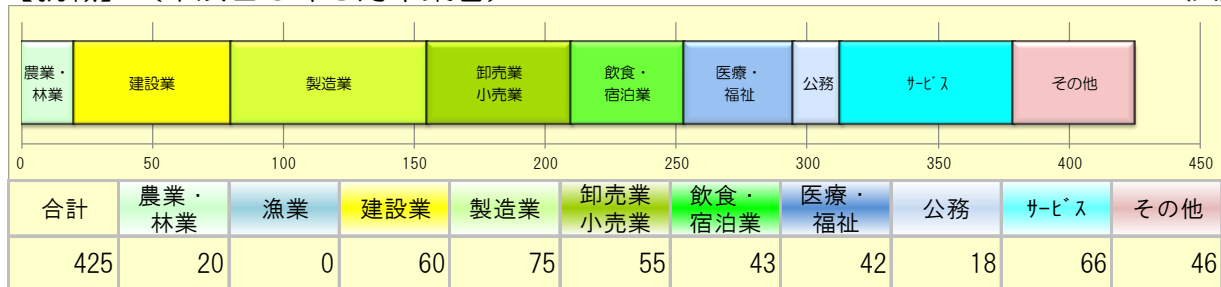
卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
672	78	172	417	0	5

（学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より）

### 【大学等進学】（平成26年3月卒業者）

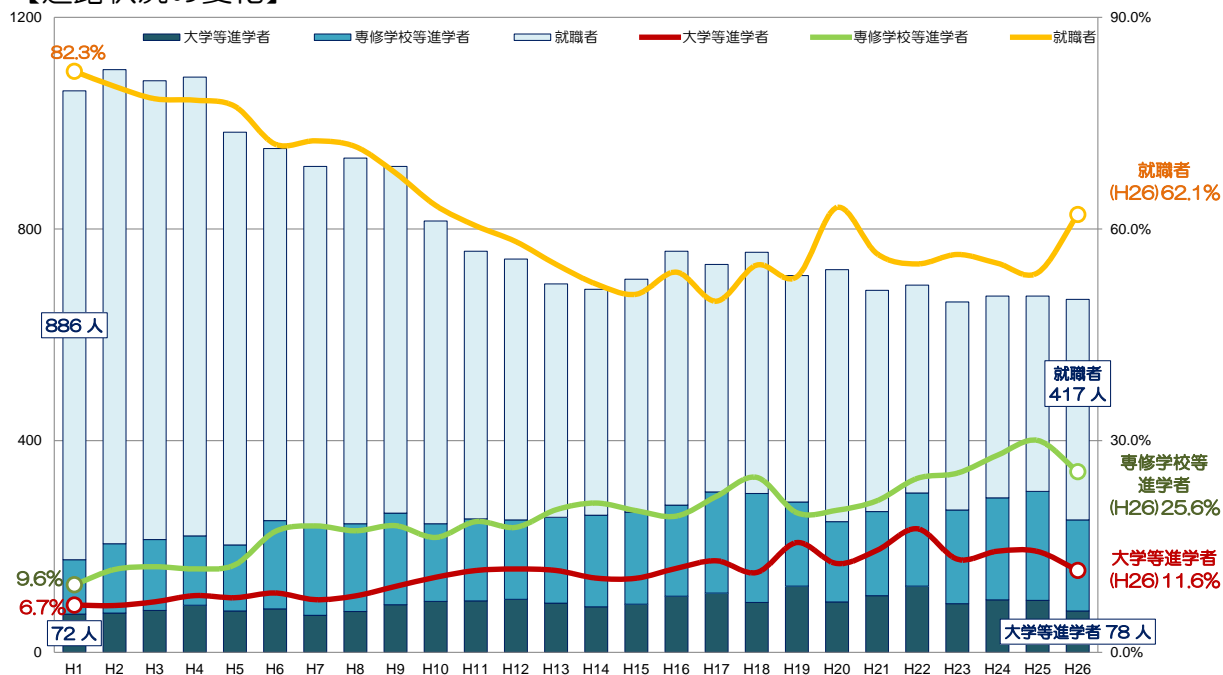


### 【就職】（平成26年3月卒業者）



※進学しかつ就職した者を含む

### 【進路状況の変化】



全日制課程の生徒数の7.1%を占める農業科は、就職が6割を超えている。就職先は、製造業、サービス業等幅広い分野にわたっている。

②工業科

【大学科の概要】

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

【学科改編等の状況】

学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
青森工業	インテリア科	—	H21	募集停止
	—	都市環境科	H23	土木に関する教育内容のほか、都市環境やエネルギーについて学習
五所川原工業	電子科	—	H23	募集停止
弘前工業	電子機械科	—	H25	募集停止
十和田工業	機械科	機械・エネルギー科	H23	機械に関する教育内容のほか、電気自動車や太陽光など環境やエネルギーについて学習
むつ工業	設備システム科	設備・エネルギー科	H23	各種設備機器、配管等に関する教育内容のほか、環境やエネルギー全般について学習
八戸工業	工業化学科	—	H21	募集停止
	土木科	土木建築科	H25	土木コースと建築コースを設置
南部工業	建築科	—	H25	募集停止（H26年度末閉校）
	設備システム科			

【平成27年度現在の設置状況】

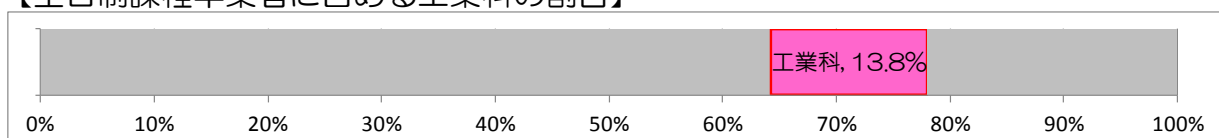
東青		西北		中南		上北		下北		三八	
青森工業		五所川原工業		弘前工業		十和田工業		むつ工業		八戸工業	
機械科	電子機械科	電子機械科	電子機械科	電気科	電子科	情報技術科	土木科	建築科	インテリア科	機械科	電子機械科
電気科	電子科	情報技術科	情報技術科	土木科	建築科	インテリア科	—	—	—	電子科	電子科
情報技術科	情報技術科	情報技術科	情報技術科	土木科	建築科	インテリア科	—	—	—	情報技術科	情報技術科
建築科	建築科	建築科	建築科	土木科	建築科	インテリア科	—	—	—	土木建築科	土木建築科
都市環境科	都市環境科	都市環境科	都市環境科	土木科	建築科	インテリア科	—	—	—	土木コース	建築コース
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	材料技術科	材料技術科

【志願・入学状況】



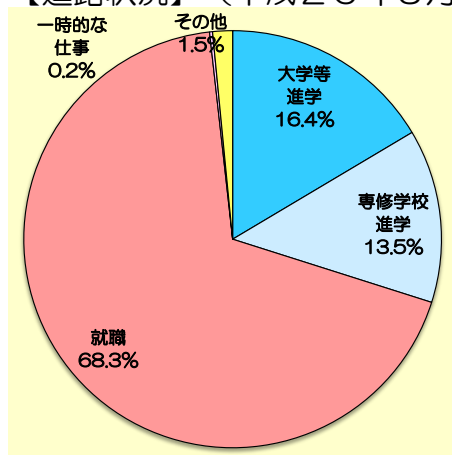
(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

【全日制課程卒業者に占める工業科の割合】





【進路状況】（平成26年3月卒業生）



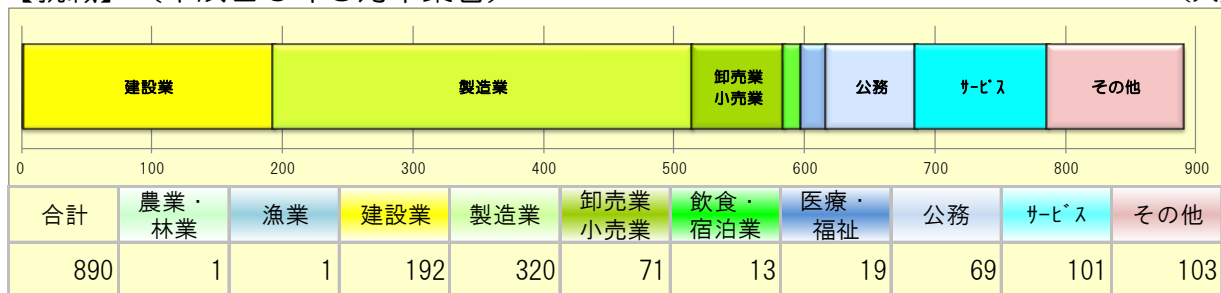
卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
1,301	214	175	889	3	20

（学校基本調査及び高等学校等卒業生の進路状況調査より）

【大学等進学】（平成26年3月卒業生）

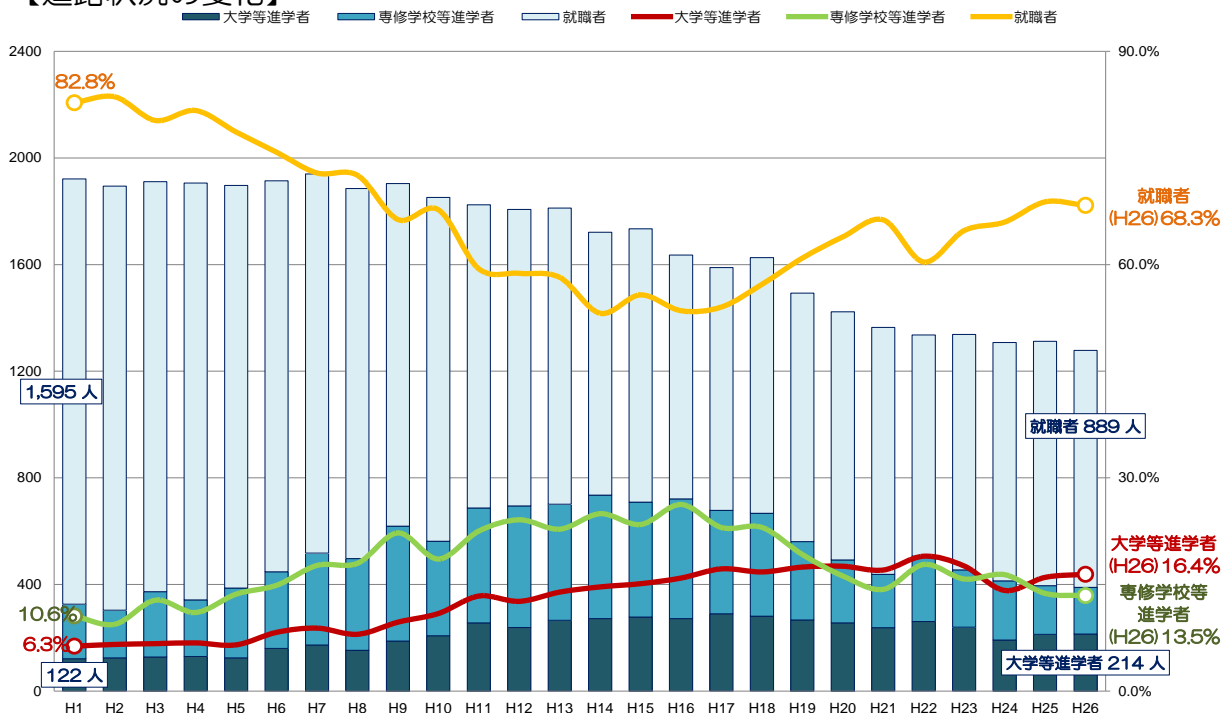


【就職】（平成26年3月卒業生）



※進学しかつ就職した者を含む

【進路状況の変化】



全日課程の生徒数の13.8%を占める工業科は、就職が約7割となっている。就職先は、建設業、製造業等の工業分野が中心となっている。

### ③商業科

#### 【大学科の概要】

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割を理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

#### 【学科改編等の状況】

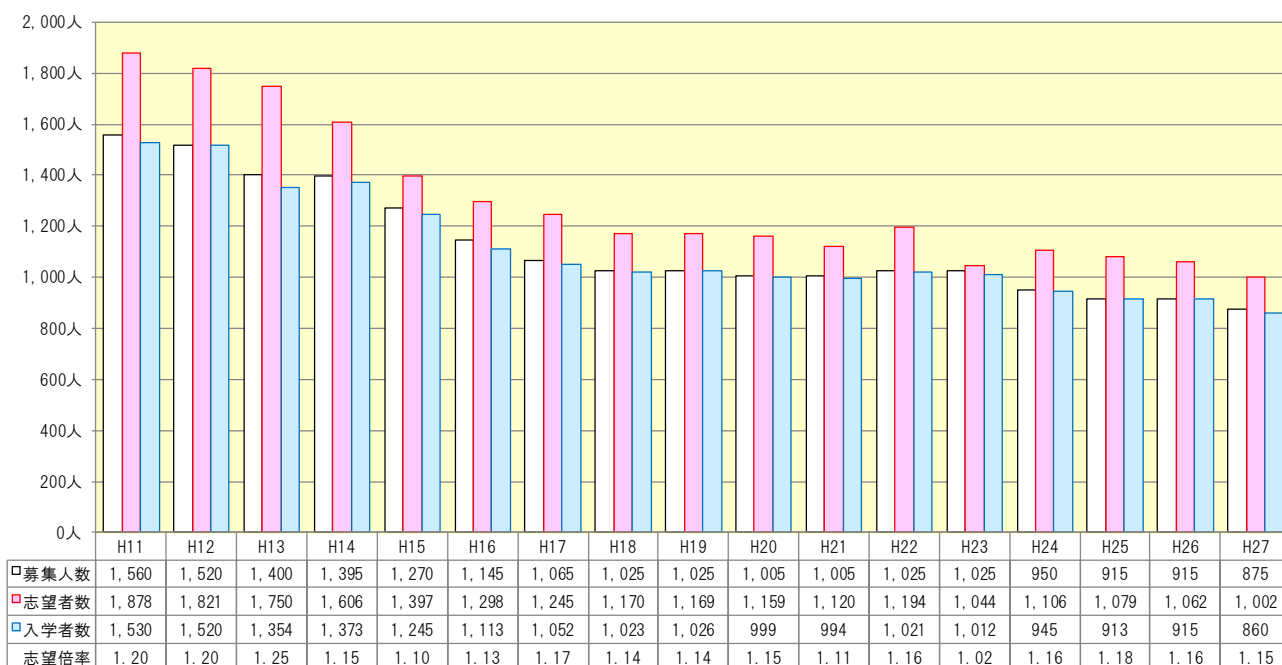
学校名	改編前の学科名	改編後の学科名	実施年度	備考
青森商業	会計科	—	H22	商業科に転換
三沢商業	流通経済科	—	H22	商業科に転換
浪岡	商業科	—	H25	募集停止
百石	商業科	—	H24	募集停止
三戸	商業科	—	H24	募集停止

※青森商業高校、黒石商業高校、三沢商業高校の3校では、平成22年度から、商業科と情報処理科でくり募集を実施。

#### 【平成27年度現在の設置状況】

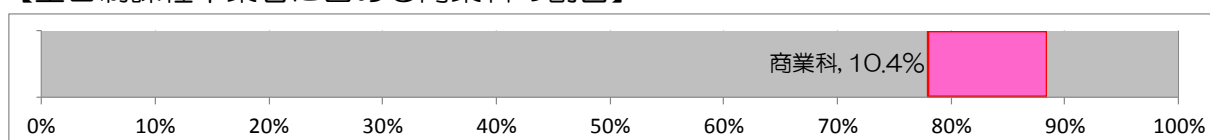
東青	西北	中南	上北	下北	三八
青森商業		弘前実業	十和田西		八戸商業
商業科		商業科	観光科		商業科
情報処理科		情報処理科	三沢商業		国際経済科
		黒石商業	商業科		情報処理科
		商業科	情報処理科		
		情報処理科			
		情報デザイン科			

#### 【志願・入学状況】

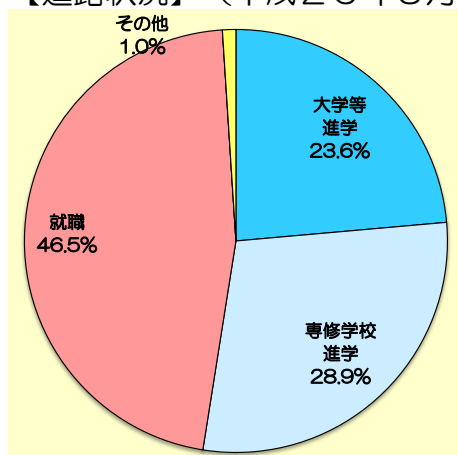


(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

#### 【全日制課程卒業者に占める商業科の割合】



【進路状況】（平成26年3月卒業者）



(人)

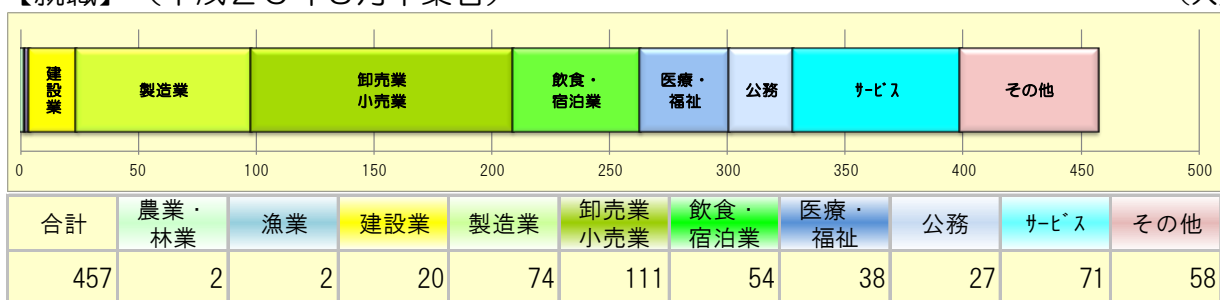
卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
979	231	283	455	0	10

（学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より）

【大学等進学】（平成26年3月卒業者）

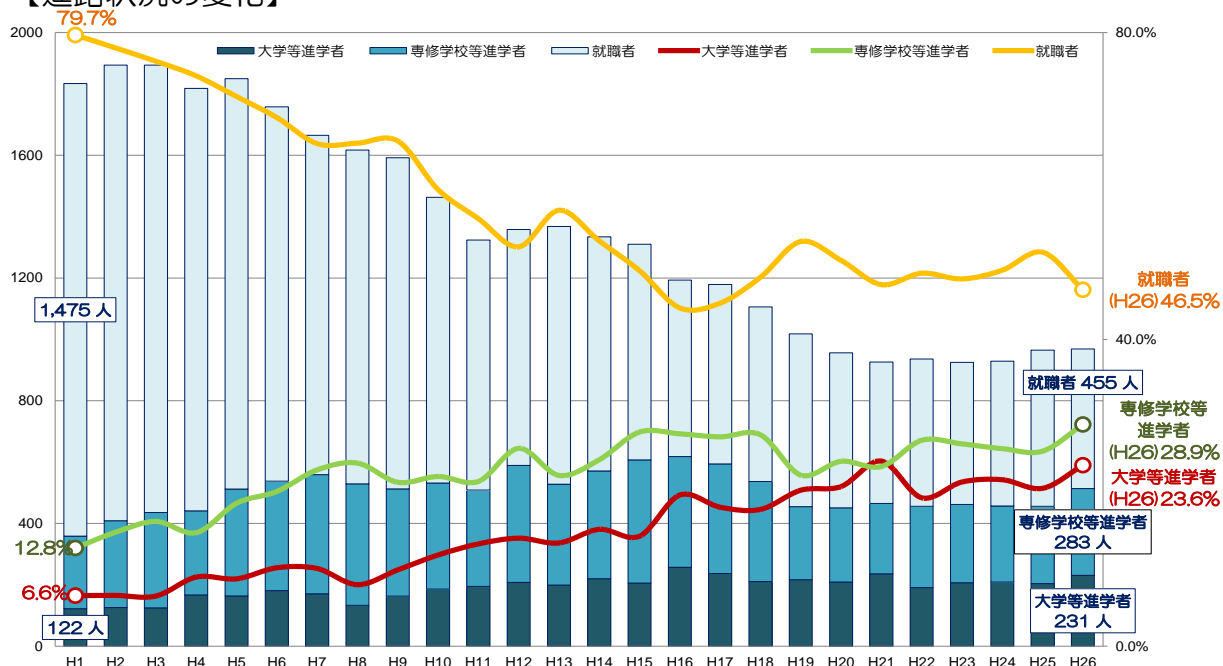


【就職】（平成26年3月卒業者）



※進学しかつ就職した者を含む

【進路状況の変化】



全日制課程の生徒数の10.4%を占める商業科は、就職が約半数、専修学校等進学と大学等進学が約4分の1ずつとなっている。就職先は、卸売業・小売業、製造業、サービス業等幅広い分野にわたっている。

#### ④水産科

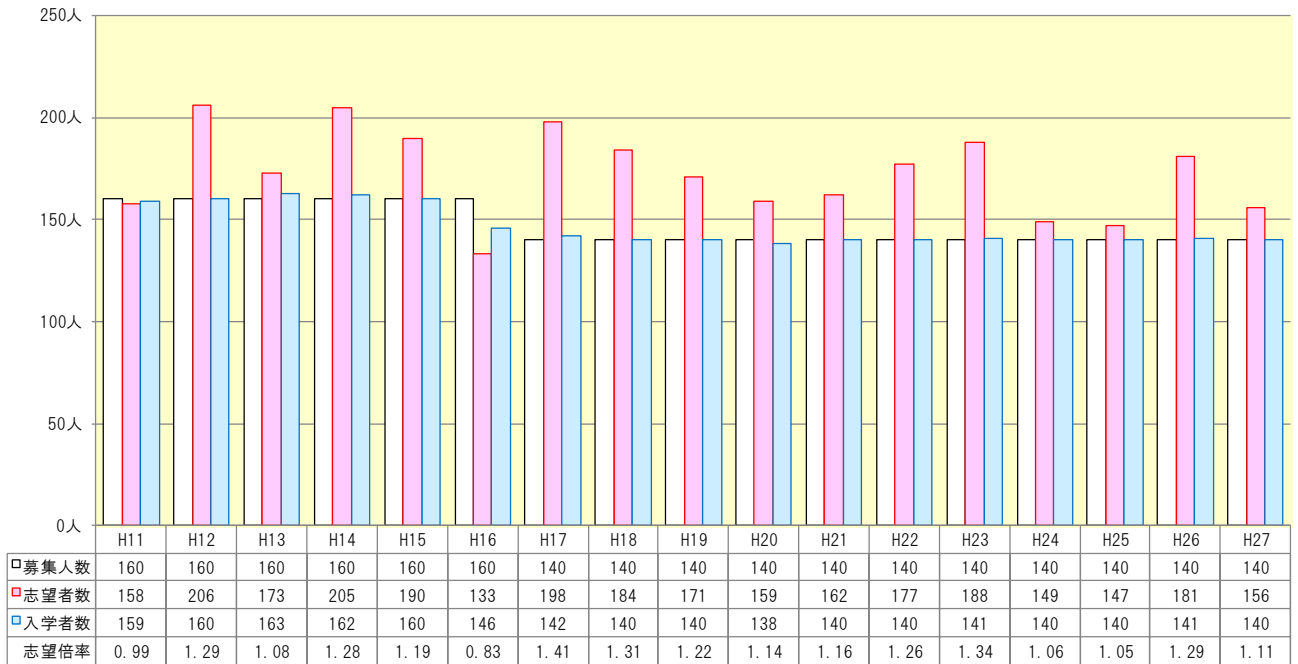
##### 【大学科の概要】

水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

##### 【平成27年度現在の設置状況】

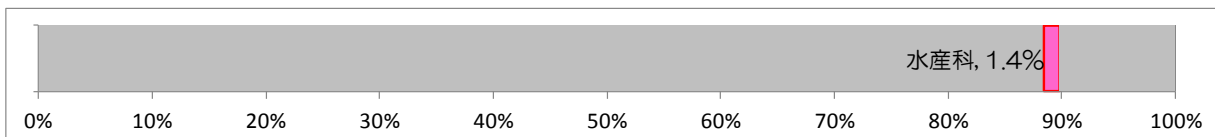
東青	西北	中南	上北	下北	三八
					八戸水産
					海洋生産科
					水産食品科
					水産工学科
					情報通信科
					(専攻科設置)

##### 【志願・入学状況】

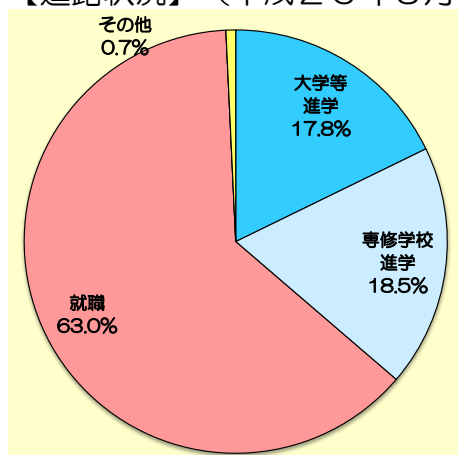


(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

##### 【全日制課程卒業者に占める水産科の割合】



【進路状況】（平成26年3月卒業者）



(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
135	24	25	85	0	1

(学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より)

【大学等進学】（平成26年3月卒業者）

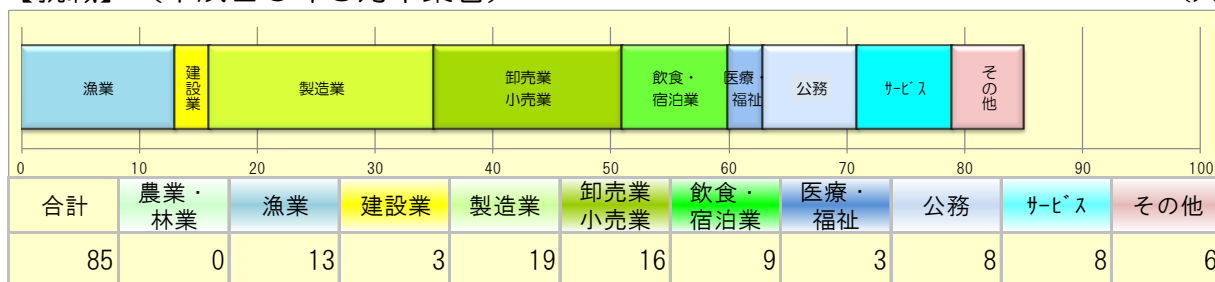
(人)



※「その他」は専攻科

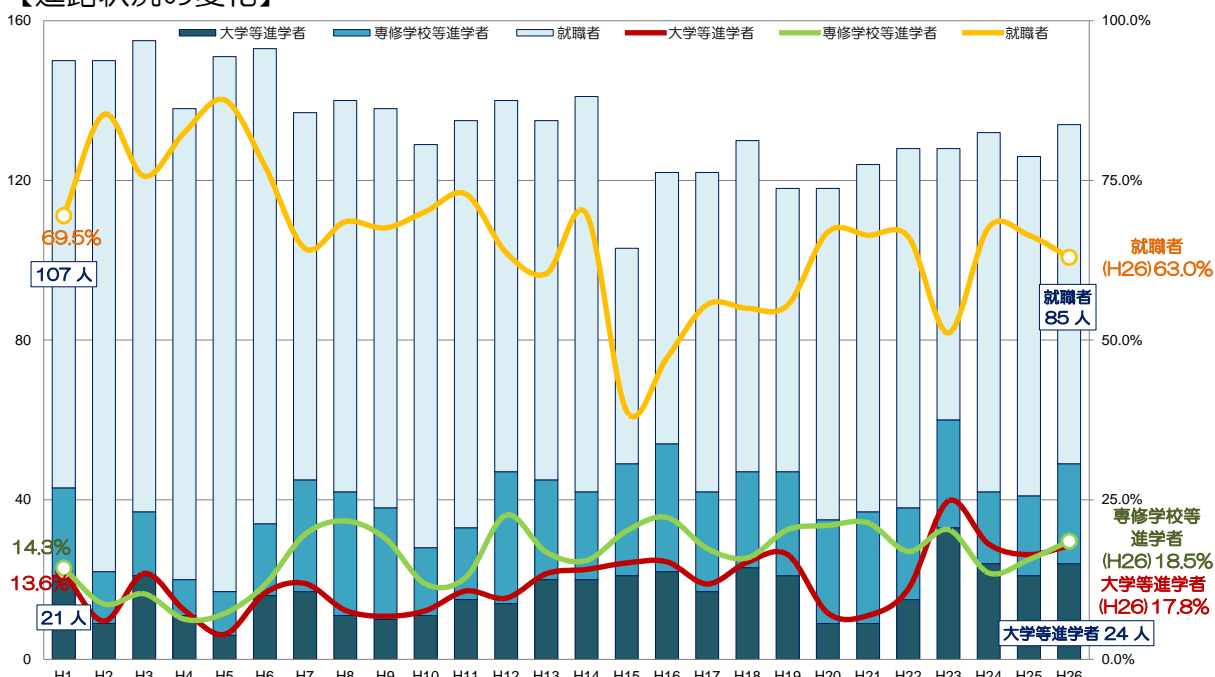
【就職】（平成26年3月卒業者）

(人)



※進学しかつ就職した者を含む

【進路状況の変化】



全日制課程の生徒数の1.4%を占める水産科は、就職が6割を超えている。就職先は、製造業、卸売業・小売業、漁業等幅広い分野にわたっている。

## ⑤家庭科

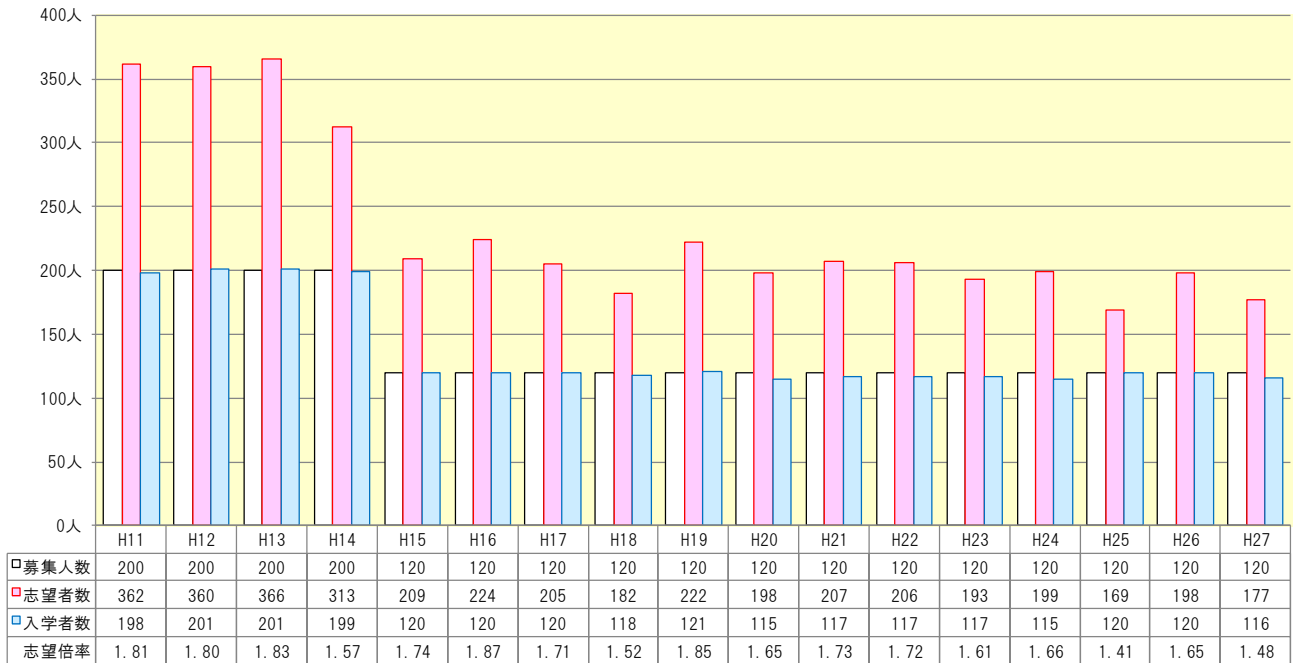
### 【大学科の概要】

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目指す学科。

### 【平成27年度現在の設置状況】

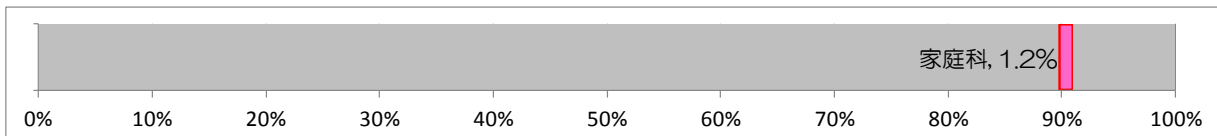
東青	西北	中南	上北	下北	三八
		弘前実業	百石		
		家庭科学科	食物調理科		
		服飾デザイン科			

### 【志願・入学状況】

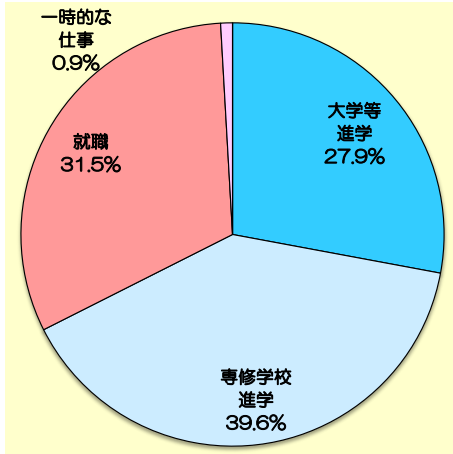


(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

### 【全日制課程卒業者に占める家庭科の割合】



【進路状況】（平成26年3月卒業生）



(人)

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
111	31	44	35	1	0

(学校基本調査及び高等学校等卒業生の進路状況調査より)

【大学等進学】（平成26年3月卒業生）

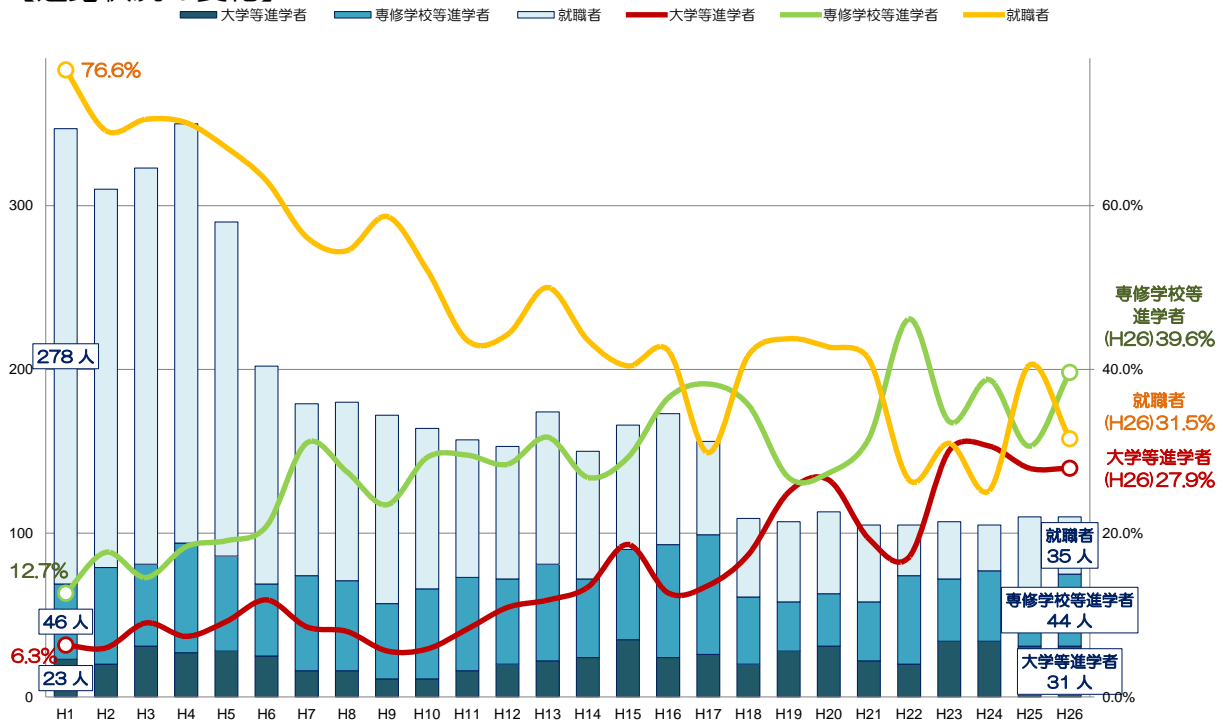


【就職】（平成26年3月卒業生）



※進学しかつ就職した者を含む

【進路状況の変化】



全日制課程の生徒数の1.2%を占める家庭科は、専修学校等進学が約4割、就職、大学等進学が約3割となっている。

⑥看護科

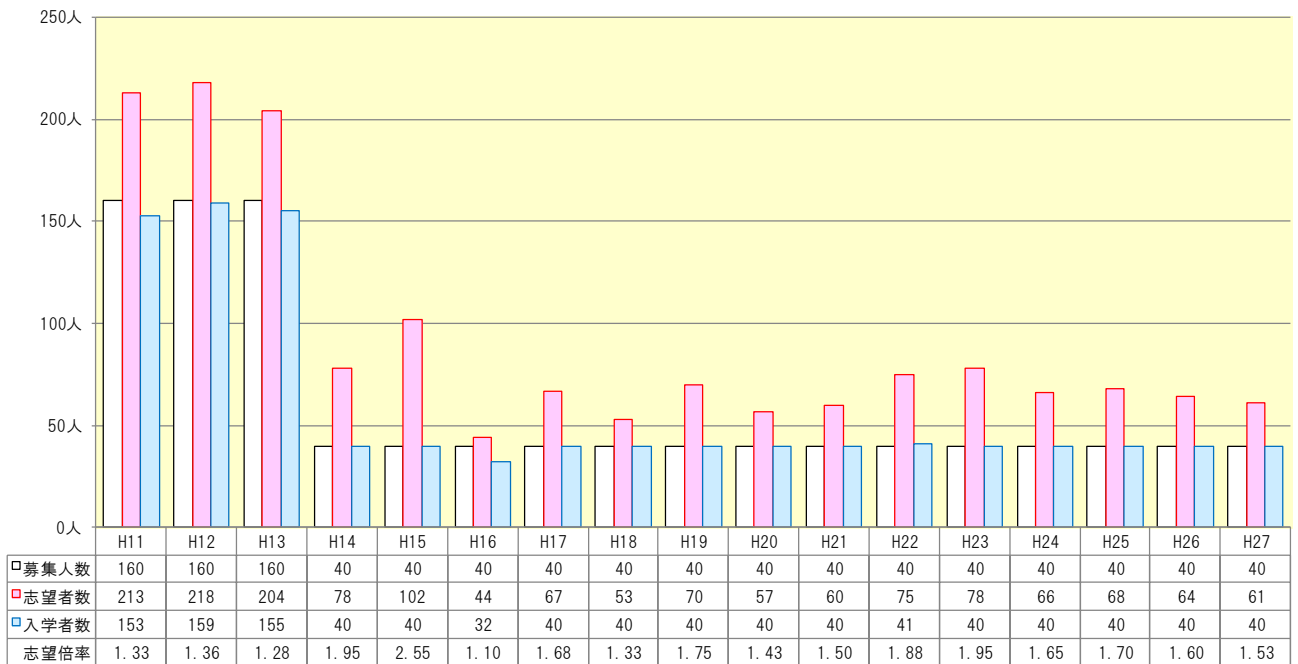
【大学科の概要】

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てることを目指す学科。

【平成27年度現在の設置状況】

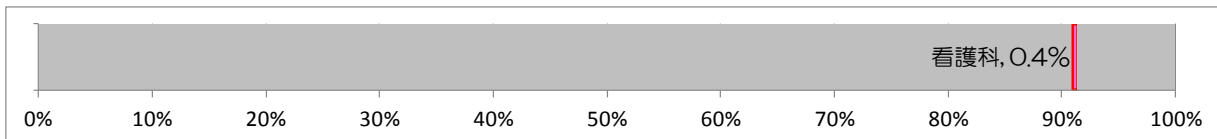
東青	西北	中南	上北	下北	三八
		黒石			
		看護科			
		(専攻科設置)			

【志願・入学状況】

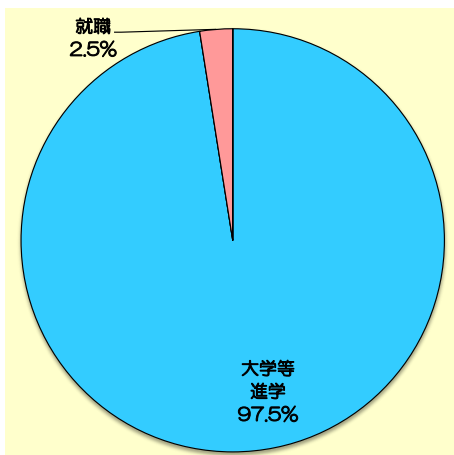


(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

【全日制課程卒業者に占める看護科の割合】



【進路状況】(平成26年3月卒業者)



(人)

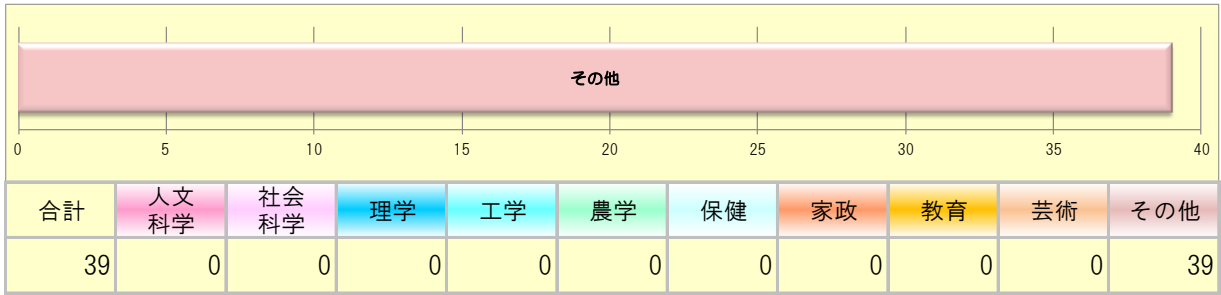
卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
40	39	0	1	0	0

(学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より)



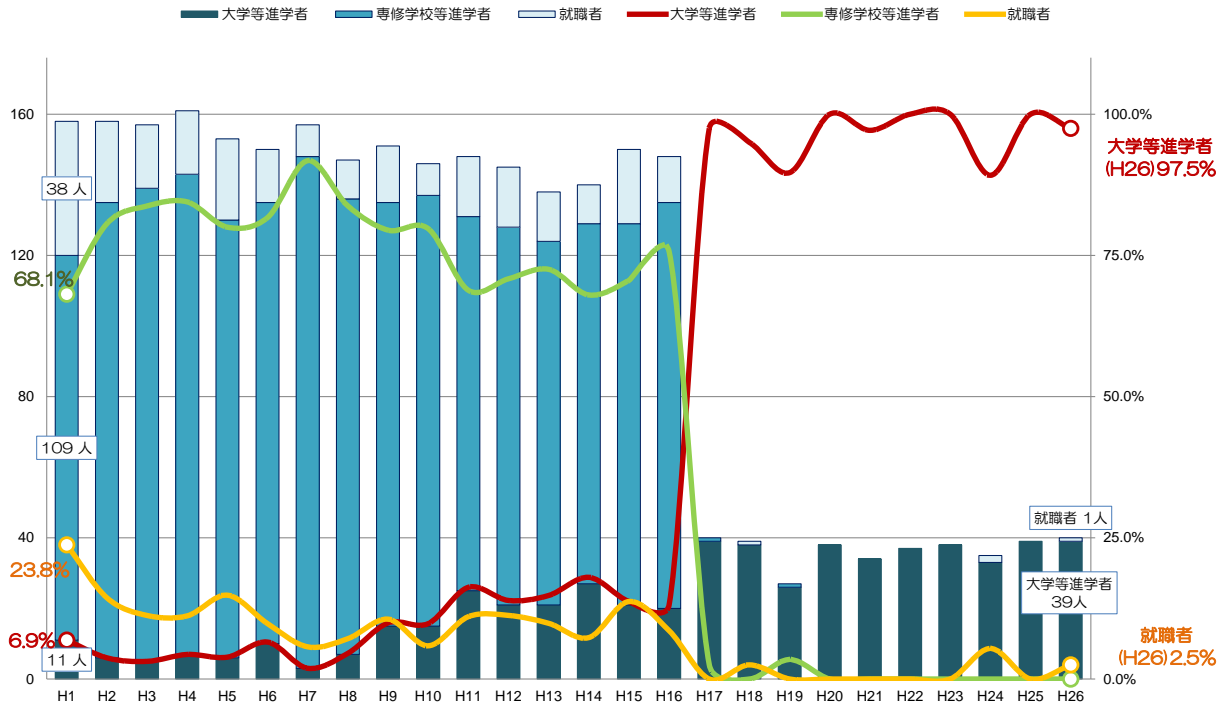
【大学等進学】（平成26年3月卒業生）

（人）

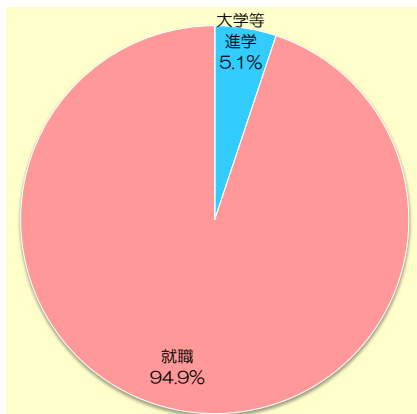


※「その他」は専攻科

【進路状況の変化】



（参考：専攻科卒業生の進路状況）



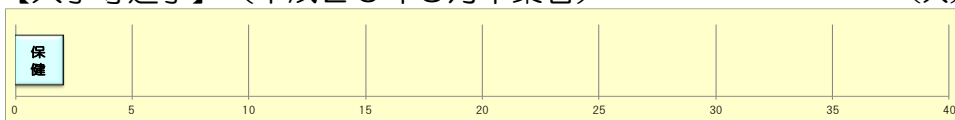
（平成26年3月卒業生）

（人）

卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
39	2	0	37	0	0

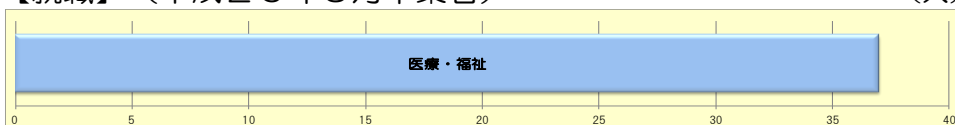
【大学等進学】（平成26年3月卒業生）

（人）



【就職】（平成26年3月卒業生）

（人）



■ 全日制課程の生徒数の0.4%を占める看護科は、ほぼ全員が専攻科へ進学し、専攻科卒業後は、医療・福祉分野に就職している。

### (3) 総合学科

#### 【大学科の概要】

普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶ学科として制度化。

普通教科と専門教科の科目を幅広く開設し、生徒の主体的な選択による学習を通して、将来の生き方や進路に関する自覚を深め、職業観を育成することを目指す学科。

#### 【系列見直し等の状況】

学 校 名	見直し前の系列	見直し後の系列	実施年度	備 考
青森中央	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	健康福祉	生活科学	H23	生活科学系列の中で福祉や看護を学習
	生活科学			
	リビングデザイン	—	H23	廃止
	情報ビジネス	情報ビジネス		
	文化観光	—	H23	廃止
—	美術	H23	新設	
木造	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	社会・経済	—	H24	廃止
	人間・福祉	—	H24	廃止
	流通ビジネス	流通ビジネス		
	情報システム	情報システム		
木造 深浦校舎	人文社会	人文社会		
	流通ビジネス	流通ビジネス		
尾上総合	人文科学	—	H23	募集停止 (H24年度末全日制閉課程)
	エコロジー			
	マルチメディア			
	地域文化			
七戸	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	情報ビジネス	情報ビジネス		
	食品科学	食品科学		
	福祉健康	福祉健康		
大湊	人文科学	人文科学		
	自然科学	自然科学		
	介護福祉	健康福祉	H21	健康福祉系列の中で、福祉、家庭、 体育を学習
	スポーツ			
	情報表現	情報ビジネス	H21	情報ビジネス系列の中で、情報、 商業を学習

#### 【平成27年度現在の設置状況】

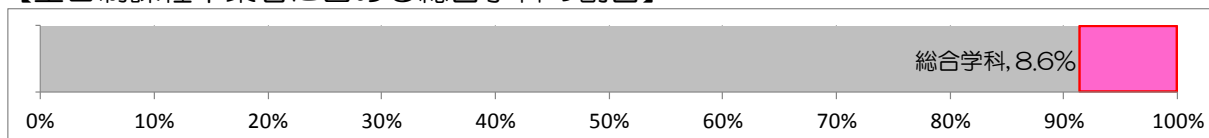
東青	西北	中南	上北	下北	三八
青森中央 (H8～)	木造(H15～) 木造・深浦 (H17～)		七戸 (H8～)	大湊 (H14～)	

### 【志願・入学状況】

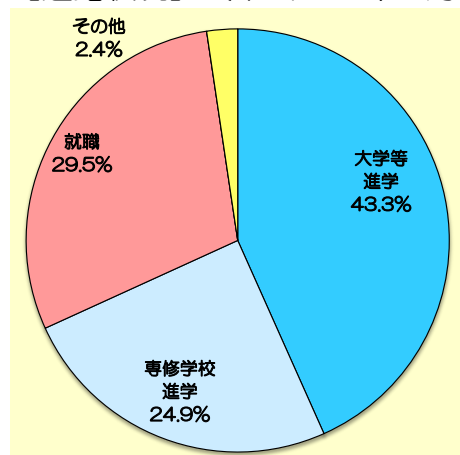


(中学校等卒業予定者の進路志望状況(第一次調査)、学校基本調査より)

### 【全日制課程卒業者に占める総合学科の割合】



### 【進路状況】(平成26年3月卒業者)



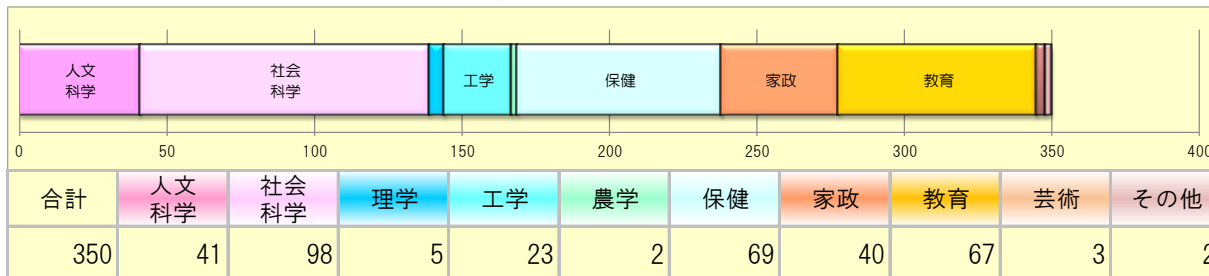
(人)

卒業者数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
808	350	201	238	0	19

(学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より)

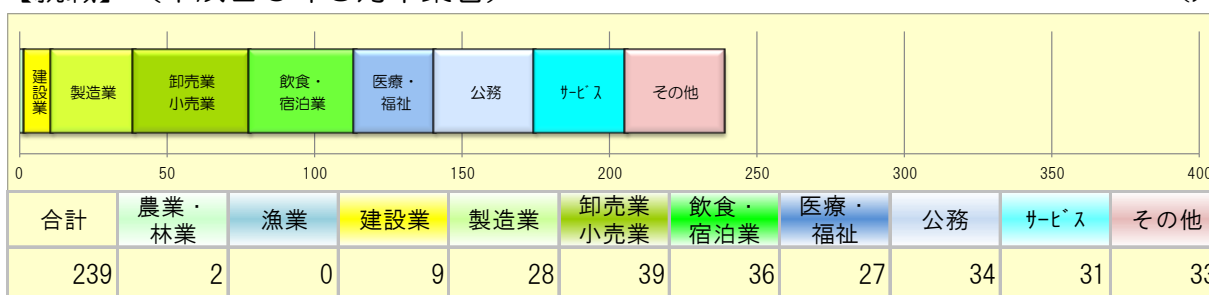
### 【大学等進学】(平成26年3月卒業者)

(人)

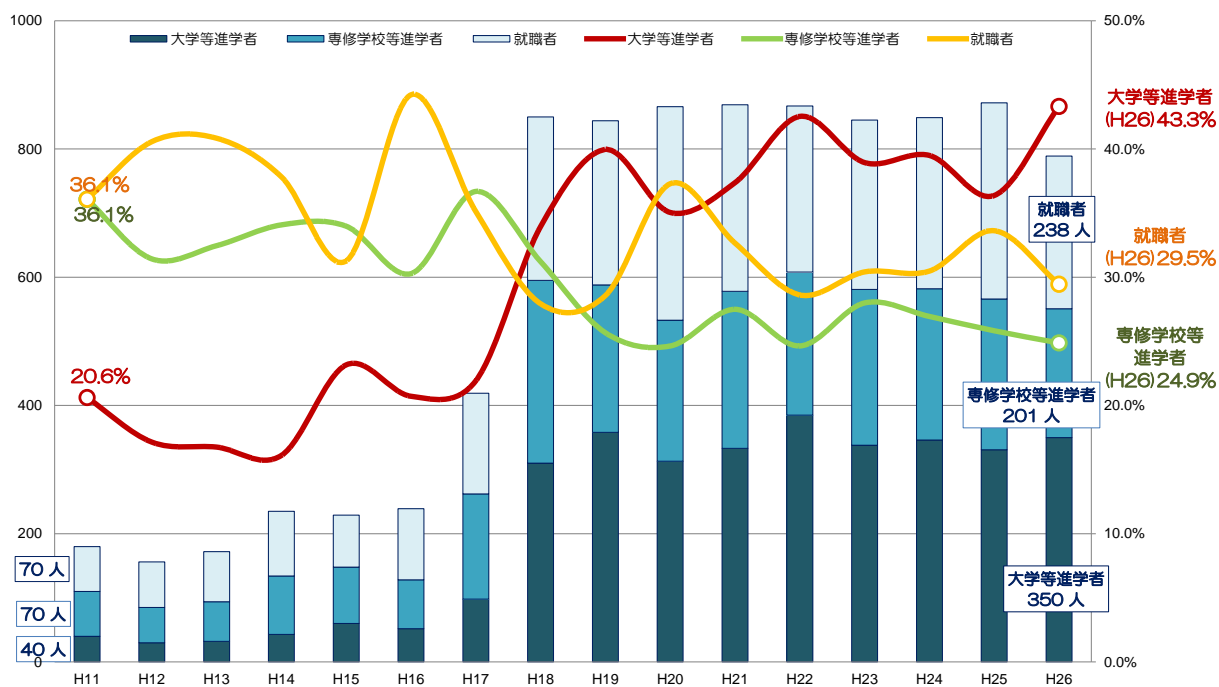


### 【就職】(平成26年3月卒業者)

(人)



## 【進路状況の変化】



■ 全日制課程の生徒数の8.6%を占める総合学科は、大学等進学が約4割、就職が約3割となっている。進学先、就職先とも幅広い分野にわたっている。

## 【総合学科で学ぶことに対する満足度】

満足している	② 27.5%
ほぼ満足している	① 54.9%
あまり満足していない	③ 13.0%
全く満足していない	2.4%
無回答	2.2%

(多様な教育制度等に対するアンケート調査より)

■ 8割以上の生徒が「満足している」又は「ほぼ満足している」と回答している。

## 【総合学科に満足している点】 (当てはまるもの全て選択)

自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できる	① 52.8%
幅広い分野にわたって多様な選択科目が開設されている	③ 28.1%
進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる	② 31.8%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方を学ぶ機会が多い	10.4%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる	11.3%
単位制なので、自分のペースで学習することができる	3.1%
大学等への進学に対応した学習指導が行われている	10.4%
就職に向けた進路指導が充実している	11.8%
施設・設備が充実している	4.4%
教員や友人などと幅広い人間関係を得ることができる	8.2%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発である	13.5%
特に満足している点はない	17.7%
その他	0.4%
無回答	0.5%

(多様な教育制度等に対するアンケート調査より)

■ 「自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できる」が52.8%と最も多く、次いで「進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる」が31.8%となっている。

【総合学科に不満な点】（当てはまるもの全て選択）

自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できない	7.6%
開設されている選択科目の分野や数が不十分である	10.4%
進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である	③11.9%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会がもっと必要である	4.1%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動がもっと必要である	6.9%
自分のペースで学習することができない	②12.2%
大学等への進学が難しい	9.0%
就職が難しい	3.3%
施設・設備が充実していない	11.3%
教員や友人などとの人間関係が希薄である	5.3%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発でない	4.1%
特に不満な点はない	①45.3%
その他	2.2%
無回答	3.3%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「特に不満な点はない」が最も多く45.3%であった。次いで、「自分のペースで学習することができない」（12.2%）、「進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である」（11.9%）となっている。

【高校進学前の総合学科の理解度】

十分理解していた	③ 19.0%
やや理解していた	① 55.5%
あまり理解していなかった	② 20.4%
全く理解していなかった	4.1%
無回答	1.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

7割以上の生徒が「十分理解していた」又は「やや理解していた」と回答している。

【総合学科の必要性等】

(%)

	回答者数	増やすべきである	現状どおりでよい	減らすべきである	わからない	無回答
高校生	965	32.6	46.0	0.4	19.6	1.3
高校生保護者	955	37.7	40.5	1.6	18.2	2.0
中学生保護者	955	50.9	31.5	0.9	15.5	1.2
小学生保護者	454	51.5	28.2	0.2	18.9	1.1
高校教員	139	10.8	55.4	23.0	10.1	0.7
中学校教員	140	22.9	60.7	3.6	11.4	1.4
小学校教員	132	37.9	45.5	3.0	12.1	1.5
大学等教員	94	23.4	42.6	10.6	23.4	0.0
市町村関係者	69	33.3	46.4	15.9	4.3	0.0
企業	289	45.3	32.2	1.7	19.0	1.7

（高等学校教育に関する意識調査より）

「増やすべき」は、中学生保護者、小学生保護者では5割を超えているが、高校教員では約1割となっており、対象者により回答傾向に違いがある。

### 3 定時制課程・通信制課程

#### (1) 定時制課程

##### 【概要】

中学校を卒業して勤務に従事するなど様々な理由で全日制の高等学校に進学できない青少年に対して高等学校教育を受ける機会を与えるため創設された制度。

近年は、全日制課程からの転・編入学者や過去に高等学校教育を受けることができなかった者など多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えてきている。

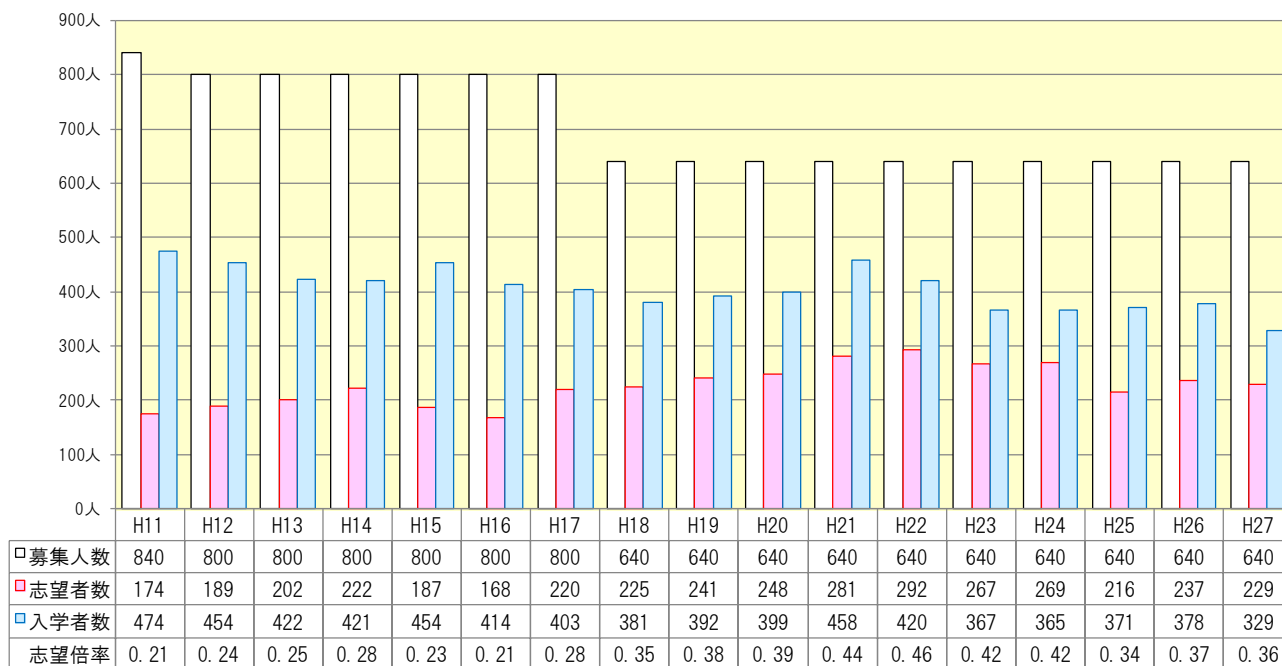
##### 【学科改編等の状況】

学 校 名	見直し前の学科	見直し後の学科	実施年度	備 考
弘前中央	普通（夜間）	—	H25	募集停止
黒石	普通（夜間）	—	H25	募集停止
尾上総合	普通（昼間）	—	H25	定時制3部制総合学科に転換 （総合人間系列、環境・情報系列、 地域ビジネス系列）
	—	総合（Ⅰ部）		
	—	総合（Ⅱ部）		
	—	総合（Ⅲ部）		

##### 【平成27年度現在の設置状況】

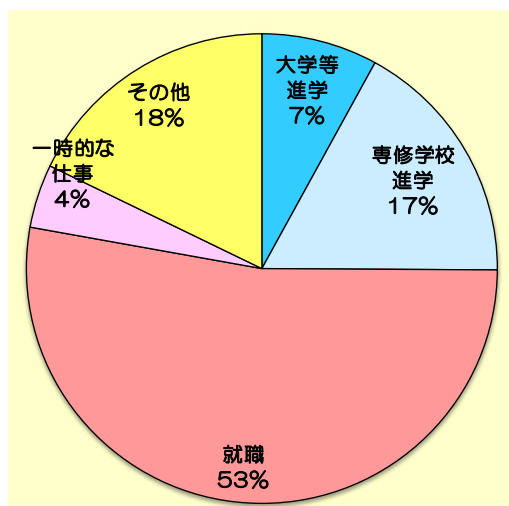
		東青	西北	中南	上北	下北	三八
3部制	普通科	北斗					八戸中央
	総合学科			尾上総合			
夜間	普通科		五所川原		三沢	田名部	
	工業技術科	青森工業		弘前工業			八戸工業

##### 【志願・入学状況】



（中学校等卒業予定者の進路志望状況（第一次調査）、学校基本調査より）

【進路状況】（平成26年3月卒業者）



(人)

卒業者数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
275	22	47	145	12	49

(学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より)

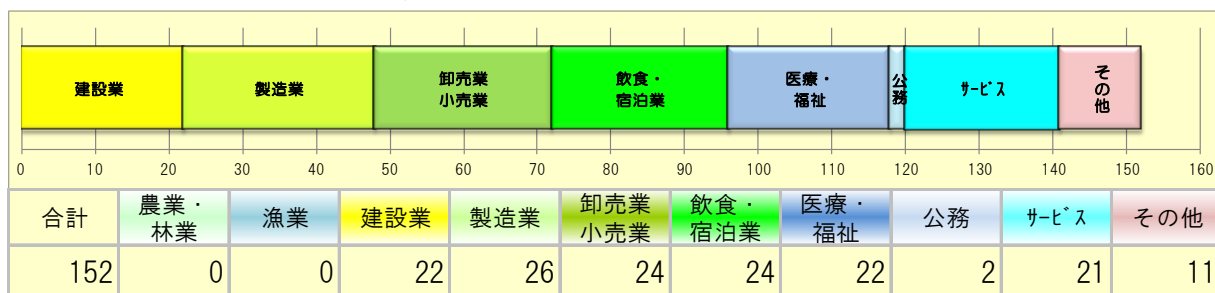
【大学等進学】（平成26年3月卒業者）

(人)



【就職】（平成26年3月卒業者）

(人)



※進学しかつ就職した者を含む

【在学生の就業状況】（平成27年5月1日現在）

	昼間定時制	夜間定時制	合計	割合
1 正規社員・職員	0人	3人	3人	0.3%
2 パート・アルバイト	181人	176人	357人	32.6%
3 自営・家事従事	1人	2人	3人	0.3%
4 無職	517人	215人	732人	66.8%
計	699人	396人	1,095人	
従事者（1～3の計）	182人	181人	363人	33.2%
従事者の割合	26.0%	45.7%	33.2%	

定時制課程に在学する者のうち、「正規社員・職員」は1%に満たず、「パート・アルバイト」等を含めて何らかの職業に従事している者は3分の1程度となっている。

### ① 3部制定時制

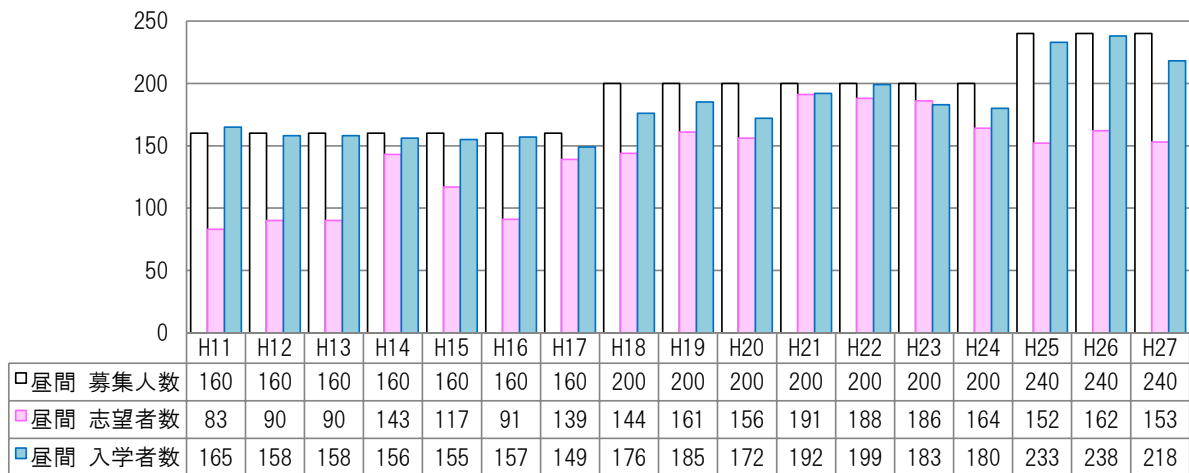
#### 【概要】

午前、午後、夜間等の時間帯で授業を行う3つの部で構成される定時制単位制高等学校。生徒はいずれかの部に所属し、4年で卒業することを基本としつつ、仕事の時間や学習スタイルに合わせて、他の部の授業を受けることなどにより3年での卒業も可能となる。

#### 【平成27年度現在の設置状況】

		東青	西北	中南	上北	下北	三八
3部制	普通科	北斗					八戸中央
	総合学科			尾上総合			

#### 【志願・入学状況】（昼間定時制）



（中学校等卒業予定者の進路志望状況（第一次調査）、学校基本調査より）

■ 昼間定時制の入学者は、募集人数の約9割となっている。

#### 【3部制定時制高校で学ぶことに対する満足度】

満足している	②	25.6%
ほぼ満足している	①	56.8%
あまり満足していない	③	12.1%
全く満足していない		4.5%
無回答		1.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

■ 8割以上の生徒が「満足している」又は「ほぼ満足している」と回答している。



### 【3部制定時制高校に満足している点】（当てはまるもの全て選択）

自分の興味・関心に応じて自由に科目を選択できる	① 55.8%
幅広い分野にわたって多様な選択科目が開設されている	21.1%
進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる	③ 22.6%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会が多い	11.6%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる	7.5%
単位制なので、自分のペースで学習することができる	② 28.6%
自分が所属している部(午前部・午後部・夜間部)だけではなく、他の部の科目も履修することができる	8.0%
自分の生活パターンに合わせた科目履修ができる	③ 22.6%
大学等への進学に対応した学習指導が行われている	1.5%
就職に向けた進路指導が充実している	13.6%
施設・設備が充実している	22.1%
教員や友人などと幅広い人間関係を得ることができる	17.1%
教育相談が充実している	2.0%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発である	8.0%
特に満足している点はない	15.1%
その他	1.0%
無回答	0.5%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「自分の興味・関心に応じて自由に科目を選択できる」が55.8%と最も多く、次いで「単位制なので、自分のペースで学習することができる」が28.6%となっている。

### 【3部制定時制高校に不満な点】（当てはまるもの全て選択）

自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できない	4.5%
開設されている選択科目の分野や数が不十分である	5.5%
進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である	7.0%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会がもっと必要である	4.5%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動がもっと必要である	4.0%
自分のペースで学習することができない	3.5%
大学等への進学が難しい	③ 9.5%
就職が難しい	② 12.6%
施設・設備が充実していない	5.5%
教員や友人などとの人間関係が希薄である	7.0%
仕事と勉強の両立が難しい	2.5%
教育相談が充実していない	2.5%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発でない	6.0%
特に不満な点はない	① 51.3%
その他	3.5%
無回答	2.5%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「特に不満な点はない」が最も多く51.3%であった。次いで、「就職が難しい」（12.6%）、「大学等への進学が難しい」（9.5%）となっている。

### 【高校進学前の3部制定時制高校の理解度】

十分理解していた	② 22.1%
やや理解していた	① 49.3%
あまり理解していなかった	③ 22.1%
全く理解していなかった	6.0%
無回答	0.5%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

7割以上の生徒が「十分理解していた」又は「やや理解していた」と回答している。

【3部制定時制高校の必要性等】

(%)

	回答者数	増やすべきである	現状どおりでよい	減らすべきである	わからない	無回答
高校生	965	22.3	53.8	2.7	19.9	1.3
高校生保護者	955	19.0	60.7	2.2	16.1	2.0
中学生保護者	955	17.7	58.5	2.2	20.2	1.4
小学生保護者	454	18.7	57.0	2.2	20.5	1.5
高校教員	139	20.9	68.3	2.9	5.0	2.9
中学校教員	140	23.6	66.4	2.9	3.6	3.6
小学校教員	132	26.5	57.6	3.0	11.4	1.5
大学等教員	94	26.6	50.0	4.3	18.1	1.1
市町村関係者	69	23.2	63.8	5.8	5.8	1.4
企業	289	24.2	43.3	5.2	26.3	1.0

(高等学校教育に関する意識調査より)

■ いずれの対象も「現状どおりでよい」が最も高い割合となっている。

【3部制定時制高校に対する意見】

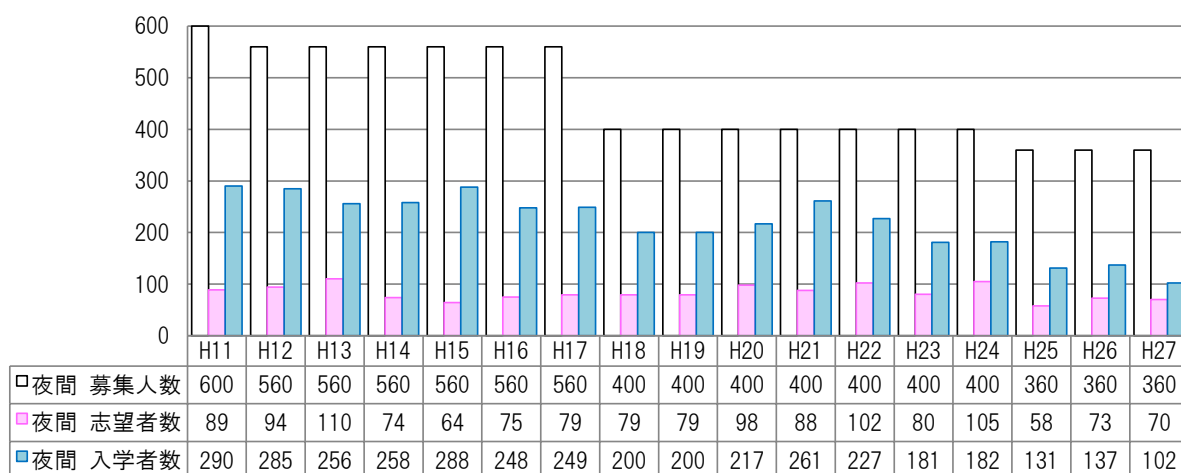
- 中学生・保護者のニーズに合っている。特別な支援を要する生徒に対して配慮している高校もあり、この点でも良いと思う。(県中学校長会意見)

## ②夜間定時制

従前からある定時制課程の形態。概ね午後5時過ぎから午後9時頃までに4時間の授業を行い、生徒は4年で卒業することを基本としつつ、定通併修により3年で卒業も可能となる。

※定通併修 … 定時制の課程に在学している生徒が通信制の課程で一部の科目を履修し、修得した単位を卒業に必要な単位に含めることができる制度。

### 【志願・入学状況】（夜間定時制）



（中学校等卒業予定者の進路志望状況（第一次調査）、学校基本調査より）

■ 夜間定時制の入学者は、募集人数の半数未満となっている。

## (2) 通信制課程

### 【概要】

様々な事情により、全日制・定時制の高等学校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高等学校教育を受ける機会を与える制度。

近年においては、全日制課程からの転・編入学者や過去に高等学校教育を受けることができなかった者など多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えてきている。

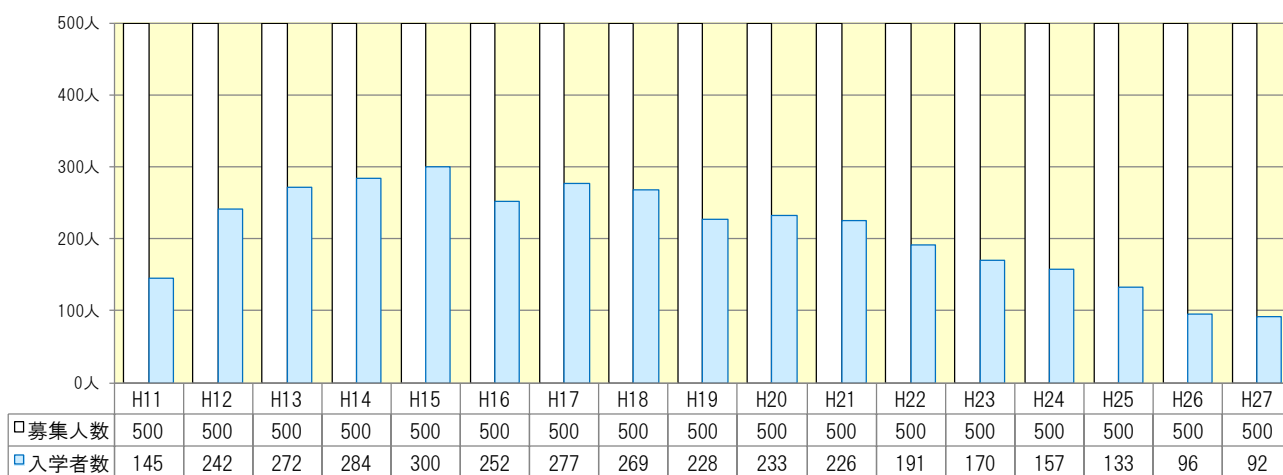
### 【学科改編等の状況】

学校名	見直し前の学科 (募集人数)	見直し後の学科 (募集人数)	実施年度	備考
北斗	普通 (500人)	普通 (200人)	H25	尾上総合高校及び八戸中央高校に設置していた北斗高校通信制課程の分室を H25 からそれぞれ尾上総合高校通信制課程、八戸中央高校通信制課程に再編
尾上総合	—	普通 (150人)		
八戸中央	—	普通 (150人)		

### 【平成27年度現在の設置状況】

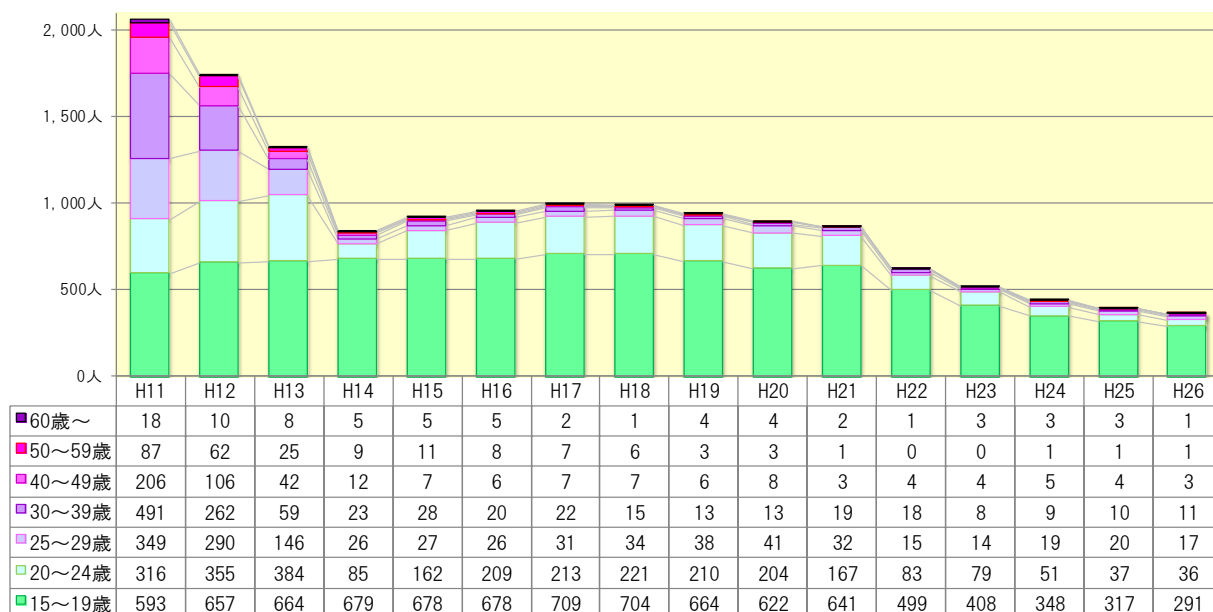
	東青	西北	中南	上北	下北	三八
普通科	北斗		尾上総合			八戸中央

### 【入学状況】



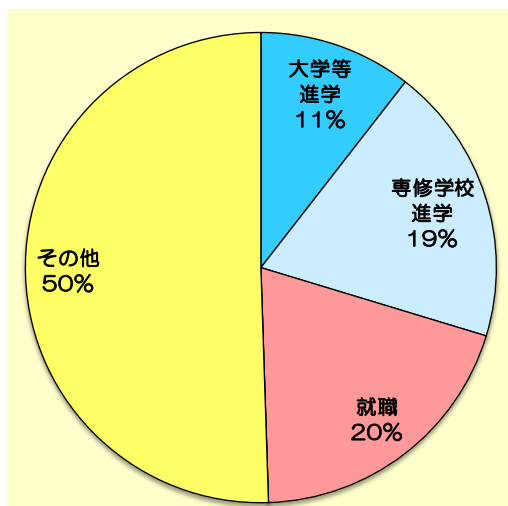
(学校基本調査より)

### (参考：年齢別在籍生徒数の推移)



【進路状況】（平成26年3月卒業者。私立を含む。）

（人）



卒業生数	大学等進学	専修学校進学	就職	一時的な仕事	その他
485	51	93	96	0	245

（学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より）

※「その他」とは、家事手伝いをしている者、外国の大学等に進学した者、進路が未決定の者等。

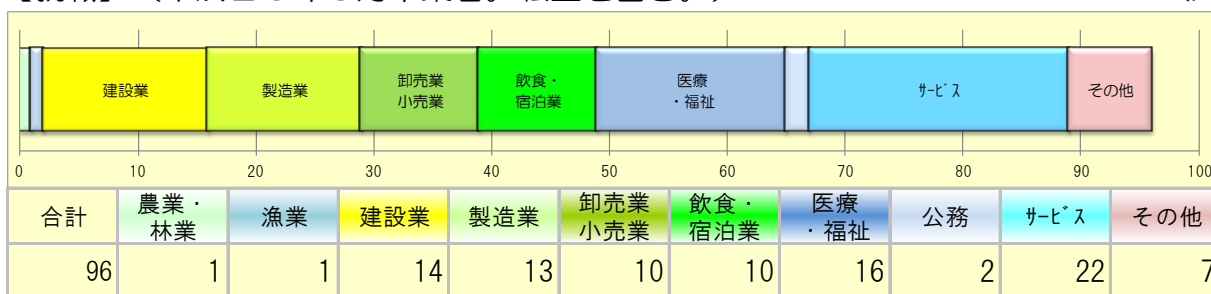
【大学等進学】（平成26年3月卒業者。私立を含む。）

（人）



【就職】（平成26年3月卒業者。私立を含む。）

（人）



※進学しかつ就職した者を含む

現在の通信制課程は、15歳から19歳までの生徒が在籍生徒の8割以上を占めており、20歳以上の生徒は減少傾向にある。

#### 4 多様な教育制度

##### (1) 全日制普通科単位制

###### 【概要】

全日制普通科において学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば、卒業が認められる制度。生徒の選択による主体的な学習を通して、大学進学等の進路希望の達成を図る。

###### 【導入校】

青森東高校（H16～）、八戸北高校（H18～）、弘前南高校（H20～）

###### 【教育課程の例】年次ごとに修得する科目の単位数を表したもの。1単位は週1時間。

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年次	国語総合				世界史A		数学I				数学A	物理基礎	生物基礎	コミュニケーション英語I		英語表現I	体育	保健	音楽I 美術I 書道I	家庭基礎	社会と情報	総合的な学習の時間	ホームルーム活動											
2年次	文型	現代文B	古典B		現代社会	世界史B 地理B		数学II		数学B	地学基礎 化学基礎		コミュニケーション英語II		英語表現II	体育	保健	日本史A	※1	総合的な学習の時間	ホームルーム活動													
	理型	現代文B	古典B	現代社会	地理A	数学II		数学B	化学基礎	化学	生物 物理	コミュニケーション英語II		英語表現II	体育	保健	総合的な学習の時間	ホームルーム活動																
3年次	文型	現代文B	探究古典		地理B	政治・経済 倫理	数学II		数学B	化学 生物 地学	コミュニケーション英語III		英語表現II	体育	※3	総合的な学習の時間	ホームルーム活動																	
	理型	現代文B	古典B	地理B	政治・経済 倫理	数学III 数学B		化学		生物 物理	コミュニケーション英語III		英語表現II	体育	探究数学II 探究数学III	総合的な学習の時間	ホームルーム活動																	

□ 必修科目    □ 自由選択科目    □ 自由選択科目のうち学校設定科目

- ※1 探究現代文、探究日本史、探究地理、探究音楽I、探究美術I、探究書道I、英語購読Iの7科目から1科目選択
- ※2 研究化学、研究生物、研究地学の3科目から2科目選択
- ※3 探究数学、探究音楽II、探究美術II、探究書道II、英語購読II、倫理、政治・経済の7科目から1科目選択

###### 【全日制普通科単位制で学ぶことに対する満足度】

満足している	②	35.3%
ほぼ満足している	①	49.2%
あまり満足していない	③	8.9%
全く満足していない		1.8%
無回答		4.8%

(多様な教育制度等に対するアンケート調査より)

8割以上の生徒が「満足している」又は「ほぼ満足している」と回答している。

###### 【全日制普通科単位制に満足している点】(当てはまるもの全て選択)

自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できる	①	37.7%
幅広い分野にわたって多様な選択科目が開設されている		13.9%
進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる		23.3%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会が多い		2.3%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる		3.0%
単位制なので、自分のペースで学習することができる		4.2%
大学等への進学に対応した学習指導が行われている	②	28.6%
就職に向けた進路指導が充実している		1.5%
施設・設備が充実している		13.1%
教員や友人などと幅広い人間関係を得ることができる		7.9%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発である		7.5%
特に満足している点はない	③	24.5%
その他		2.0%
無回答		0.4%

(多様な教育制度等に対するアンケート調査より)

「自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できる」が37.7%と最も多く、次いで「大学等への進学に対応した学習指導が行われている」が28.6%となっている。

【全日制普通科単位制に不満な点】（当てはまるもの全て選択）

自分の興味・関心や進路希望等に応じた教科・科目を選択できない	6.2%
開設されている選択科目の分野や数が不十分である	8.3%
進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である	③ 10.7%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会がもっと必要である	6.0%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動がもっと必要である	7.0%
自分のペースで学習することができない	② 13.4%
大学等への進学が難しい	1.8%
就職が難しい	3.5%
施設・設備が充実していない	2.4%
教員や友人などとの人間関係が希薄である	2.4%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発でない	2.7%
特に不満な点はない	① 50.9%
その他	3.1%
無回答	5.9%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「特に不満な点はない」が最も多く50.9%であった。次いで、「自分のペースで学習することができない」（13.4%）、「進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である」（10.7%）となっている。

【高校進学前の全日制普通科単位制の理解度】

十分理解していた	③ 13.6%
やや理解していた	① 40.2%
あまり理解していなかった	② 33.1%
全く理解していなかった	12.0%
無回答	1.1%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「十分理解していた」「やや理解していた」を合わせても半数程度となっている。

【全日制普通科単位制の必要性等】

(%)

	回答者数	増やすべきである	現状どおりでよい	減らすべきである	わからない	無回答
高校生	965	21.5	52.5	3.2	21.5	1.3
高校生保護者	955	13.9	53.1	3.4	27.6	2.0
中学生保護者	955	18.7	46.1	3.7	30.1	1.5
小学生保護者	454	20.0	47.8	3.5	26.7	2.0
高校教員	139	14.4	55.4	18.0	11.5	0.7
中学校教員	140	18.6	54.3	11.4	14.3	1.4
小学校教員	132	21.2	49.2	4.5	23.5	1.5
大学等教員	94	25.5	34.0	12.8	27.7	0.0
市町村関係者	69	26.1	46.4	11.6	15.9	0.0
企業	289	21.8	37.0	9.0	30.4	1.7

（高等学校教育に関する意識調査より）

いずれの対象者でも「現状どおりでよい」が最も高い割合となっている。

【全日制普通科単位制に対する意見】

- 中学生・保護者のニーズに合っている。（県中学校長会意見）

## (2) 中高一貫教育

### ①連携型中高一貫教育校

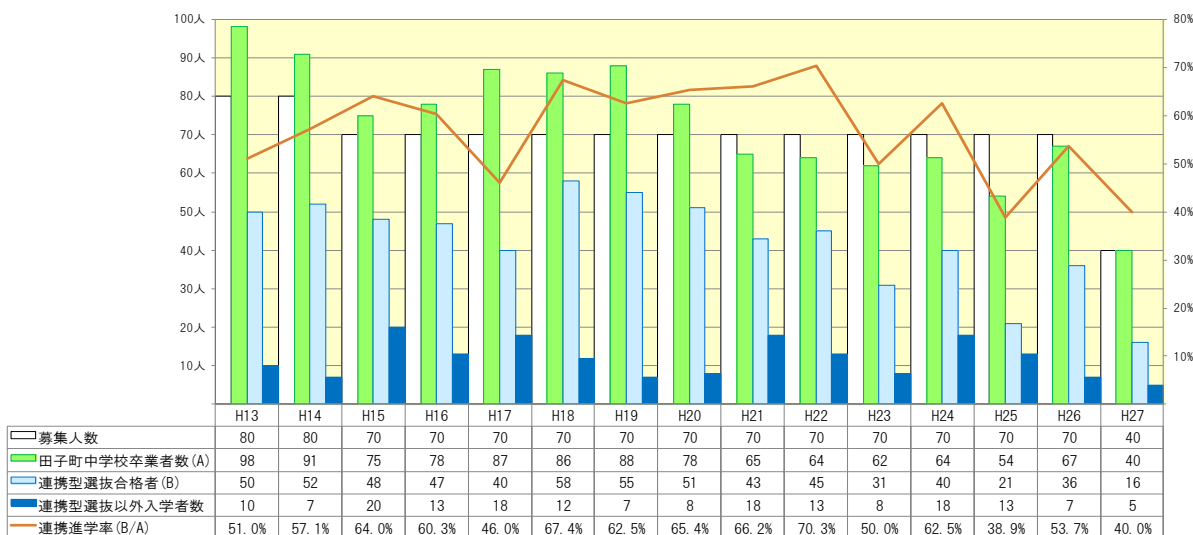
#### 【概要】

市町村立中学校と県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深め、6年間の一貫した教育の中で、特色ある教育活動を幅広く効果的に展開する。

#### 【導入校】

田子高校（H13～）、大湊高校（H14～H25）

#### 【田子高等学校志願・入学状況】



(連携型高等学校の前期・後期募集人員公表資料、学校基本調査より)

※平成13年度導入

#### 【連携型中高一貫教育校で学ぶことに対する満足度】

満足している	②	28.3%
ほぼ満足している	①	47.8%
あまり満足していない	③	15.2%
全く満足していない		8.7%
無回答		0.0%

(多様な教育制度等に対するアンケート調査より)

■ 7割以上の生徒が「満足している」又は「ほぼ満足している」と回答している。

#### 【連携型中高一貫教育に満足している点】(当てはまるもの全て選択)

6年間を見通した計画的・継続的な教育が行われている	8.7%
中学校と高校の教員による交流授業が行われている	10.9%
中学校・高校合同の特別活動や学校行事がある	21.7%
進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる	① 28.3%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方を学ぶ機会が多い	② 23.9%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる	② 23.9%
大学等への進学に対応した学習指導が行われている	15.2%
就職に向けた進路指導が充実している	15.2%
施設・設備が充実している	0.0%
教員や友人などと幅広い人間関係を得ることができる	17.4%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発である	17.4%
特に満足している点はない	① 28.3%
その他	4.3%
無回答	2.2%

(多様な教育制度等に対するアンケート調査より)

■ 「進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる」「特に満足している点はない」がともに28.3%と最も多かった。



【連携型中高一貫教育に不満な点】（当てはまるもの全て選択）

6年間を見通した計画的・継続的な教育が不十分である	2.2%
中学校と高校の教員による交流授業が不十分である	6.5%
中学校・高校合同の特別活動や学校行事が少ない	0.0%
進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である	2.2%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会がもっと必要である	③ 8.7%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動がもっと必要である	2.2%
大学等への進学が難しい	6.5%
就職が難しい	2.2%
施設・設備が充実していない	② 10.9%
教員や友人などとの人間関係が希薄である	4.3%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発でない	6.5%
特に不満な点はない	① 52.2%
その他	4.3%
無回答	4.3%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

■ 「特に不満な点はない」が最も多く52.2%であった。

【高校進学前の連携型中高一貫教育の理解度】

十分理解していた	② 28.3%
やや理解していた	① 37.0%
あまり理解していなかった	③ 19.6%
全く理解していなかった	8.7%
無回答	6.5%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

■ 「十分理解していた」「やや理解していた」を合わせると約65%となっている。

【連携型中高一貫教育の必要性等】

(%)

	回答者数	増やすべきである	現状どおりでよい	減らすべきである	わからない	無回答
高校生	965	21.0	50.7	2.8	23.7	1.8
高校生保護者	955	27.2	39.4	2.7	28.6	2.1
中学生保護者	955	29.5	39.1	2.7	27.2	1.5
小学生保護者	454	32.2	35.9	2.4	28.0	1.5
高校教員	139	17.3	44.6	20.1	15.1	2.9
中学校教員	140	25.7	37.1	17.9	17.9	1.4
小学校教員	132	25.0	47.0	3.8	22.7	1.5
大学等教員	94	50.0	21.3	6.4	22.3	0.0
市町村関係者	69	40.6	39.1	11.6	8.7	0.0
企業	289	39.8	30.1	3.8	24.9	1.4

（高等学校教育に関する意識調査より）

■ 大学等教員、市町村関係者、企業において「増やすべき」の割合が高くなっている。

【連携型中高一貫教育に対する意見】

- 連携型中高一貫教育校は、受検勉強をしなくても高校には入れるという側面があり、学習意欲の低下を招くことがないか不安である。（県小学校長会意見）
- 高校入試の影響を受けずにゆとりある学校生活を送ることができること、6年間の計画的・継続的な教育指導ができること、異学年による活動を通して社会性や豊かな人間性を育成できること等の利点から、中高一貫教育の導入は望ましい。（県小学校長会意見）

## ②併設型中高一貫教育校

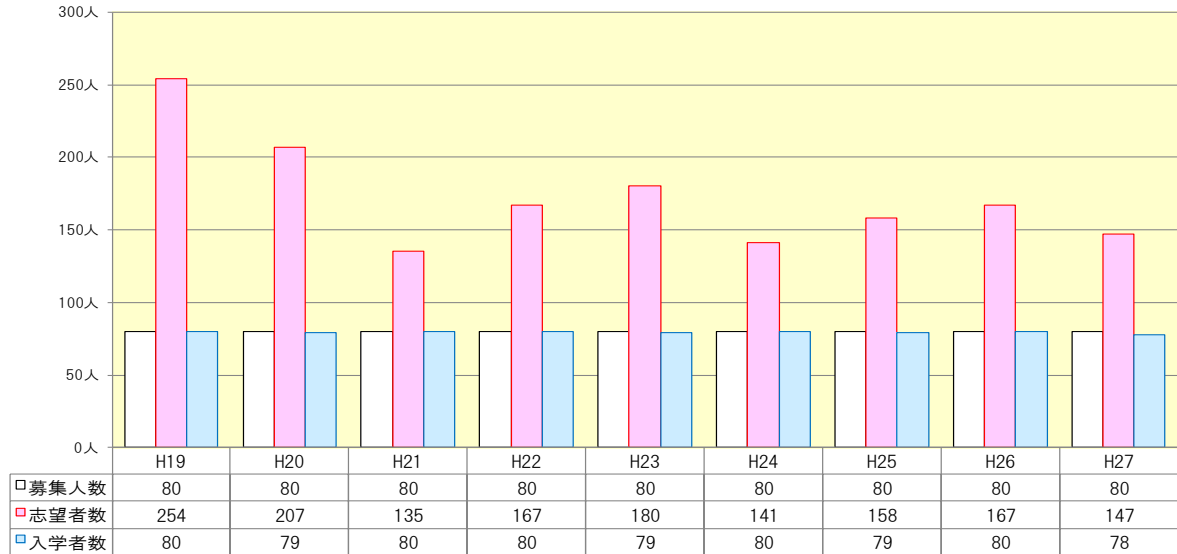
### 【概要】

同一の設置者による中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的かつ継続的な一貫した教育指導を行うことにより、生徒の資質・能力を最大限に伸ばし、進路希望の達成を目指すことを狙いとする。

### 【導入校】

三本木高校（H19～）

### 【三本木高校附属中学校の志願・入学状況】



※平成19年度導入

（学校基本調査より）

### 【併設型中高一貫教育校で学ぶことに対する満足度】

満足している	③ 14.7%
ほぼ満足している	① 61.3%
あまり満足していない	② 18.7%
全く満足していない	5.3%
無回答	0.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

■ 7割以上の生徒が「満足している」又は「ほぼ満足している」と回答している。

### 【併設型中高一貫教育に満足している点】（当てはまるもの全て選択）

6年間を見通した計画的・継続的な教育が行われている	18.7%
中学校と高校の教員による交流授業が行われている	③ 22.7%
中学校・高校合同の特別活動や学校行事がある	② 30.7%
進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる	20.0%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会が多い	8.0%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる	① 34.7%
大学等への進学に対応した学習指導が行われている	12.0%
就職に向けた進路指導が充実している	2.7%
施設・設備が充実している	6.7%
教員や友人などと幅広い人間関係を得ることができる	13.3%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発である	12.0%
特に満足している点はない	21.3%
その他	8.0%
無回答	0.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

■ 「調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる」が34.7%と最も多く、次いで「中学校・高校合同の特別活動や学校行事がある」が30.7%となっている。

【併設型中高一貫教育に不満な点】（当てはまるもの全て選択）

6年間を見通した計画的・継続的な教育が不十分である	② 22.7%
中学校と高校の教員による交流授業が不十分である	9.3%
中学校・高校合同の特別活動や学校行事が少ない	17.3%
進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である	6.7%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会がもっと必要である	9.3%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動がもっと必要である	6.7%
大学等への進学が難しい	4.0%
就職が難しい	6.7%
施設・設備が充実していない	② 22.7%
教員や友人などとの人間関係が希薄である	10.7%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発でない	8.0%
特に不満な点はない	① 28.0%
その他	9.3%
無回答	0.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「特に不満な点はない」がもっと多く28.0%であった。次いで「6年間を見通した計画的・継続的な教育が不十分である」「施設・設備が充実していない」がともに22.7%となっている。

【高校進学前の併設型中高一貫教育の理解度】

十分理解していた	② 18.7%
やや理解していた	① 62.7%
あまり理解していなかった	③ 14.7%
全く理解していなかった	4.0%
無回答	0.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

8割以上の生徒が「十分理解していた」又は「やや理解していた」と回答している。

【併設型中高一貫教育の必要性等】

(%)

	回答者数	増やすべきである	現状どおりでよい	減らすべきである	わからない	無回答
高校生	965	24.1	49.7	2.1	22.6	1.5
高校生保護者	955	27.9	41.0	2.5	26.7	1.9
中学生保護者	955	33.8	37.1	2.0	25.4	1.7
小学生保護者	454	35.7	36.6	1.8	24.7	1.3
高校教員	139	28.1	39.6	14.4	17.3	0.7
中学校教員	140	26.4	45.7	11.4	15.0	1.4
小学校教員	132	27.3	44.7	4.5	22.0	1.5
大学等教員	94	52.1	21.3	4.3	22.3	0.0
市町村関係者	69	37.7	42.0	8.7	10.1	1.4
企業	289	38.1	27.7	4.2	28.4	1.7

（高等学校教育に関する意識調査より）

大学等教員、企業において「増やすべき」の割合が高くなっている。

【併設型中高一貫教育に対する意見】

- 青森県全体、特に十和田市を中心とした上北地区、三八地区の児童にとっては、将来への選択肢が増えて、学習への励みにもなる。（県小学校長会意見）
- 中高一貫教育をスムーズに実践するためには、諸条件等が整っている必要がある。（県中学校長会意見）

### (3) 総合選択制（複数学科設置校）

#### 【概要】

複数の学科を設置し、在籍する学科内の選択科目に留まらず、生徒の興味・関心や進路選択に応じて、他の学科の科目を含め、多様な科目選択を可能とする制度。

#### 【導入校】

弘前実業高校（H14～）

【教育課程の例】年次ごとに修得する科目の単位数を表したもの。1単位は週1時間。

単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
農業経営科	1年	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	生物基礎	体育	保健	芸術	コミュニケーション英語I	家庭基礎	農業と環境	農業情報処理	農業経営	ホームルーム活動															
	2年	国語総合	世界史A	数学I	科学基礎	体育	保健	コミュニケーション英語II	課題研究	農業情報活用	野菜	果樹	草花	農業経営	総合選択	ホームルーム活動														
	3年	現代文B	日本史A	現代社会	数学A	生物	保健体育	コミュニケーション英語II	化学 水循環	農業情報活用	課題研究	食品流通	総合選択	ホームルーム活動																

農業専門科目 総合選択科目

商業科	1年	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	体育	保健	芸術	コミュニケーション英語I	家庭基礎	ビジネス基礎	簿記	情報処理	ホームルーム活動
	2年	国語総合	世界史A	数学I	生物基礎	体育	保健	コミュニケーション英語II	課題研究	財務会計I	原価計算	ビジネス情報	総合選択	ホームルーム活動
	3年	現代文B	日本史	現代社会	数学A	化学基礎	保健体育	コミュニケーション英語II	英語表現I 商品開発 財務会計II 電子商取引	課題研究	総合実践	経済活動と法	総合選択	ホームルーム活動

商業専門科目 総合選択科目

家庭科学科	1年	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	生物基礎	体育	保健	芸術	コミュニケーション英語I	生活デザイン	生活産業基礎	生活産業情報	食文化	ホームルーム活動
	2年	国語総合	世界史A	数学I	化学基礎	体育	保健	コミュニケーション英語II	課題研究	フードデザイン	食文化	総合選択	ホームルーム活動		
	3年	現代文	日本史A	現代社会	数学A	化学 生物	体育	コミュニケーション英語II	課題研究	生活と福祉	フードデザイン	総合選択	ホームルーム活動		

家庭専門科目 総合選択科目

スポーツ科学科	1年	国語総合	地理A	数学I	科学と人間生活	保健	芸術	コミュニケーション英語I	家庭基礎	社会と情報	スポーツ概論I	スポーツII	スポーツIII	スポーツIV	スポーツV	スポーツVI	スポーツ総合演習	ホームルーム活動
	2年	国語総合	世界史A	数学I	生物基礎	保健	コミュニケーション英語II	スポーツ概論II	スポーツI	スポーツII	スポーツIII	スポーツIV	スポーツV	スポーツVI	スポーツ総合演習	総合的な学習の時間	総合選択	ホームルーム活動
	3年	現代文	日本史A	現代社会	数学A	生物	コミュニケーション英語II	スポーツ概論II	スポーツI	スポーツII	スポーツIII	スポーツIV	スポーツV	スポーツVI	スポーツ総合演習	総合的な学習の時間	総合選択	ホームルーム活動

体育専門科目 総合選択科目

※総合選択科目の例

教科	2学年	3学年
農業	生物活用	生物活用
商業	マーケティング、簿記	マーケティング、簿記、ビジネス情報
家庭	被服製作基礎	子どもの発達と保育、家庭の介護と福祉
体育	スポーツトレーニング	スポーツトレーニング
音楽	作曲	
美術	構成	
国語		基本小論文
芸術	書道探究	
英語	中級英語	上級英語I

【総合選択制の高校で学ぶことに対する満足度】

満足している	②	37.6%
ほぼ満足している	①	53.5%
あまり満足していない	③	7.3%
全く満足していない		0.6%
無回答		1.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

9割以上の生徒が「満足している」又は「ほぼ満足している」と回答している。

【総合選択制に満足している点】（当てはまるもの全て選択）

自分の興味・関心に応じて他の学科の科目を選択できる	① 59.9%
進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる	② 20.4%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会が多い	5.4%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動ができる	9.9%
大学等への進学に対応した学習指導が行われている	7.3%
就職に向けた進路指導が充実している	5.4%
施設・設備が充実している	10.8%
教員や友人などと幅広い人間関係を得ることができる	7.0%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発である	11.1%
特に満足している点はない	③ 13.7%
その他	2.5%
無回答	0.0%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「自分の興味・関心に応じて他の学科の科目を選択できる」が59.9%と最も多く、次いで「進路についてじっくりと考え、将来の生き方や進路について目的を持つことができる」が20.4%となっている。

【総合選択制に不満な点】（当てはまるもの全て選択）

他の学科から履修できる科目の数（単位）が少ない	② 13.1%
進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である	6.7%
地域の社会人、職業人の生き方やものの見方、考え方などを学ぶ機会がもっと必要である	2.2%
調査・研究、職場体験など体験的・実践的な学習活動がもっと必要である	5.4%
大学等への進学が難しい	③ 8.9%
就職が難しい	3.2%
施設・設備が充実していない	1.9%
教員や友人などとの人間関係が希薄である	3.5%
ホームルーム活動や部活動等の課外活動が活発でない	1.3%
特に不満な点はない	① 57.6%
その他	5.4%
無回答	1.9%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「特に不満な点はない」が最も多く57.6%であった。次いで、「他の学科から履修できる科目の数（単位）が少ない」（13.1%）、「大学等への進学が難しい」（8.9%）となっている。

【高校進学前の総合選択制の理解度】

十分理解していた	8.3%
やや理解していた	① 36.9%
あまり理解していなかった	② 31.5%
全く理解していなかった	③ 22.0%
無回答	1.3%

（多様な教育制度等に対するアンケート調査より）

「十分理解していた」「やや理解していた」を合わせても半数に満たない。

【総合選択制に対する意見】

- 中学生・保護者のニーズに合っており、幅広く学習できる点では良いと思う。しかし、専門性が薄れる懸念はある。（県中学校長会意見）

【総合選択制の必要性等】

(%)

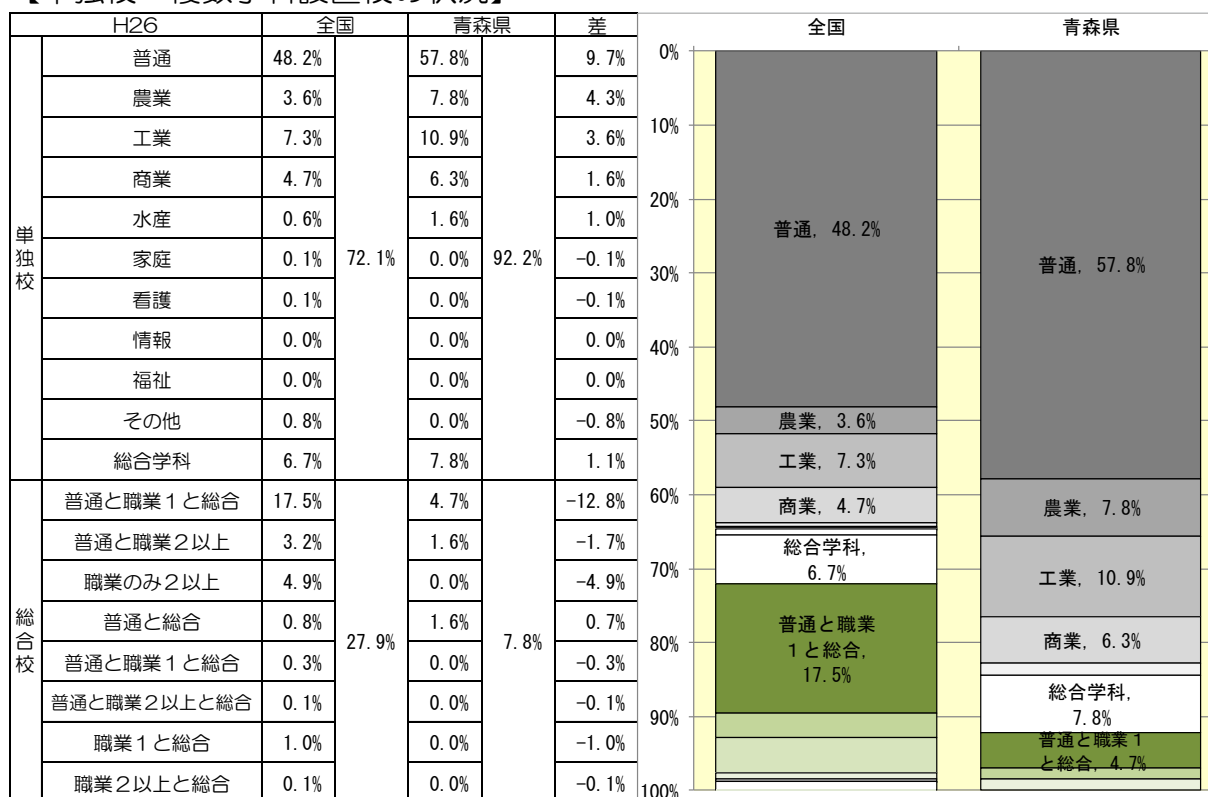
	回答者数	増やすべきである	現状どおりでよい	減らすべきである	わからない	無回答
高校生	965	42.8	36.2	1.0	18.5	1.5
高校生保護者	955	42.7	32.5	1.0	21.6	2.2
中学生保護者	955	51.5	26.4	1.0	19.6	1.5
小学生保護者	454	54.8	22.2	0.2	21.4	1.3
高校教員	139	16.5	44.6	16.5	21.6	0.7
中学校教員	140	35.0	38.6	5.0	20.0	1.4
小学校教員	132	37.1	38.6	1.5	21.2	1.5
大学等教員	94	40.4	20.2	10.6	28.7	0.0
市町村関係者	69	37.7	34.8	13.0	14.5	0.0
企業	289	48.4	24.2	1.7	23.9	1.7

(高等学校教育に関する意識調査)

「増やすべき」は、中学生・小学生保護者では50%を超えているが、高校教員では16.5%となっており、対象者により回答傾向に違いがある。

(4) 複数学科設置校

【単独校・複数学科設置校の状況】



(平成26年度学校基本調査より)

本県では、全国と比較して、普通科、農業科、工業科、商業科、水産科、総合学科などを単独の学科として配置している割合が高い。

【複数学科設置校（総合産業高校・総合技術高校）の必要性等】 (%)

	回答者数	必要である	どちらかといえば必要である	どちらかといえば必要でない	必要でない	わからない	無回答
高校生	965	47.6	32.1	2.9	1.1	14.5	1.8
高校生保護者	955	39.2	40.8	6.1	2.0	9.3	2.6
中学生保護者	955	48.1	37.5	2.4	1.4	9.2	1.5
小学生保護者	454	44.9	41.4	2.0	0.9	9.0	1.8
高校教員	139	18.0	44.6	17.3	10.1	6.5	3.6
中学校教員	140	32.9	49.3	7.9	2.1	5.7	2.1
小学校教員	132	34.8	50.8	3.8	3.0	6.8	0.8
大学等教員	94	29.8	36.2	10.6	8.5	12.8	2.1
市町村関係者	69	29.0	52.2	8.7	4.3	2.9	2.9
企業	289	33.9	40.8	5.9	3.5	13.8	2.1

(高等学校教育に関する意識調査より)

「必要である」「どちらかといえば必要である」を合わせると、高校教員、大学等教員を除いて7割を超えている。

(5) くくり募集

【概要】

柔軟な学科選択に対応するため、学校の実情に応じて複数の学科を一括して募集。

【実施校】

<商業科と情報処理科>

青森商業高校(H22～)、黒石商業高校(H22～)、三沢商業高校(H22～)

<普通科と理数科>

五所川原高校(H26～)

【くくり募集の必要性等】

(%)

	回答者数	増やすべきである	現状どおりでよい	減らすべきである	わからない	無回答
高校生	965	21.2	53.0	1.7	22.7	1.5
高校生保護者	955	28.2	45.1	2.1	22.7	1.9
中学生保護者	955	28.2	44.4	1.6	24.3	1.6
小学生保護者	454	30.2	40.7	2.0	25.6	1.5
高校教員	139	25.2	51.8	10.8	9.4	2.9
中学校教員	140	42.1	40.0	7.1	9.3	1.4
小学校教員	132	36.4	45.5	2.3	14.4	1.5
大学等教員	94	28.7	34.0	6.4	30.9	0.0
市町村関係者	69	36.2	46.4	4.3	11.6	1.4
企業	289	33.2	34.6	4.2	27.0	1.0

(高等学校教育に関する意識調査より)

中学校教員を除いて、「現状どおりでよい」が最も高い割合となっている。

### 第3 学校規模・配置

#### 1 県立高等学校の配置状況

##### ①平成27年4月1日現在の学校配置

- 普通科の高校
- 専門学科の高校
- 総合学科の高校





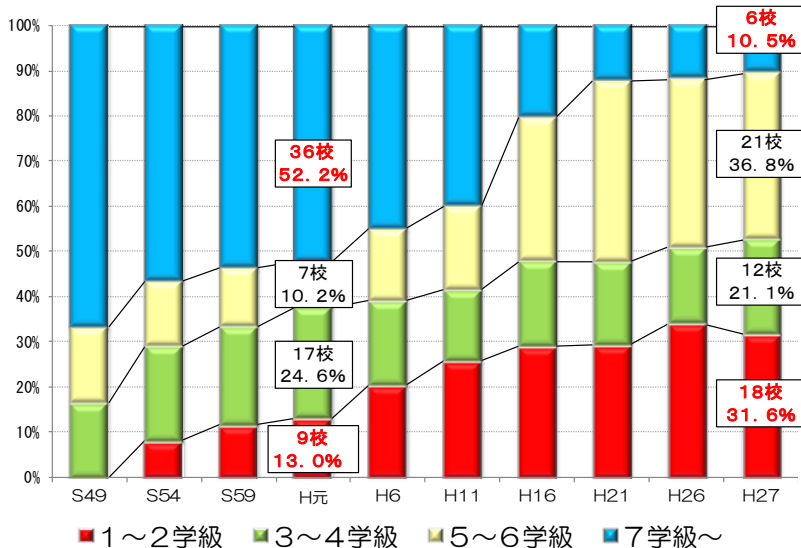
②平成27年度県立全日制高等学校募集学級別一覧

募集学級数	東青	西北	中南	上北	下北	三八	学校数
7学級	青森 青森東 青森工業		弘前工業 弘前実業			八戸工業	6校
6学級	青森西 青森北 青森南 青森商業		弘前 弘前中央 弘前南	三本木 三沢 三本木農業		八戸 八戸東 八戸北	13校
5学級	青森中央	五所川原 五所川原農林		十和田工業	田名部 大湊 むつ工業	八戸西	8校
4学級		木造 五所川原工業	黒石 柏木農業 黒石商業	七戸 百石 三沢商業		八戸水産 八戸商業	10校
3学級				野辺地		名久井農業	2校
2学級	浪岡	鱒ヶ沢 板柳 金木 鶴田		十和田西 六戸 六ヶ所	大間	五戸 三戸	11校
1学級	青東平内 青北今別	木造深浦 中里	弘実藤崎		大湊川内	田子	7校
学校数	11校	10校	9校	11校	5校	11校	57校
学級数	54学級	28学級	45学級	44学級	18学級	46学級	235学級

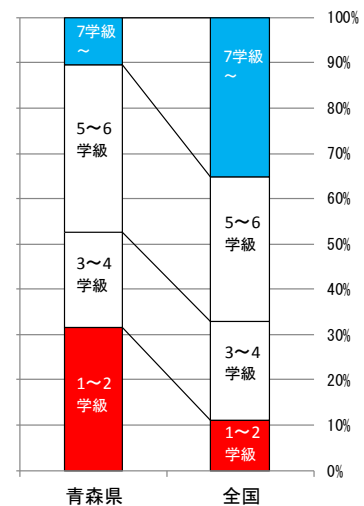
2 学校規模の状況

①学校規模の推移

青森県の学校規模（1学年当たりの学級数）の推移



全国との比較 (H27)



(県教育庁高等学校教育改革推進室調べ)

小規模化の傾向の傾向が続いており、全国と比較すると、1~2学級と7学級以上の割合が逆転している。

②第3次実施計画における望ましい規模の達成状況（平成27年度募集学級数）

	望ましい規模未満 (1～5学級)	望ましい規模 (6学級～)	合計
三市の 普通高校	(5CL)八戸西 (2CL)浪岡	(7CL)青森、青森東 (6CL)青森西、青森北、青森南、 弘前、弘前中央、弘前南、 八戸、八戸東、八戸北	13校
	2校 15%	11校 85%	
その他の 高校	(3CL)野辺地、名久井農業 (2CL)金木、鱒ヶ沢、鶴田、板柳、 十和田西、六戸、六ヶ所、 大間、三戸、五戸 (1CL)青東平内、青北今別、 木造深浦、中里、 弘実藤崎、大湊川内、 田子	(7CL)青森工業、弘前工業、 弘前実業、八戸工業 (6CL)青森商業、三本木、三沢、 三本木農業 (5CL)青森中央、五所川原、 五所川原農林、 十和田工業、田名部、 大湊、むつ工業、 (4CL)木造、五所川原工業、黒石、 柏木農業、黒石商業、七戸、 百石、三沢商業、八戸水産、 八戸商業	44校
	19校 43%	25校 57%	
合計	21校 37%	36校 63%	57校

③1学年何学級くらいが望ましいか。 (%)

	調査年度	回答者数	1～2学級	3～5学級	6～8学級	9学級～	わからない	無回答
中学生	H26	954	9.7	65.9	10.7	1.7	10.4	1.6
	H9	998	6.9	47.9	27.3	4.0	13.6	0.3
高校生	H26	965	3.5	52.6	33.2	1.7	7.8	1.2
	H9	998	4.8	36.9	40.3	10.3	7.5	0.2
高校生 保護者	H26	955	2.6	54.6	29.0	0.2	11.0	2.6
	H9	983	4.8	50.8	25.6	3.1	14.3	1.4
中学生 保護者	H26	955	3.5	56.9	26.4	0.7	9.9	2.6
	H9	969	3.8	55.7	24.9	2.6	12.5	0.5
小学生 保護者	H26	454	4.8	56.8	20.9	0.0	14.3	3.1
	H9	493	4.3	61.3	19.1	1.6	13.6	0.2
高校 教員	H26	139	0.7	63.3	32.4	0.0	2.9	0.7
	H9	153	0.7	62.1	33.3	1.3	2.0	0.7
中学校 教員	H26	140	0.0	49.3	41.4	1.4	6.4	1.4
	H9	127	0.8	57.5	35.4	0.0	6.3	0.0
小学校 教員	H26	132	0.0	45.5	43.9	2.3	7.6	0.8
	H9	127	2.4	59.8	26.0	1.6	10.2	0.0
大学等 教員	H26	94	4.3	52.1	17.0	2.1	22.3	2.1
	H9	114	2.6	60.5	15.8	0.0	19.3	1.8
市町村 関係者	H26	69	10.1	62.3	21.7	0.0	5.8	0.0
	H9	120	10.0	65.8	19.2	0.0	4.2	0.8
企業	H26	289	1.7	56.4	22.8	0.3	17.3	1.4
	H9	310	4.5	61.3	19.4	1.0	12.9	1.0

(高等学校教育に関する意識調査より)

「3～5学級」がいずれの対象者でも最も高い割合となっている。「6～8学級」の割合は、高校生保護者、中学生保護者、小学生保護者、中学校教員、小学校教員、大学等教員、市町村関係者、企業において、平成9年度調査よりも、平成26年度調査が高くなっている。

④学校規模による入学状況等の違い

【入学状況（充足率）】

学校規模	全校生徒数 (募集定員)	入学状況（充足率）					
		H21	H22	H23	H24	H25	H26
1学級規模 (40人学級)	120人	92.5%	81.3%	76.5%	86.5%	81.3%	63.0%
2学級規模 ～3学級規模 (35人学級)	210人 ～315人	96.0%	93.2%	91.7%	90.8%	89.7%	89.7%
4学級規模 ～5学級規模 (40人学級)	480人 ～600人	99.2%	97.3%	96.4%	97.1%	96.8%	96.0%
6学級規模 ～7学級規模 (40人学級)	720人 ～840人	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(平成26年度学校基本調査を基に高等学校教育改革推進室において作成)

【卒業者の進路状況】

学校規模	平成26年3月卒業生（平成23年4月入学者）の進路状況			
	■ 大学等	■ 専修学校	■ 就職	□ その他
1学級規模 (40人学級)	10%	33%	53%	5%
2学級規模 ～3学級規模 (35人学級)	19%	31%	48%	2%
4学級規模 ～5学級規模 (40人学級)	46%	19%	31%	4%
6学級規模 ～7学級規模 (40人学級)	74%	17%	4%	5%

(高等学校等卒業者の進路状況(平成26年5月1日現在)を基に高等学校教育改革推進室において作成)

【科目開設等の状況】

学校規模	地理歴史、公民 の開設科目数	理科の 開設科目数	運動部活動数	文化部活動数
1学級規模 (40人学級)	3.5科目	3.8科目	3.3部	3.5部
2学級規模 ～3学級規模 (35人学級)	5.5科目	6.3科目	7.8部	4.3部
4学級規模 ～5学級規模 (40人学級)	7.8科目	6.8科目	12.0部	9.5部
6学級規模 ～7学級規模 (40人学級)	8.5科目	8.5科目	15.6部	11.7部

(平成26年度学校要覧を基に高等学校教育改革推進室において作成)

### ⑤学級編制の弾力化の状況

【平成27年度の本県における学級編制の弾力化の状況（全日制課程）】

	学校数	学級数	募集人数
30人学級 35人学級	22校(39.6%)	78学級(33.2%)	2,725人(30.3%)
40人学級	35校(61.4%)	157学級(66.8%)	6,280人(69.7%)
合計	57校	235学級	9,005人

【平成27年度の全国における学級編制の弾力化の状況（全日制課程）】

	都道府県数	備考
弾力化実施	25都府県(53.2%)	東北では、青森県、秋田県、福島県の3県
弾力化未実施	22道県(46.8%)	

(県教育庁高等学校教育改革推進室調べ)

本県における学級編制の弾力化は、学校数にして約4割、募集人数にして約3割となっている。全国的には約半数の都府県で学級編制の弾力化が行われている。

## 3 通学に関する意識

①どのような通学範囲にある高校に入学したいか。(%)

区分	中学生			中学生保護者			小学生保護者		
	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部
回答者数(人)	882	678	203	916	701	212	419	313	103
徒歩や自転車で通学できる範囲にある高校	52.2	62.7	17.2	44.2	52.2	17.9	39.4	47.0	15.5
電車や路線バスで通学できる範囲にある高校	31.7	24.0	57.6	40.0	33.5	61.3	41.5	35.5	60.2
スクールバスや自家用車送迎で通学できる範囲にある高校	10.8	8.7	17.7	8.7	7.8	11.3	10.0	10.5	8.7
自宅から通学できる範囲にはないが、下宿をしてでも通いたい高校	3.3	2.5	5.9	2.9	1.7	7.1	5.7	4.5	9.7
無回答	2.0	2.1	1.5	4.1	4.7	2.4	3.3	2.6	5.8

(高等学校教育に関する意識調査より)

「徒歩や自転車で通学できる範囲」「電車や路線バスで通学できる範囲」の2項目で8割以上となっている。市部では「徒歩や自転車」が、郡部では「電車や路線バス」が最も高い割合となっている。

②夏季の主な通学方法は何か。

(複数回答、%)

区分	高校生			高校生保護者		
	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部
回答者数(人)	965	693	259	955	701	237
徒歩	19.5	17.2	24.3	15.5	13.3	21.9
自転車	62.9	70.9	43.6	61.5	69.2	41.8
電車	20.5	14.1	35.9	20.4	15.0	35.4
路線バス	14.8	14.0	16.2	18.7	18.4	20.3
スクールバス	4.9	5.1	4.6	3.4	3.3	3.8
自家用車送迎	25.9	22.5	35.1	31.1	27.1	43.5
その他	0.5	0.0	1.9	0.4	0.3	0.8
無回答	0.8	0.7	0.8	0.9	0.4	0.4

(高等学校教育に関する意識調査より)

「自転車」での通学が6割以上だが、市部と郡部で割合に大きな差がある。

③通学に要する(許容できる)時間は片道どれくらいか。

(%)

区分	高校生			高校生保護者			中学生保護者			小学生保護者		
	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部
回答者数(人)	965	693	259	955	701	237	916	701	212	419	313	103
30分未満	54.5	57.9	46.7	57.1	62.5	43.5	33.7	37.5	21.2	30.1	33.9	17.5
30分以上 1時間未満	36.4	35.4	39.0	34.1	30.8	44.7	58.8	56.1	67.9	60.6	58.5	68.0
1時間以上 1時間30分未満	7.0	5.5	10.4	6.2	4.7	9.7	4.6	3.1	9.4	7.4	6.1	11.7
1時間30分以上 2時間未満	1.0	0.4	2.7	1.3	1.1	1.3	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
2時間以上	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.5	0.3	1.0
無回答	0.9	0.9	0.8	1.4	0.9	0.8	2.3	2.7	0.9	1.4	1.3	1.9

(高等学校教育に関する意識調査より)

「30分未満」「30分以上1時間未満」の2項目で9割以上を占めている。

④どのような通学支援が必要か。

(複数回答、%)

区分	高校生保護者			中学生保護者			小学生保護者		
	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部	合計	市部	郡部
回答者数(人)	955	701	237	916	701	212	419	313	103
スクールバスの運行	56.1	59.3	49.8	67.1	66.0	70.8	61.6	62.0	61.2
寄宿舎の設置・運営	7.7	6.3	11.8	6.4	5.3	10.4	7.6	4.5	16.5
奨学金等の拡充	20.1	18.5	24.5	42.5	41.7	44.8	46.8	46.0	47.6
通学支援の必要はない	22.9	22.3	24.5	8.0	9.0	4.7	9.1	10.2	5.8
その他	6.8	6.7	7.2	4.8	4.1	7.1	2.9	2.9	2.9
無回答	2.6	2.1	2.1	2.7	3.3	0.9	3.3	2.9	2.9

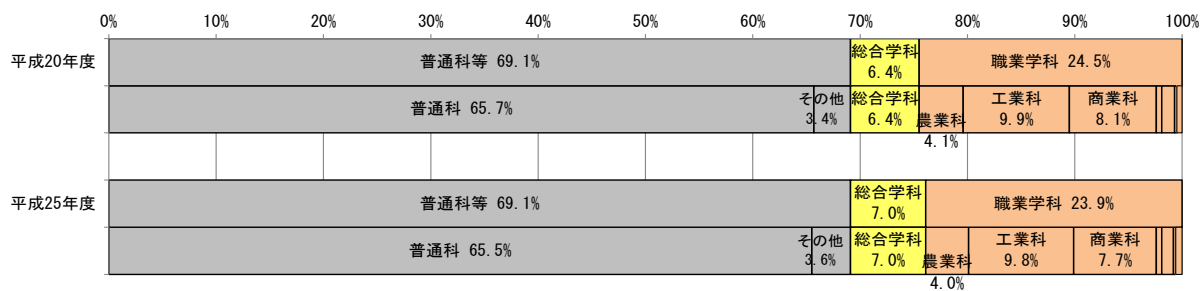
(高等学校教育に関する意識調査より)

「スクールバスの運行」が全対象者で最も高い割合となっている。

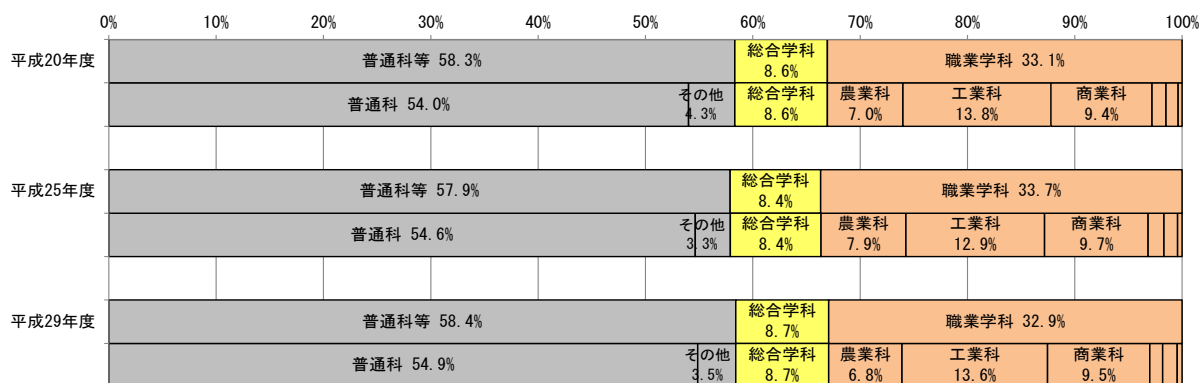
## 4 学校配置の状況

### (1) 普通科等・職業教育を主とする専門学科・総合学科の割合

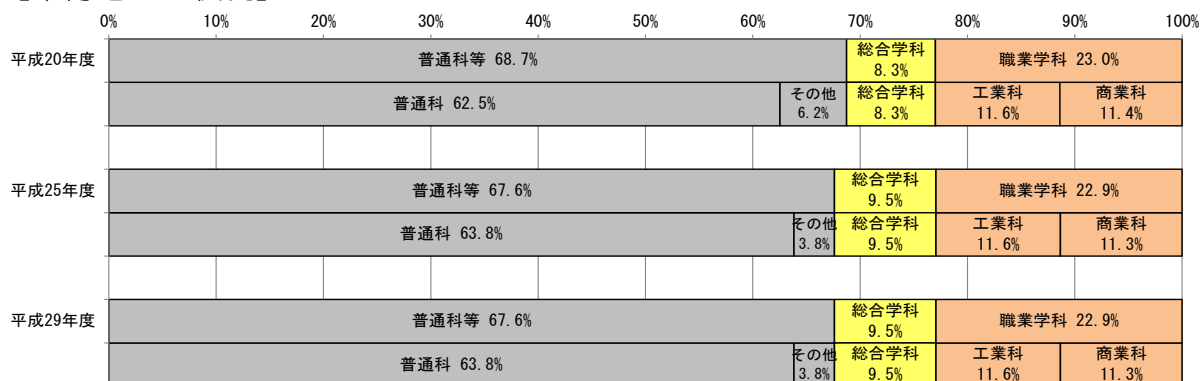
#### 【全国の状況】



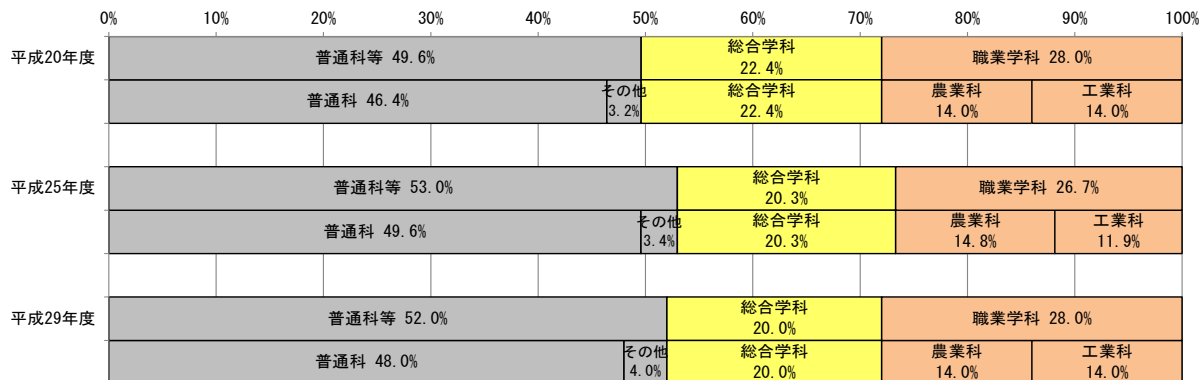
#### 【青森県の状況】



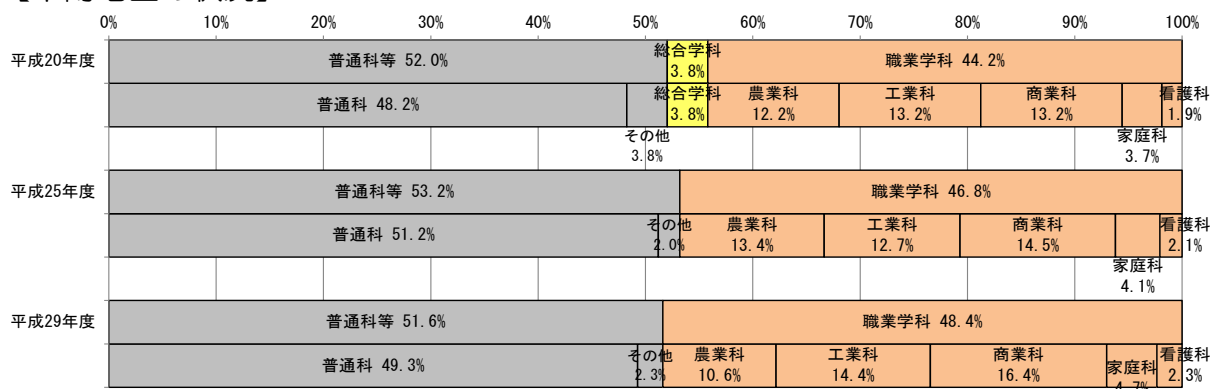
#### 【東青地区の状況】



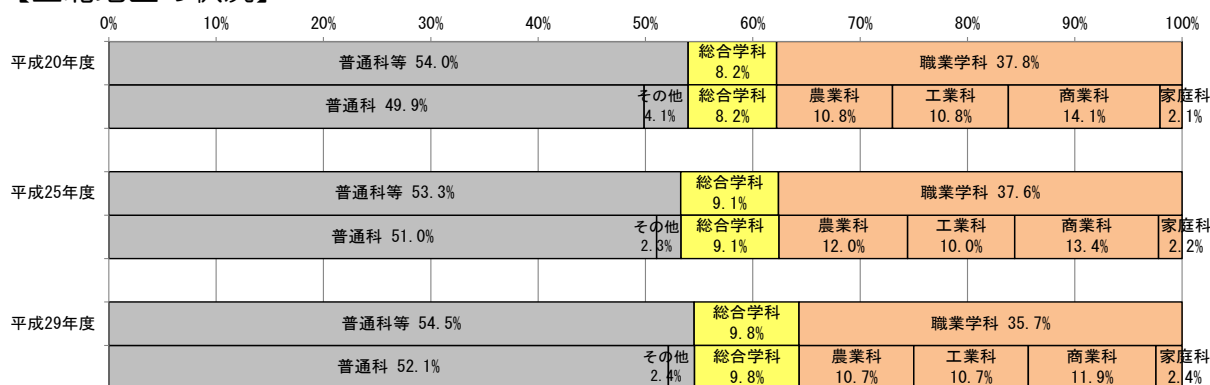
#### 【西北地区の状況】



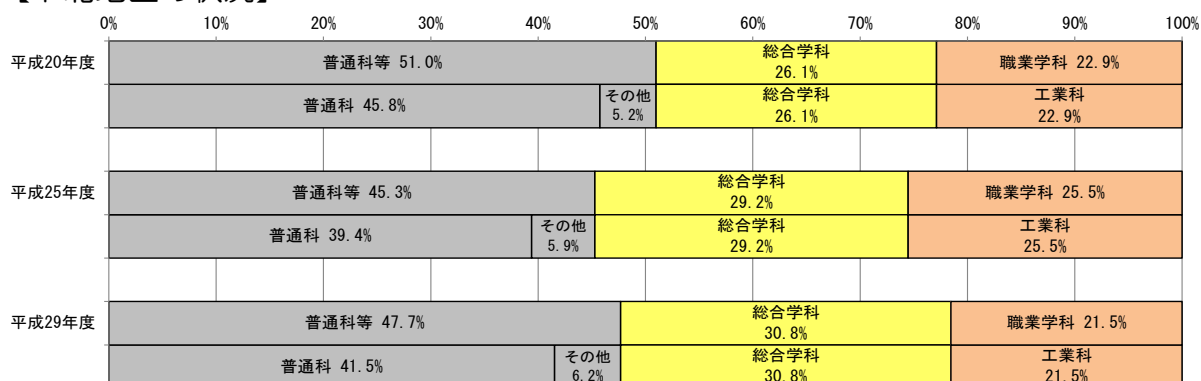
### 【中南地区の状況】



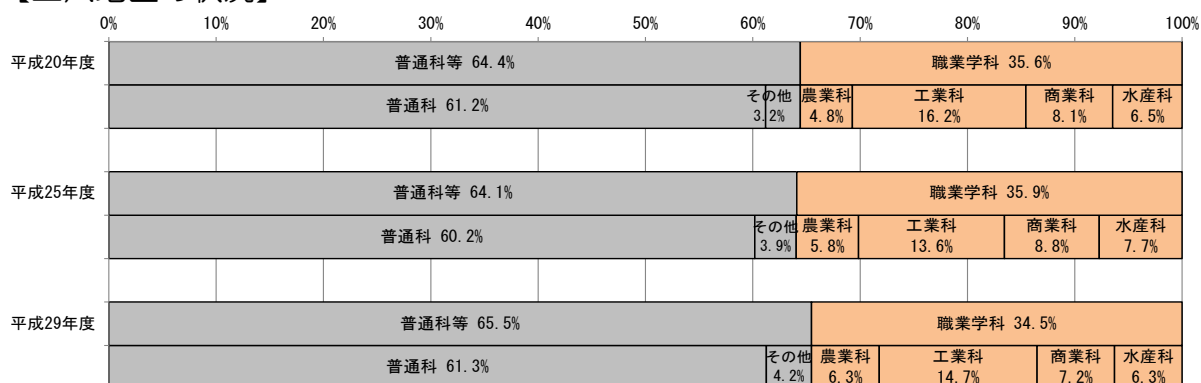
### 【上北地区の状況】



### 【下北地区の状況】



### 【三八地区の状況】



本県は全国平均と比べて職業学科の割合が高い傾向がある。また、生徒数が少ない西北地区、下北地区では、相対的に総合学科の割合が高くなっている。

## (2) 校舎制導入校の状況

### 【概要】

第2次実施計画において、町村部の1学年3学級以下の学校については、地元生徒の志願・入学状況を踏まえ学級減等を行い、1学級募集とする学校は、全学年が1学級規模となった段階で校舎制に切り替えることとした。

本校舎と校舎制導入校との間で芸術教室の合同開催や合同職員会議のほか、教育成果発表会の合同バス輸送などを実施している事例がある。

### 【導入校・1次志望倍率・入学者数】

	H19		H20		H21		H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数	1次 倍率	入学 者数
青森東高校 平内校舎 (普通科)			学級減				校舎制移行											
	0.60	66	0.75	34	0.78	40	0.83	39	0.35	32	0.63	36	0.30	27	0.20	28	0.43	26
青森北高校 今別校舎 (普通科)	校舎制移行																	
	0.48	34	0.60	25	0.40	34	0.18	21	0.33	20	0.50	21	0.38	24	0.20	5	0.10	5
五所川原高校 東校舎 (普通科)	校舎制移行		募集停止		閉校													
	0.50	29																
木造高校 深浦校舎 (総合学科)	校舎制移行																	
	0.63	29	0.63	27	0.43	24	0.48	20	0.38	26	0.55	28	0.43	17	0.70	29	0.33	21
弘前南高校 大鱗校舎 (普通科)	校舎制移行						募集停止		閉校									
	0.43	30	0.55	23	0.38	35	0.53	35										
弘前実業高校 藤崎校舎 (農業科)	校舎制移行																	
	0.83	40	1.13	40	0.60	40	0.80	40	0.83	40	0.53	40	0.68	40	1.05	40	0.53	34
七戸高校 八甲田校舎 (普通科)	校舎制移行		募集停止		閉校													
	0.53	36	0.20	23														
田名部高校 大畑校舎 (普通科)	校舎制移行										募集停止		閉校					
	0.80	38	0.93	40	0.90	40	1.28	40	0.88	38	0.63	40						
大湊高校 川内校舎 (普通科)	校舎制移行																	
	1.10	40	0.83	40	0.68	36	0.45	23	0.43	24	0.70	40	0.78	39	0.60	40	0.65	40
八戸北高校 南郷校舎 (普通科)	校舎制移行		学級減				校舎制移行										募集停止	
	0.57	54	1.03	40	0.58	36	0.68	34	0.48	38	0.55	36	0.68	40	0.45	33		

※1次倍率 … 中学校等卒業予定者の進路志望状況（第一次調査）の倍率

（学校基本調査及び中学校等卒業予定者の進路志望状況（第一次調査）より）

中学校卒業予定者の進路志望状況（第一次調査）では、希望者が募集人数の半数に満たない校舎制導入校があり、また、入学者数が募集人数（40人）を大幅に下回っている校舎制導入校もある。



### (3) 統合の状況

#### 【統合等に対する意識】

(%)

	回答者数	ある程度の規模を維持するためには高校を統廃合した方がよい	小規模化したとしてもできるだけ高校を残した方がよい	わからない	無回答
高校生	965	23.0	50.6	24.7	1.8
高校生保護者	955	26.2	57.5	13.8	2.5
中学生保護者	955	29.5	54.3	13.6	2.5
小学生保護者	454	30.8	49.8	16.3	3.1
高校教員	139	51.8	46.0	1.4	0.7
中学校教員	140	50.7	42.9	5.7	0.7
小学校教員	132	45.5	47.0	6.8	0.8
大学等教員	94	52.1	35.1	11.7	1.1
市町村関係者	69	52.2	42.0	4.3	1.4
企業	289	55.0	33.2	10.7	1.0

(高等学校教育に関する意識調査より)

■ 高校生、小学生・中学生・高校生保護者、小学校教員は「小規模化したとしてもできるだけ高校を残した方がよい」の割合が高く、中学校・高校・大学等教員、市町村関係者、企業は「ある程度の規模を維持するためには高校を統廃合した方がよい」の割合が高い。

#### 【望ましい統合の方法】

(%)

	回答者数	いくつかの統合対象の高校をそのうちの1つの高校に統合し他の統合対象の高校は閉校する	統合対象の高校を全て閉校しそれらを統合した新しい高校を設置する	既存の高校に統合するか新しい高校を設置するかは個別に判断する	その他	わからない	無回答
高校生保護者	955	12.4	5.5	47.0	2.1	19.6	13.4
中学生保護者	955	10.5	5.2	51.8	1.2	18.5	12.8
小学生保護者	454	10.1	4.4	52.2	0.4	21.6	11.2
高校教員	139	10.1	8.6	69.1	2.2	3.6	6.5
中学校教員	140	19.3	5.0	54.3	0.0	2.9	18.6
小学校教員	132	18.2	5.3	57.6	2.3	4.5	12.1
大学等教員	94	9.6	7.4	60.6	1.1	13.8	7.4
市町村関係者	69	11.6	8.7	53.6	10.1	5.8	10.1
企業	289	17.6	10.0	53.3	2.1	11.4	5.5

(高等学校教育に関する意識調査より)

■ いずれの対象者でも「個別に判断」が最も高い割合となっている。

#### 第4 高校の満足度等

① 全体（回答者数：H26 965人、H9 998人）

(%)

調査年度	教科の内容		授業の進め方		生徒指導・進路指導		部活動		学校行事	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9
満足している	37.4	16.5	23.6	8.9	24.2	7.7	39.7	24.6	41.8	24.3
どちらかといえば満足している	39.3	33.9	37.6	25.2	29.0	15.3	24.9	18.5	32.3	28.3
どちらともいえない	16.9	35.5	27.6	38.7	31.6	47.5	24.4	35.5	13.6	26.1
どちらかといえば満足していない	3.2	7.0	6.0	16.1	8.6	14.4	5.2	7.7	6.9	10.0
満足していない	2.5	7.1	4.6	11.1	5.7	14.9	5.3	13.4	4.9	11.2
無回答	0.7	0.0	0.6	0.0	0.8	0.1	0.6	0.2	0.5	0.1
満足(計)	76.7	50.4	61.2	34.1	53.3	23.0	64.6	43.2	74.1	52.6
満足していない(計)	5.7	14.1	10.6	27.3	14.3	29.4	10.5	21.1	11.8	21.2

(高等学校教育に関する意識調査より)

② 普通科在学（回答者数：H26 524人、H9 599人）

(%)

調査年度	教科の内容		授業の進め方		生徒指導・進路指導		部活動		学校行事	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9
満足している	39.7	17.5	27.7	10.5	26.5	9.3	42.6	27.0	45.0	21.9
どちらかといえば満足している	40.3	33.1	39.1	25.2	31.9	16.7	25.2	16.7	31.5	26.5
どちらともいえない	14.7	35.1	24.6	37.2	29.0	45.4	22.1	35.6	13.4	24.2
どちらかといえば満足していない	2.3	6.3	3.8	15.0	8.6	15.2	5.2	7.3	6.1	12.4
満足していない	2.5	8.0	4.4	12.0	3.4	13.4	4.6	13.2	3.6	14.9
無回答	0.6	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.4	0.2	0.4	0.2
満足(計)	80.0	50.6	66.8	35.7	58.4	26.0	67.8	43.7	76.5	48.4
満足していない(計)	4.8	14.3	8.2	27.0	12.0	28.6	9.8	20.5	9.7	27.3

(高等学校教育に関する意識調査より)

③ 普通科系専門学科在学（回答者数：H26 47人、H9 31人）

(%)

調査年度	教科の内容		授業の進め方		生徒指導・進路指導		部活動		学校行事	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9
満足している	36.2	16.1	19.1	12.9	23.4	19.4	40.4	22.6	38.3	29.0
どちらかといえば満足している	34.0	41.9	25.5	45.2	23.4	6.5	19.1	12.9	38.3	35.5
どちらともいえない	14.9	29.0	29.8	29.0	34.0	54.8	27.7	38.7	10.6	19.4
どちらかといえば満足していない	10.6	9.7	12.8	9.7	8.5	12.9	8.5	12.9	6.4	3.2
満足していない	4.3	3.2	12.8	3.2	10.6	6.5	4.3	12.9	6.4	12.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
満足(計)	70.2	58.0	44.6	58.1	46.8	25.9	59.5	35.5	76.6	64.5
満足していない(計)	14.9	12.9	25.6	12.9	19.1	19.4	12.8	25.8	12.8	16.1

(高等学校教育に関する意識調査より)

④ 職業教育を主とする専門学科在学（回答者数：H26 316人、H9 343人） (%)

調査年度	教科の内容		授業の進め方		生徒指導・進路指導		部活動		学校行事	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9
満足している	37.3	13.7	18.7	5.2	22.8	3.8	32.6	21.0	37.3	28.0
どちらかといえば満足している	37.0	35.0	35.4	23.0	23.7	13.1	27.2	22.4	32.3	30.6
どちらともいえない	19.3	37.3	31.3	42.6	34.5	50.4	26.9	34.4	13.9	29.4
どちらかといえば満足していない	3.2	7.9	9.5	18.4	8.9	14.0	5.1	8.2	9.2	6.7
満足していない	2.2	6.1	4.1	10.8	8.9	18.4	7.3	13.7	6.6	5.2
無回答	0.9	0.0	0.9	0.0	1.3	0.3	0.9	0.3	0.6	0.0
満足(計)	74.3	48.7	54.1	28.2	46.5	16.9	59.8	43.4	69.6	58.6
満足していない(計)	5.4	14.0	13.6	29.2	17.8	32.4	12.4	21.9	15.8	11.9

(高等学校教育に関する意識調査より)

⑤ 総合学科在学（回答者数：H26 75人、H9 20人） (%)

調査年度	教科の内容		授業の進め方		生徒指導・進路指導		部活動		学校行事	
	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9	H26	H9
満足している	24.0	30.0	20.0	15.0	14.7	5.0	49.3	20.0	41.3	20.0
どちらかといえば満足している	45.3	30.0	44.0	35.0	36.0	30.0	17.3	15.0	36.0	30.0
どちらともいえない	22.7	30.0	30.7	30.0	36.0	45.0	26.7	45.0	14.7	35.0
どちらかといえば満足していない	5.3	5.0	2.7	15.0	8.0	0.0	4.0	5.0	2.7	10.0
満足していない	2.7	5.0	2.7	5.0	5.3	20.0	2.7	15.0	5.3	5.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
満足(計)	69.3	60.0	64.0	50.0	50.7	35.0	66.6	35.0	77.3	50.0
満足していない(計)	8.0	10.0	5.4	20.0	13.3	20.0	6.7	20.0	8.0	15.0

(高等学校教育に関する意識調査より)

「④全体」では、平成9年調査に比べ、全ての項目で「満足(計)」の割合が増加し、5割を超えた。